



就実大学
就実短期大学

研究シーズ集

2023
No.3

就実大学・就実短期大学
産学官地域連携センター

就実大学・就実短期大学 研究シーズ集発行についてのご挨拶

就実大学・就実短期大学は、地域との交流や連携、人的・知的資源を活用して、活気あふれる人づくり、地域づくりに貢献することを目指しています。特に、子育て支援、防災支援、地域交流事業への積極的参加、公開講座や出張講義、卒後研修など、大学の知的資源や技術力を有効活用して、教育研究成果を広く社会に還元するとともに、地域の産業界や自治体、他大学との連携による共同研究・共同事業を推進し、地域活性化に貢献し、また、地方創生に資する大学及び各学部の強みや特色を活かし、地域から信頼される大学となることを目指しています。

そのため、本学の持つ人的・知的資源を地域の皆様方に知っていただき、各分野でご活用いただくことを目的として2021年以来「研究シーズ集」を発行しており、今回でNo.3となりました。今回はこれまで以上に多くの教職員の協力を得て、71件のシーズを掲載することができました。まだ全ての人的・知的資源を掲載できているわけではありませんが、今後とも本学の人的・資源を順次追加し公開していく所存でございます。

地域の発展のために是非ご活用いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

産学官地域連携センター長 見尾光庸

目 次

人文科学部

中西 裕	なかにし ゆたか	ICT の教育への実践的応用・メディア表現教育など	1
岡本 悦子	おかもと えつこ	多分野における創作教育の指導法の比較と改善に向けた基礎的研究 即興を中心に据えたダンス授業における観察言語化が大学生の自己理解に及ぼす影響	2
松本 潤一郎	まつもと じゅんいちろう	〈無限〉概念を起点とした哲学の構築	3
浅利 尚民	あさり なおみ	日本の文化財（美術工芸品） 旧岡山藩主池田家の宝物管理・家政運営	4
瓦井 裕子	かわらい ゆうこ	『源氏物語』と平安時代和歌	5
鯨井 綾希	くじらい あやき	現代日本語の語彙体系・文章構造に関する定量化と計量分析	6
竹内 洪介	たけうち こうすけ	軍記を題材とした文芸と権力の相関関係	7
和栗 了	わぐり りょう	マーク・トウェインの作品と生涯の研究	8
中野 修一	なかの しゅういち	コミュニケーション能力育成を目指した英語教育	9
武部 好子	たけべ よしこ	芸術と通訳・翻訳のかかわり	10
井上 あえか	いのうえ あえか	インド・パキスタン現代史および動向分析、現代のイスラームなど	11
苅米 一志	かりこめ ひとし	日本中世の民衆と寺社・宗教	12
鈴木 琢郎	すずき たくろう	歴史考古学（遺跡の歴史学的分析） 史料学（出土文字資料の解読・分析）	13
小林 亜沙美	こばやし あさみ	ヨーロッパ中世史、ローマ教皇と教皇庁の歴史、異端審問、中世ラテン語古文書学	14
松崎 博子	まつざき ひろこ	地域性および時代背景による図書館機能の差異と変遷	15
中山 穂孝	なかやま ほたか	近現代における観光地の形成と発展	16

教育学部

鈴木 国威	すずき くにたけ	側性における遺伝と環境要因の推定 潜在的知覚と運動処理との関連性	17
石原 みちる	いしはら みちる	スクールカウンセリングにおける教師に対するコンサルテーション	18
桑原 晴子	くわばら はるこ	身体疾患を抱えた人に対するイメージを用いた心理療法	19
永田 忍	ながたしのぶ	認知行動療法を用いた遠隔（オンライン）心理教育プログラムの開発と効果検証	20
森村 和浩	もりむら かずひろ	身心の最適化を目指した身体活動・体力科学的アプローチ	21

経営学部

大塚 祐一	おおつか ゆういち	サステナビリティ時代における企業の社会的責任および企業の存在意義に関する研究	22
古安 理英子	こやす りえこ	地域資源に関わるステークホルダーの選好の定量評価	23
千田 雅之	せんだ まさゆき	和牛放牧による耕作放棄地の解消、農業を通じた地域のネットワークづくり	24
日高 靖和	ひだか やすかず	技術系人材のマネジメントに関する研究	25
古塚 秀夫	ふるつか ひでお	開発途上国における簿記普及とそれにもとづく経営診断 六次産業化による中山間地域活性化	26
堀 圭介	ほり けいすけ	スキル形成とイノベーション	27
洪 性奉	ほん そんぼん	多国籍企業と現地化戦略 東アジア家族企業における事業継続問題	28
福森 護	ふくもり まもる	多変量データの可視化手法の開発とその応用	29
水ノ上 智邦	みずのうえ ともくに	人口動態（転入・転出，結婚，出生）についての実証研究	30
キセリョフ エフゲーニ		インコタームズの適用に関する比較研究：ロシアと東欧・旧ソ連諸国を中心に ロシアにおける国際ビジネスと貿易に対する国際制裁の影響	31
宮前 善充	みやまえ よしみつ	産学連携活動、公民連携活動	32

薬学部

片岡 洋行	かたおか ひろゆき	分析法の簡便迅速化、微小化、自動化、省力化、高感度化 生体曝露、ストレス・疲労のバイオマーカー分析法の開発	33
増田 和文	ますだ かずふみ	生体高分子と薬物との相互作用の研究	34
二宮 清文	にのみや きよふみ	食品・生薬から機能性成分を探索	35
山川 直樹	やまかわ なおき	薬学基礎教育教材の開発と実践 対話演習型授業モデルの構築	36
齋藤 啓太	さいとう けいた	ヘルスケア簡易診断分析用サンプリングデバイスの開発と実用化 薬食相互作用を起こす食品成分の検索と評価法に関する研究	37
山本 浩司	やまもと こうじ	ホウ素を含む有機化合物の合成と物性	38
浅井 彰太	あさい しょうた	医薬品合成を志向した有機合成反応の開発 DNA-encoded library (DEL) 構築のための有機合成技術開発	39
石崎 厚	いしざき あつし	微量化学物質の効率的試料前処理法と高感度分析法の開発	40
加藤 久登	かとう ひさと	細胞膜損傷を引き起こす化合物の作用解析	41
平岡 修	ひらおか おさむ	医療用医薬品における PTP 包装の開封容易性改善のための科学的 研究	42
末丸 克矢	すえまる かつや	自閉スペクトラム症とてんかんの病態モデル	43

守谷 智恵	もりたに ちえ	食品からの抗酸化作用をもつ物質の単離とその作用メカニズムに関する研究	44
山田 陽一	やまだ よういち	感染対策	45
山崎 勤	やまさき つとむ	新規幹細胞による脊髄損傷の治療薬開発 植物由来成分の抗酸化作用メラニン合成阻害作用の探索	46
吉川 弥里	よしかわ みさと	母体環境と発達障害との関連性	47
川上 賀代子	かわかみ かよこ	岡山県産農産物の抗酸化を指標にした機能性食品素材の開発	48
見尾 光庸	みお みつのお	白血球治療薬による薬物アレルギーの克服に向けた新規治療法 ならびに非侵襲的検査方法の開発	49
原(野上) 愛	はら(のがみ) あい		
森 秀治	もり しゅうじ	慢性炎症の増悪化因子を分子標的とした生活習慣病改善研究	50
豊村 隆男	とよむら たかお	終末糖化産物 AGEs の新規機序に対する抗炎症作用を期待した創薬開発に関する研究	51
渡邊 政博	わたなべ まさひろ	AGEs や DAMPs が炎症を引き起こすメカニズムの解明 モノクローナル抗体を用いた臨床検査機器の開発	52
徳永 智典	とくなが ともり	糖尿病性腎症における早期変化の組織学的解析	53
北村 佳久	きたむら よしひさ	精神疾患の病態解明および次世代の治療薬開発	54
加地 弘明	かじ ひろあき	地域医療における薬局・薬剤師の役割	55
毎熊 隆誉	まいぐま たかよし	薬剤師の職能・役割を見える化する研究 より良い薬物治療を見出す研究	56
田坂 祐一	たさか ゆういち	薬剤師による薬学的介入と医療経済効果 ～安全で質が高い地域医療提供体制と薬剤師の役割に関する研究～	57
河野 奨	かわの すすむ	ペプチドを用いたケミカルバイオロジー 薬局実習における実習方略の調査と対応	58
出石 恭久	いずし やすひさ	炎症に注目した難治性疾患の治療標的因子の探索 薬物治療の副作用発現およびそのリスクファクターの探索 薬局の健康サポート機能の構築	59

幼児教育学科

ズビャーギナ章子	ずびャーぎな あきこ	ヴォイストレーニング～より豊かな声づくりをめざして～	60
三好 年江	みよし としえ	地域協働型子育て支援/「子育て支援力」の育成 保育の質向上につながる園内研修	61
荊木 まき子	いばらき まきこ	教育領域における多職種連携教育の開発 学校における支援体制の構築	62
鎌田 雅史	かまだ まさふみ	リスクマネジメントと組織づくり	63
山下 世史佳	やました よしか	音楽活動の場で起こる語りや現象を通した人々の変容	64

生活実践科学科

久保 美沙登 くぼ みさと	ファッションデザイン教育普及のための教材開発	65
脇谷 祐子 わきや ゆうこ	学校給食で活用される地場産業食材・食品の流通	66

附属施設

吉備地方文化研究所		67
就実心理臨床センター		68
就実教育実践研究センター		69
臨床薬学教育研究センター		70
薬学部附属薬局		71

情報学・情報教育

keyword

情報教育
表現教育
ICT 活用教育
音楽教育
楽曲制作
プロジェクションマッピング



中西 裕
Nakanishi Yutaka

人文科学部
表現文化学科 教授

【プロフィール】

元ゲームクリエイター。中高の国語教員の経験もあります。これまであちこちの大学・短大で情報リテラシー教育、プログラミング教育、メディア表現教育に携わってきました。

【主な社会的活動】

開発したICT楽器を使って親子コンサート、子育てイベントなどに参加しています。やや以前になりますが、岡山市男女共同参画社会推進センターの開設10周年記念ソングの作曲・演奏とPV制作を行いました。

【その他】

【代表的な研究テーマ】

ICTの教育への実践的応用・メディア表現教育など

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

DTM(デスクトップ・ミュージック)のスキルを活かして楽曲制作が可能です。

〔作例〕

岡山市男女共同参画社会推進センター
開設10周年記念ソング

「さんかくソング～未来へ～」(2009年)

の作曲、コンピュータ音楽による演奏、PV制作

<https://www.youtube.com/watch?v=HGBCJ4FCJZw>

岡山市民200人以上に参加していただいた歌唱動画を作成しました。



現在、科研費研究で、小さなお子さんや障害を持ったお子さんが器楽合奏に参加するためのシステム作りをしています。

大きなボタンを押すと、リズムに合わせて曲のフレーズが流れます。

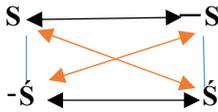
授業でプロジェクションマッピング作品作りをしています。写真は授業の一場面です。「小さなプロジェクションマッピング」で何が表現できるかに取り組んでいます。



企業・自治体等へのメッセージ

私のスキルや経験が地域のお役に立てればと思います。情報倫理や著作権に関する講習等のご依頼もお受けしています。

<p>舞踊 身体表現</p> <p>keyword</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞踊教育・現代舞踊 ・即興とコミュニケーション ・多様性と共生 ・自己理解 	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>「多分野における創作教育の指導法の比較と改善に向けた基礎的研究」</p> <p>「即興を中心に据えたダンス授業における観察言語化が大学生の自己理解に及ぼす影響」</p>
 <p>岡本 悦子</p> <p>Etsuko Okamoto</p>	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
<p>人文科学部 表現文化学科 教授</p> <p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1984年お茶の水女子大学文教育学部卒業 ・1987年お茶の水女子大学人文科学研究科修士課程修了(文学修士) ・1987年～就実大学 <p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山県女子体育連盟会長(2012年3月立ち上げ以来 2022年4月まで会長) ・岡山県現代舞踊連盟顧問(2002年～理事、2005年～副会長、2009年～2010年国民文化祭時会長、2012年～顧問) ・舞踊学会 ・体育学会 ・チューリップの会(子どもの社会参加を考える会 in 京山)副会長 	<p>現代舞踊という決してメジャーとは言えないダンス分野に没入し、「教育によって幾らか改善しますが、治癒はありません」という告知を受けた自閉児の子育てをしつつ、自らはいくつかの癌と付き合いながら、なんとか生き長らえています。</p> <p>抱えていること全てに通じることは、自身がマイノリティーであること。何れにせよ既成路線の踏襲だけでは解決・回復が見込めないため、「答えの出ない事態に耐える力(ネガティブ・ケイパビリティ)」と創造を楽しむ力を駆使して、次々に訪れる困難の打開策を図っています。</p> <p>そういった中、取り組んできたことのいくつかを以下にピックアップしてご紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2003年 2004年、岡山市スポーツ文化振興財団との共催で市民とともに踊り創る市民参加型創作ダンス公演企画を開催。舞踊と演劇、映像とのコラボレーション、踊る場、観る場の空間レイアウトを変えて場と人の攪乱を図った新しい時空間創造。2003年第5回岡山県文化賞功労賞を受賞。 ・2002年、岡山県現代舞踊連盟を立ち上げ、地域で個別に活動していた舞踊家の連携を図る。2005年国体で式典演技の創作や演出に関わり、2010年国民文化祭では洋舞フェスティバル現代舞踊部門を統括。地域のバレエ人と現代舞踊人、さらに演劇人とつなげる活動を目指した。2006年第7回福武文化奨励賞受賞。 ・2016-2023年、岡山県立大学新山順子先生と共に、卒業生・社会人に大学卒業後のダンス創作活動を継続支援する企画「DANCE ALIVE」を企画・運営・研究。 ・2019-2020年岡山県現代舞踊連盟・岡山県・(公社)岡山県文化連盟等主催で「現代舞踊まなびの発表会」を企画運営。対話的鑑賞を創作者と観客に体験してもらうもので、言語化によって舞踊への理解がより深まり、創作へのヒントを得るという企画。 ・2022年2月岡山県女子体育連盟(会長時)として、スポーツ・ダンス指導者及び指導者を目指す次世代を対象にした、全国規模のダンスセミナー「第15回 JAPEW ダンスムーブメントセミナー2021」を(公社)日本女子体育連盟とともに主催(共催:岡山県 岡山県民文化祭実行委員会(公社)岡山県文化連盟 助成:(公財)日本教育公務員弘済会岡山支部 後援:スポーツ庁(公財)日本学校体育研究連合会 岡山県教育委員会 岡山市 岡山市教育委員会。令和4年度 JAPEW 功労賞(JAPEW=公社日本女子体育連盟) <p>就実大学内では、所属する人文科学部表現文化学科で表現創造コースの身体表現分野を担当。舞踊や運動経験の有無に関わらず、希望する学生を対象に、自分の身体で表現する体験を通して、自己理解を深めてもらっています。毎年ゼミでは卒業制作発表会を開催。その他、隔年で、国内外で活躍する舞踊家を講師に招いた「就実表現文化のつどい」の立案・運営等を担当しています。</p> <p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>2022年より(公財)岡山芸術創造劇場のおかやまアーツフェスティバル実行委員会副委員長を務めています。岡山の新しい文化芸術の発信拠点ハレノワも2023年9月にオープンしました。文化で人がつながり、人が、街が、活性化するお手伝いができればと思っています。</p>

<p>哲学・思想・批判理論</p> <p>keyword</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>〈無限〉概念を起点とした哲学の構築</p>
<p>資本主義 文化 物語 革命 近代 ユートピア</p>	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
	<p>私は思考の仕組みを哲学的に研究しています。その一つを紹介しましょう。</p> <p>言語学者グレマスは数学の群論(クライン4元群)を応用して、「記号の四辺形」という図を考案しました。彼によると、或る記号(言葉・社会的諸事象も含む)の意味はそれ一つのみで成立するわけではなく、2つの対立軸を通して成立します。下図をご覧ください。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>図:グレマスの「記号の四辺形」(黒=対立/赤=矛盾/青=含意)</p>
<p>松本 潤一郎 Junichiro Matsumoto</p>	<p>グレマスによると、任意の記号 S の意味は、S に対立する記号(-S)、S の否定(Ś)、-S の否定(-Ś)の4項関係(クライン4元群の変型)から成ります。S と -S、Ś と -Ś の対立関係、S と Ś、-S と -Ś の(互いを否定し合うので)矛盾関係という2つの対立軸に加え、対立と矛盾を否定する S と -Ś、-S と Ś の含意関係があります。これが記号の四辺形です。</p>
<p>人文科学部表現文化学科 教授</p> <p>【プロフィール】 立教大学大学院文学研究科後期博士課程フランス文学専攻単位取得退学。</p> <p>【主な社会的活動】 日本フランス語フランス文学会 日仏哲学会 立教大学フランス語フランス文学会</p> <p>【その他】 著書 『ドゥルーズとマルクス』(単著/みすず書房) 『ドゥルーズ』(共著/白水社)他</p>	<p>或る事象なり言葉なりの意味は、社会・地域・時代・諸状況に応じて決まります。例としてグレマスは、1968年当時のフランスにおける婚姻関係を挙げています。「夫婦愛」(Sに位置づけられる)は法的に認められた関係、言いかえると法の命令下にある契約です。夫婦愛に対立する関係(-S)としては、法的に認められない関係、例えば「インセスト」があります。(当時は「同性愛」もここに位置づけられました。)このとき S と矛盾する位置(Ś)に「女の不倫」が置かれ、Ś と対立する位置(-Ś)に「男の不倫」が置かれます。不倫は法に反するという意味で矛盾関係が生じますが、ジェンダー・ロールを当然視したパターナリスト的風潮が残っていたため、男が不倫をしても社会的制裁を比較的受けないのに対し、女は非難されがちでした。それゆえ夫婦愛と男の不倫が含意関係(対立しない)にあるのに対して、女の不倫はインセストに比される異常と見做されました。</p> <p>このように、或る記号の意味は、社会の中の他の記号との関係において決まります。いずれかの記号が未知でも他の項との関係から推測できます。これを応用すれば、現状分析による今後の動向予測や、新たなアイデア創発に生かせるかもしれません。</p>
	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>私の専門とする人文科学の研究が皆様の役に立てるかわかりませんが、中四国地域の発展に貢献する人材の育成に、多少なりとも寄与すべく務めています。</p>

日本美術史・日本文化史	【代表的な研究テーマ】
keyword	□ 日本の文化財(美術工芸品)
<ul style="list-style-type: none"> ・近世大名道具 ・近世大名文化 ・近代華族の宝物管理 ・近代華族の家政運営 ・博物館資料と文化財 ・仏教美術 	□ 旧岡山藩主池田家の宝物管理・家政運営
	代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明
<p style="text-align: center;">浅利 尚民 ASARI Naomi</p>	<p>【学芸員としての経験】 林原美術館(岡山市)に16年間勤務し、同館が所蔵されていたさまざまな文化財を扱うとともに、それらを中心として多くの展覧会を企画・開催してきました。</p>
<p>人文科学部 表現文化学科 准教授</p>	<p>【旧岡山藩主池田家の近代における家政の研究】 旧岡山藩主池田家は、明治以降は華族になり当主は侯爵となります。その池田家の家政がどのように運営されていたのかについて、システムと人物の両面から研究しています。</p>
<p>プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同志社大学文学部卒 ・同大学院文学研究科 博士課程前期修了 ・博士(文学・広島大学) ・2001年から林原美術館学芸課に学芸員として勤務。主任学芸員、学芸課長を経て、2017年より現職。 	<p>【旧岡山藩主池田家所蔵資料の構造研究】 林原美術館には旧岡山藩主池田家から引き継いだ大名道具が多数所蔵されています。それらが近代においてどのように分類・管理されていたのかなどについて、池田家文庫(岡山大学附属図書館)に所蔵されている家政資料を分析することで明らかにしてきました。</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術史学会 ・文化史学会 ・岡山地方史研究会 	<p>【旧岡山藩主池田家所蔵資料の個別作品研究】 池田家が所蔵していた、能面・能装束、国宝 太刀 銘備前国包平作(名物大包平、東京国立博物館所蔵)、重要文化財 信長記(池田家文庫所蔵)などの個別の作品に関しても研究を行ってきました。</p>
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2011年11月 文部科学省 社会教育功 労者表彰(博物館法施行 60周年記念奨励賞) 	<p>【歴代岡山藩主の研究】 初代藩主池田光政、二代綱政、三代継政が記した書画の意義や、描かれた肖像画の変遷などについて研究してきました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・2015年5月 山陽放送学術文化財団 第45回谷口記念賞 	<p>【林原コレクションの研究】 林原美術館に所蔵されている林原一郎の審美眼によって収集された文化財についても、16世紀の古文書群である石谷家文書などの研究を中心に行ってきました。</p>
	<p>【仏教美術の研究】 大学院までは仏像の研究を行っていたため、現在でも彫刻作品の調査を行っています。</p>
	<p>【鑑賞教育の実践】 様々な美術作品の鑑賞を行い、それらをどのように解釈するのか、あるいは自分と他者の視点の違いなどを学ぶためのゼミナールを開講しています。スライドで作品鑑賞することに加えて、近隣の美術館を訪れて本物の作品を見学し、ディスカッションを行っています。</p>
	企業・自治体等へのメッセージ
	文化財のことで何かお役に立てることがございましたら、遠慮なくお声がけください。

<p>文学</p> <p>keyword</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 日本文学 ■ 古典文学 ■ 平安文学 ■ 源氏物語 ■ 和歌 	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>『源氏物語』と平安時代和歌</p>
 <p>瓦井 裕子 Kawarai Yuko</p>	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
<p>人文科学部 表現文化学科 准教授</p>	<p>『源氏物語』は、日本のあらゆる文化に多大な影響を与えた点において、最も重要な文学作品の一つであり、各時代において『源氏物語』をいかに享受してきたかという問題もまた、我が国の文化を紐解く上での不可欠な視点です。</p> <p>従来、『源氏物語』享受の研究は鎌倉時代以降に偏って行われてきました。それに対し、私は平安時代に詠まれた和歌の中にも『源氏物語』を摂取するものが相当数存在することを明らかにしてきました。平安時代の『源氏物語』享受といえば、平安後期物語がほぼ唯一の享受資料とされてきましたが、これらの成立年代・作者は未詳のことがほとんどで、享受史・文学史の中に位置づけるには圧倒的に情報が不足しています。その点、和歌は詠者・詠歌年・詠歌状況などの詳細な情報を備えていることが多く、かなり具体的な享受実態を解明することができます。『源氏物語』摂取歌は、最も早い享受の実態を解明する資料として豊かな可能性を有しているのです。</p> <p>私の研究では、源氏摂取歌を『源氏物語』の享受資料と位置付け、検討することにより、鎌倉時代に『源氏物語』享受が花開く前の実相を解明することを目的としています。『源氏物語』成立直後の享受実態を、和歌を通して明らかにし、平安時代の『源氏物語』享受とそれを取り巻く文化的背景を把握することにより、『源氏物語』享受史を考える上での基盤的視座を提示しようとしています。</p> <p>これは、平安時代の日本人が、ある文学作品をどのように「古典」と扱うようになったのかという問題でもあります。昔の日本において、文化的規範がどのように生まれてきたのか、という大きな問題についても考えています。</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪大学大学院博士後期課程修了、博士(文学) ・日本学術振興会特別研究員(DG2) ・日本学術振興会特別研究員(RPD) ・2018年より現職 <p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中古文学会 ・和歌文学会 ・大阪大学国語国文学会 ・大阪大学古代中世文学研究会 <p>【その他】</p> <p>『王朝和歌史の中の源氏物語』(和泉書院、2020)、他</p> <p>第13回 中古文学会賞 第14回 日本古典文学学術賞 第二次第十六回 関根賞</p>	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p>

<p>日本文学</p> <p>keyword</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文学 ・古典文学 ・近世文学 ・軍記 ・古典籍 	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>軍記を題材とした文芸と権力の相関関係</p>
	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
<p>竹内 洪介 Kosuke Takeuchi</p>	<p>私の専門は日本の近世文学(江戸時代の文学)です。近世文学といえば井原西鶴や上田秋成などが著した小説類、近松門左衛門の浄瑠璃・歌舞伎に代表される演劇作品群、松尾芭蕉を筆頭とする韻文類、本居宣長や賀茂真淵などが著した学問書の類、葛飾北斎や菱川師宣などが描いた絵画類など、極めて広範囲にわたって開花したものとすることができます。これら広範囲に展開した近世文学の研究は、タコツボ化してしまい、その本質が不明瞭になっているとも言えるのではないかと思います。</p>
<p>人文科学部 表現文化学科 講師</p>	<p>そうした点から、私は、江戸時代が、徳川幕府による専制政治が約260年間にわたって続いた時代であること、つまり武士による支配の中で近世文学が成立したことに注目し、権力者のもとで文芸作品がどのような影響を受けながら生み出されたのかを検討することで、近世文学の本質を明らかにしたいと思っています。</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道大学大学院文学院博士後期課程修了、博士(文学) ・日本学術振興会特別研究員(DG2) ・2022年より現職 	<p>上記の目的のもと、私が特に注目しているのは、『太閤記』などの豊臣秀吉の伝記的作品群です。徳川氏は豊臣氏を倒して政権を樹立したわけですが、江戸時代には秀吉を扱った作品が散文・韻文・演劇・絵画・学問などの諸分野にわたって非常に多く誕生しました。いったいなぜ秀吉を取り上げた作品は、徳川幕府のもとでこれほど多彩に花開くことができたのでしょうか？ こうした疑問を出発点に、文芸と権力の相関関係を考えるのが、私の研究です。</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本近世文学会 ・軍記・語り物研究会 ・北海道大学国語国文学会 <p>専門対象が一般にも人気の高い戦国武将である点を生かし、神社の社報にコラムを寄稿したり展覧会に企画協力したりしています。</p>	<p>研究対象が一般にも人気の高い戦国武将であるため、これまでに関連するイベントの企画に協力させていただく機会もあり、微力ながら研究成果を一般の方々にご紹介する活動を今日まで続けることができています。住吉大社の社報『住吉っさん』には、「住吉さんと太閤さん」と題して、住吉大社と豊臣秀吉の関係を考える連載記事を書かせていただいています。こうした経験を生かして、ここ岡山の地でもみなさまのお役に立てることがあればうれしく思います。</p>
	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>私の研究で何かお役に立てることがございましたら、遠慮なくお声がけください。</p>

アメリカ文学

【代表的な研究テーマ】

keyword

マーク・トウェインの作品と生涯の研究

マーク・トウェイン、Mark Twain、英語、アメリカの方言

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

マーク・トウェイン (Mark Twain) の作品と生涯の研究を通じて、アメリカ合衆国の諸問題と英語に関する諸問題に、的確に助言することができるでしょう。例えば、『トム・ソーヤーの冒険』に登場するインジャン・ジョーはなぜ悪役にされているのか、そして彼は、なぜ、ほぼ標準英語を使うのか、などの課題の考察から、現今の諸問題に一つの方向性を示すことができるでしょう。

人文学はあらゆる学問の土台です。なかでも外国語文学は、哲学、科学、歴史学、などの学問分野を、外国語を手段に探求する分野です。だからこそ、あらゆる諸問題に対応するのです。外国語力は裏切りません。



TOM DREAMS

和栗 了

Ryo WAGURI

人文科学部

実践英語学科 教授

【プロフィール】

甲南大学大学院博士(文学)

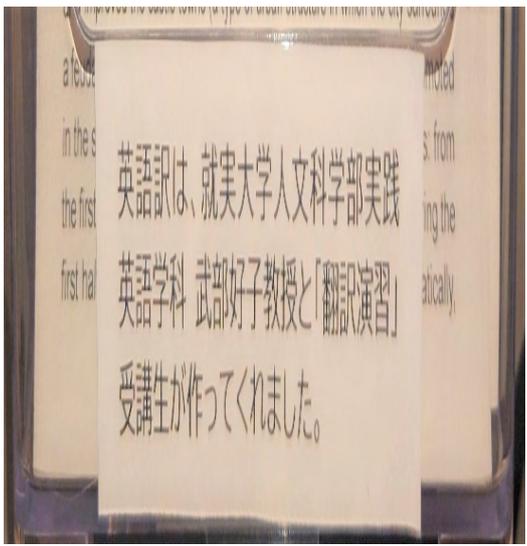
【主な社会的活動】

日本マーク・トウェイン協会設立幹事・元評議員
関西 Mark Twain の会幹事

企業・自治体等へのメッセージ

人文学は人間の学問であり、死ぬまで使える実学です。あらゆる諸現象の根本を見つめる学問です。きっと何かのお役に立てると思います。

<p>英語教育</p> <p>keyword</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ コミュニケーション能力育成 ■ 言語習得 ■ 英語教授法 ■ カリキュラム論 ■ 授業改善 	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>コミュニケーション能力育成を目指した英語教育</p>
 <p>中野 修一 Shuichi Nakano</p>	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
<p>人文科学部 実践英語学科 教授</p>	<p>【コミュニケーション能力育成の研究】</p> <p>英語教育学や第2言語習得研究の知見を基に、英語コミュニケーション能力育成を研究しています。これまでのインプットを中心とした覚える英語学習から、アウトプットを中心とした表現活動を重視した英語学習を推進しています。学習者が習得した自分の言語資源を活用する場面を設定することで、英語コミュニケーション能力がいかに伸長するのかを学生たちと一緒に考えています。</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1967年 岡山市出身 ●1993年3月 岡山大学 大学院教育学終了（修士） 	<p>【今の時代の学力とは】</p> <p>現在、小・中・高等学校では、「総合的な探究の時間」が設定され、自ら課題を設定し、情報を収集・整理・分析し、まとめたものを表現することの大切さが指導されています。英語学習においても、問題解決型学習、PBL(Problem Based Learning)での表現力の向上を検証しています。</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1993年4月～2012年3月 岡山県立高等学校 教諭 ●2012年4月～2015年3月 岡山県総合教育センター 指導主事 ●2015年4月～2021年3月 岡山県立高等学校 指導教諭 ●2021年4月～2023年3月 高梁市立高等学校 副校長 ●2017年4月～2023年3月 岡山大学教育学部非常勤講師 ●2023年4月より現職 	<p>【学習の評価】</p> <p>学習指導要領の改訂に伴い、学習評価の方法も新しくなっています。(1)「主体的に学習に取り組む態度」、(2)「思考・判断・表現」、(3)「知識・技能」の3観点での評価です。学力の捉え方が変化する中で、評価方法と指導の在り方を探っています。</p>
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2010年11月 岡山県教育関係功労者表彰 (英語教育の研究実践による) ●2011年11月 文部科学大臣優秀教員表彰 	<p>【公立高等学校での指導経験】</p> <p>高校入門期から難関大学受験指導までの経験があります。英語4技能をバランスよく指導し、運用力を向上させることが可能です。また、留学やホームステイ等を通しての異文化体験による多様性理解の大切さを伝えてきました。</p> <p>【指導主事としての経験】</p> <p>岡山県総合教育センターでの教員研修や県内の小・中・高等学校を訪問することで、教員の資質・能力の向上に携わってきました。この経験を生かし、現在は大学で教育者の育成に携わっています。</p>
	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>今の時代に求められる多様な価値観を理解でき、実践的な英語運用能力とグローバルな企画・提案・発信力といった力を持ち合わせた人材をいかに育成していくのか、共に考えていきたいと思っております。</p>

英語・芸術	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p style="text-align: center;">芸術と通訳・翻訳のかかわり</p>
keyword	<p style="text-align: center;">代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
<p>■通訳 ■翻訳 ■演劇</p>	<p>異なる言語や文化の懸け橋となる「通訳」「翻訳」について、言語と非言語の両側面から研究・教育を行っている。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> ① 言語の側面から、声を通して「聴く」「話す」通訳と、文字を通して「読む」「書く」翻訳について、それらが社会の中で通時的かつ共時的に果たす役割の意義と効果を探求している。 ② 演劇や映像を通して、言葉に置き換えられない非言語の重要性についても分析を行っている。 ③ 大学では、実用的な英語力とコミュニケーション力を通訳の訓練方法を取り入れながら習得する「通訳演習」や、言葉の背後にある日英文化の相違点についても学ぶ「翻訳演習」を担当している。 ④ 現在、「翻訳演習」の受講生と共に、本学人文科学部との連携協定に基づき、岡山県立博物館／林原美術館／倉敷考古館が所蔵する芸術作品について、解説文の英語翻訳を行っている。 ⑤ ビジネスにおける「対話」と演劇における「ダイアログ」との比較分析を通訳・翻訳の立場から行っていきたい。
<p style="text-align: center;">武部好子 Yoshiko Takebe</p>	<p style="text-align: center;">企業や自治体が、海外からのお客様との取引を発展させ、ビジネスにおける相互理解を深められるようにサポートしていきたい。</p>
<p>人文科学部 実践英語学科 教授</p> <p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国ニューヨーク州生まれ。 ・聖心女子大学文学部外国語外国文学科卒業後、東京海上火災保険(株)勤務。 ・聖心女子大学大学院英文学修士号。 ・ロンドン大学大学院演劇学修士号。 ・東京大学生産技術研究所英会話研修講師。 ・通訳・翻訳業。 	<p>以下の写真は2023年7月より岡山県立博物館の常設展に展示されている2022年度「翻訳演習」の受講生と共に翻訳した岡山の歴史に関する英語解説文である。岡山県立博物館の許諾を得て写真撮影。</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本通訳翻訳学会 ・国際演劇学会 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Yoshiko Takebe. "Translating Silence: Correlations between Beckett, Chekhov, and Hirata" in <i>Influencing Beckett / Beckett Influencing</i>. Eds. Anita Rakoczy, Mariko Hori Tanaka, Nicholas E. Johnson. Budapest/Paris: L'Harmattan Publishing, 2020. (ISBN:9782343219110). ・Yoshiko Takebe. "Aesthetics of Translation: From Western Drama into Japanese Operatic Forms" in <i>Opera in Translation: Unity and Diversity</i>. Eds. Adriana Serban and Kelly Kar Yue Chan. Amsterdam/ Philadelphia: John Benjamins Publishing, 2020. (ISBN:9789027207500). 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
	<p style="text-align: center;">企業・自治体等へのメッセージ</p> <p style="text-align: center;">オンラインにも対応できる通訳・翻訳を提供しながら社会と連携し、国・地域や言葉を超えて貢献していきたい。</p>

<p>アジア史</p> <p>keyword</p> <p>パキスタン イスラーム アジア現代史 地域研究 国際関係</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>インド・パキスタン現代史および動向分析、現代のイスラームなど</p>
 <p>井上あえか Aeka Inoue</p>	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
<p>人文科学部 総合歴史学科・教授</p> <p>【プロフィール】 東京外国語大学外国語学部卒、東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。</p> <p>【主な社会的活動】 イスラームについての高校出前講義。JETRO アジア経済研究所『アジア動向年報』（年刊）のパキスタンの章を2016年から継続して執筆しています。同研究所のサイトからご覧いただけます。</p> <p>【その他】 高校向けの出前授業では、ガンディーの思想や、イスラームと女性などのテーマでお話ししました。</p>	<p>パキスタン、インドなど南アジアの19-20世紀の歴史を、特にイスラーム教徒に視点をおいて研究しています。同時に、最近の動向にも関心をもって継続的な分析を続けています。後者の動向分析については、毎年5月頃にJETRO アジア経済研究所が刊行している『アジア動向年報』に、パキスタンの国内政治と対外関係を執筆し社会に還元しています。また、2018年には外務省がODAの一環としてパキスタンへ派遣した選挙視察団に参加し、同国の選挙が公正に実施されているかを視察する業務にも携わりました。</p> <p>岡山でも外国からの観光客や技能実習生などを含め、外国の人と接する機会が今後も増え続けることが予想されます。市民社会の一員として異文化への理解と共感を持ち合うことがますます重要になる中、警察や自治体からの要請で南アジアを中心とした国際情勢について講演の機会もあります。</p> <p>イスラームについては、上記のようにイスラーム教徒の訪日が増えたり時事問題とも関連したりして、近年一般的な関心が高まって来ていると感じます。また、パキスタン・インドなど南アジアは、今は現地へ赴くことが難しい状況ですが、中長期的には日本にとって経済的な重要性を増していくと考えられます。現地情勢や情報収集の方法について、ご協力できることがあるかもしれません。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="485 1200 855 1809">  <p>ガンダーラの断食するブツダ</p> </div> <div data-bbox="948 1458 1422 1809">  <p>コルカタのモスク</p> </div> </div> <p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>地域での多文化共生のために求められる情報や、ビジネスや観光などで必要な現地の状況把握や情報収集に、協力できることがあれば研究成果を還元したいと考えています。</p>

人文・歴史・日本史

keyword

日本中世・宗教社会
史・荘園・寺社・民衆



苅米 一志

Karicome Hitoshi

人文科学部
総合歴史科
教授

【プロフィール】

1968年 福島県郡山市生
1996年 筑波大学大学院
歴史・人類学研究科単位
取得退学
2003年 博士(文学)(筑
波大学)
2006年 就実大学人文科
学部准教授
2012年 同教授

【主な社会的活動】

①出版 『荘園社会にお
ける宗教構造』、『日本史を
学ぶための古文書・古記
録訓読法』、『殺生と往生
のあいだ』
②史料講読会の開催
『実隆公記』を読む会、
『言継卿記』を読む会(い
ずれも就実大学において
一般に公開)

【代表的な研究テーマ】

日本中世の民衆と寺社・宗教

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

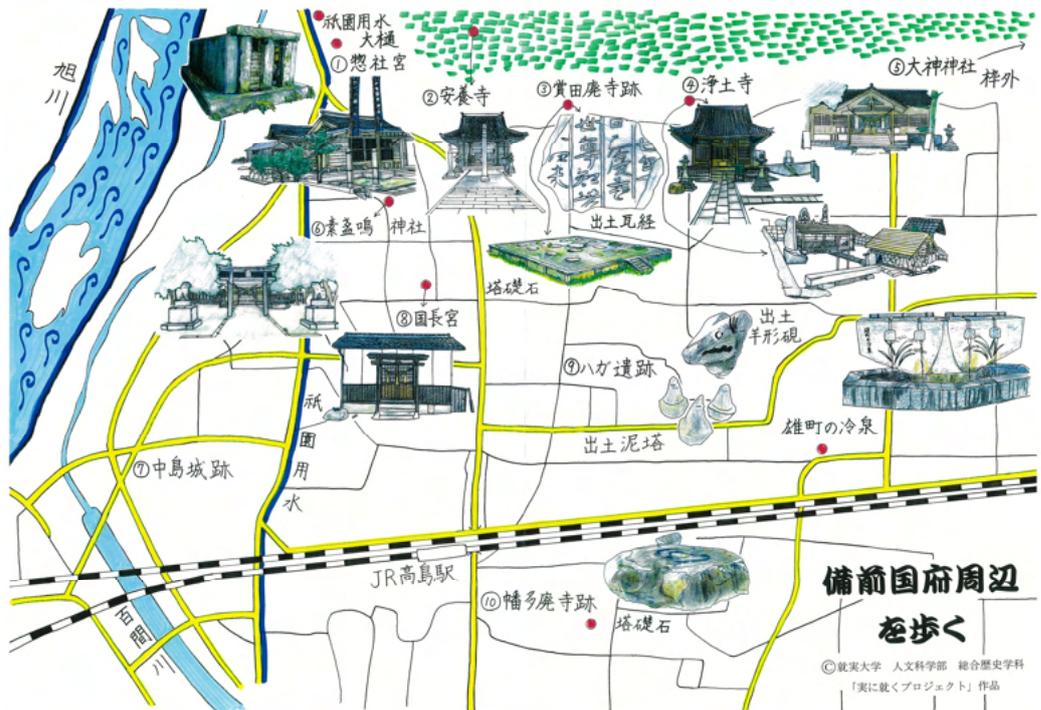
(1)古文書など史料の解読能力の育成支援

特に前近代の「くずし字」で書かれた史料、または活字になっている歴史資料を読解する支援をします。「くずし字」に慣れる訓練、漢文体の活字史料を訓読し、現代語訳するための訓練などを提供できます。近世・近代以来の伝統を有する企業のもつ歴史資料の読解、それによる社史の編纂、特定の販売物品やサービスの歴史についての知識提供、また社会人の教養としての史料読解力の育成などに貢献することができます。

(2)地域の歴史についての知識提供

サービスを提供する対象としての地域社会について、古代から現代までの歴史の流れについて知識を提供するとともに、歴史にもつじた観光資源の開発などについて支援することができます。

※下の画像は「実に就くプロジェクト」で、学生と共同で作成した史跡観光マップ。



企業・自治体等へのメッセージ

歴史資料の読解は、現在の様々な資料の読解にも役立てることができます。歴史学は、証拠・データの収集・整理能力、資料の分析・読解能力をもとにした問題解決型の学問であり、その姿勢は企業人の現場においても応用していくことが可能です。

歴史学・考古学

keyword

- 日本古代史
- 歴史考古学
- 出土文字資料



鈴木 琢郎
Suzuki Takuro

人文科学部
総合歴史学科
准教授

【プロフィール】

- ・1976 年岩手県一関市生まれ
- ・東北大学大学院文学研究科博士課程修了
- ・博士(文学)
- ・多賀城跡調査研究所、東北大学大学院などを経て、2020 年より現職

【主な社会的活動】

- ・日本歴史学会
- ・日本史研究会
- ・史学会
- ・東北史学会

【その他】

- ・『日本古代の大臣制』(塙書房、2018 年)
- ・「市川橋遺跡-第 94 次調査出土の漆紙文書」(『多賀城市文化財調査報告書』第 138 集、2018 年)

【代表的な研究テーマ】

- 歴史考古学（遺跡の歴史学的分析）
- 史科学（出土文字資料の解読・分析）

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

専門は日本古代史で、古代天皇制・官僚制の研究を進めています。官僚機構のトップにある大臣を主たる分析対象として、例えば任命儀式の問題、侍候施設の問題など、様々な切り口から天皇との関係について研究しています。

研究資料の主たるものは、歴史書や法律、そして行政命令などですが、まれに遺跡から出土した木簡や漆紙文書といったものも分析することがあり、そのような時にはその資料が出土した遺跡についても考えを廻らせています。

岡山に赴任する以前、東北地方の古代遺跡から出土した文字資料の分析も行っていました。多賀城跡やその周辺の遺跡群は、中央政府の出先機関としての性格が強いこともあり、文書行政の痕跡が多く残されています。租税徴収台帳であった計帳や、通達文書などの文書や、納税品に付けられた木簡など、さまざまな出土文字資料を読解、分析してきました。

特に漆紙文書は文書の全体が残存することはありません。一部分のみが残されますので、そこに書かれている文字は読めても、文書全体像をつかみ、歴史を復元することは並大抵のことではありません。そもそも、文字自体も「赤外線の世界」でしか視認できないことがよくあります。ですから、少し特殊な技術や知識(…と設備…)が必要になります。

遺跡を発掘している中で、ちょっと薄くてもろい、樹脂が固まったようなものが出てきたら、それは漆紙文書かもしれません。先のとがった木の札が出てきたら、それはおそらく木簡でしょう。そのようなものが出土したら、是非お声がけ下さい。技術や知識の面から、読解・分析のお手伝いができると思います。



市川橋遺跡 94 次調査出土の漆紙文書の赤外線写真と実測図

『多賀城市文化財調査報告書』第 138 集(2018 年)

企業・自治体等へのメッセージ

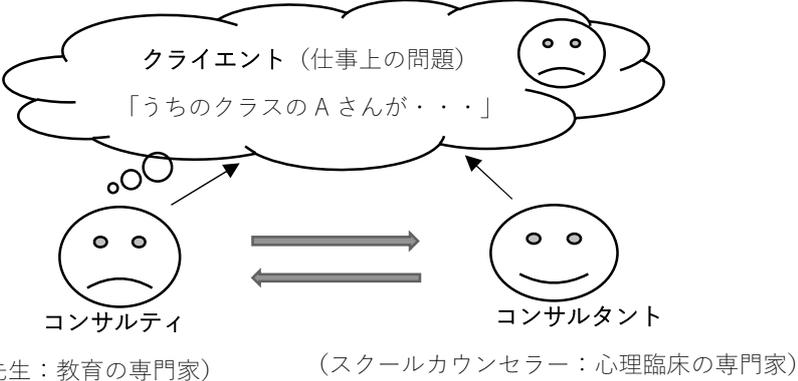
多くの学生は、調査をしている段階の遺跡のことを知らずに卒業していきます。調査が完了し、復元整備がなされた遺跡から学ぶことも多いのですが、成果が生み出されている、将にその瞬間からも多くのことが学べます。調査情報・見学会情報など、お待ちしております。

西洋中世史	【代表的な研究テーマ】
keyword	ヨーロッパ中世史、ローマ教皇と教皇庁の歴史、異端審問、中世ラテン語古文書学
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ中世史 ・キリスト教史 ・ローマ教皇史 ・ヨーロッパ古文書学・古書体学 	代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明
	<p>ヨーロッパ史の中世と呼ばれている7世紀から15世紀の時代の歴史について、これまでドイツと日本で教育と研究に携わってきました。特に専門としている分野は、キリスト教に関わる政治や政治思想、組織や構造についての歴史です。ヨーロッパの中世の宗教は主に、ローマ・カトリックのキリスト教でした。その組織の長であるローマ教皇、教皇庁、および教皇庁の下部組織が、時代の流れに沿ってどのように変容しつつ、世俗の権力者(つまり国王、皇帝、都市共同体、貴族たち)や一般信徒(つまり名もなき一般人たち)と関わっていったのか、などについて研究しています。</p>
小林亜沙美 Asami Kobayashi	<p>研究方法は基本的に原典史料(ラテン語や中世俗語)の読解・考察・分析です。その際、各史料に記載されている内容の他にも、各史料が作成され、これまで伝来している経緯・理由などについても注目します。ここから「なぜ、この史実を今の私たちが知ることができるのか?偶然なのか?それとも誰かが敢えてこの事柄を私たちに伝えようとしたのか?」という疑問に答えを出すことができる(かもしれない)からです。こうして、現代にまで伝わった史実だけではなく、その伝来の背後にある偶発性と人為的意図の双方を明らかにすることができるのです。</p>
人文科学部総合歴史学 准教授	<p>具体的には、これまで特に教皇文書の研究に力を入れてきました。書籍として形になった研究成果は2017年にドイツのBöhlau社から出版された<i>Papsturkunden in Lucca 1227-1276: Überlieferung - Analyse - Edition</i>(『ルッカに伝来する教皇文書1227年から1276年まで 伝来-分析-翻刻』)です。この中で、約300通の教皇文書を扱い、文書伝来の偶然性と複雑性を明示し、司法・政治・経済機構としての教皇庁の様態を描写しました。その一方で、下級聖職者の日々の悩み事や、教皇と皇帝とに挟まれた日和見主義的な地方小豪族の動向等、民衆史に近い分野にも踏み込みました。</p>
【プロフィール】	<p>昨今は中世に始まった異端審問の組織的および場当たりの性格について調べています。つまり、教皇がどのような指示を上からだし、各地で異端審問官が教皇の指示の下で、もしくは各自が恣意的に活動していたのか、ということについての研究です。</p>
ドイツのマルブルク大学とレーゲンスブルク大学で教育と研究に携わり、マルブルク国立古文書館で古文書のデジタル・アーカイビングに携わりました。ローマ教皇庁の歴史に注目し、ヨーロッパ中世の研究をしています。	<p>研究の舞台はヨーロッパで、時代は中世であっても、そこに生きていた「人間」の動きを把握することは、現代社会と未来を理解することにつながると考え、日々、研究と教育をしています。</p>
【主な社会的活動】	企業・自治体等へのメッセージ
以下の学会の会員です。 <ul style="list-style-type: none"> ・西洋中世学会 ・歴史学研究会 ・西洋史学会 ・Verband der Historiker und Historikerinnen Deutschlands 	<p>コロナに引き続き、昨今の燃料費高騰の波を受け、未だヨーロッパが遠くかけ離れた場所になっています。研究活動で修得してきた見識と、ドイツ20年の生活で得た経験を、大学外の県民や市民の皆さんとも共有できましたら光栄です。</p>

<p>図書館学</p> <p>keyword</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>地域性および時代背景による図書館機能の差異と変遷</p>
<p>図書・図書館史 図書館文化史 アメリカ図書館史 図書館学教育 図書館施設</p>	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p> <p>図書館の機能および社会的役割の変遷について研究をおこなっています。</p> <p>20世紀アメリカの図書館員ジェシー・H・セラ(1903-82)は、「(断片的な情報ではなく)“知識”を普及させ、機能させることが図書館の社会的な役割である」と考えていました。近代公共図書館に関する歴史研究と書誌に関する研究で知られるセラの図書館思想について博士論文を執筆したほか、日本図書館協会、ミネルヴァ書房発行の『図書・図書館史』で近代アメリカの図書館史について分担執筆しています。</p> <p>2019年には真庭市で「新しい図書館を楽しもう：図書館機能の変貌と活用術」と題してお話をさせていただきました。(おかやまCOC+主催)真庭に図書館がはじめて設置されたのは明治40(1907)年でした。戦前は資料保存が重視され、帯出するには特別許可や保証人が必要でしたが、戦後は一転、資料の積極的利用が標榜されて貸出が推奨されたこと、現代は地域の“知の拠点”として機能する図書館の楽しみ方、活用術などご紹介しました。</p> <p>2018年から2021年にかけて就実小学校図書館のリニューアル(図書館レイアウトの変更など)に小学校教職員および大学図書館司書とともに取り組みました。</p> <p>松崎博子, 黒瀬知子, 十河妹, 水溜友紀子, 普津澤智早 「就実小学校の学校図書館リニューアルに関する協働の報告：図書館レイアウトを中心に」 『就実論叢』No.51, 2021, pp.79-100 就実学術成果リポジトリ http://id.nii.ac.jp/1642/00000619/</p> <p>2020年以降は、就実大学人文科学部と連携協定を締結している倉敷考古館の旧蔵書(おもに遺跡発掘調査報告書)整理作業の手伝いをしています。</p> <p>松崎博子, 黒瀬知子 「事例報告 大学図書館における発掘調査報告書整理作業と『全国遺跡報告総覧』の活用について：私設博物館寄贈の資料整理作業を事例として」 『アート・ドキュメンテーション研究』No.30, 2022, pp.49-59 J-STAGE https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jads/-char/ja</p> <p>国内および海外の図書館の見学を積極的におこなうことで、各館の具体的な取り組みの事例とそれを取り巻く状況および背景を知り、図書館の機能と施設について学んでいます。</p>
	
<p>松崎 博子 Matsuzaki Hiroko</p>	
<p>人文科学部総合歴史学科 准教授</p>	
<p>【プロフィール】</p> <p>1982年 茨城県出身 図書館情報学(博士) 図書館司書/学校図書館 司書教諭課程を担当</p>	
<p>【主な社会的活動】</p> <p>2021-現在 岡山市社会教育委員</p> <p>2020-2021年 真庭市図書館基本計画 策定委員会委員</p>	
<p>【その他】</p> <p>2023年 アート・ドキュメンテーション 学会 研究奨励賞受賞</p> <p>2023年-現在 日本図書館研究会評議員</p> <p>2007年-現在 日本図書館文化史研究会 運営委員・研究担当</p>	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>さまざまな立場の方から図書館に関するお話を伺い、対話し、協働する機会を得ることで、図書館の機能や社会的役割に関する理解を深めたいと考えています。</p> 

<p>人文地理学</p> <p>keyword</p> <p>観光地 観光産業 温泉資源 観光振興 近現代の観光史 都市の成り立ち</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>近現代における観光地の形成と発展</p>
	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
<p>中山 穂孝 Hotaka Nakayama</p>	<p>日本を代表する温泉観光地である大分県別府市と静岡県熱海市を対象に、近現代の観光地の成り立ちを、温泉資源の活用と管理、都市・交通インフラの整備、中央政府による観光政策などに注目しながら研究を進めてきました。2019年4月からの3年間は、川村学園女子大学にて観光地の形成や観光地の文化的・歴史的な特徴に関する教育活動を行いました。2022年4月より就実大学に着任し、地域の歴史遺産の保護・活用に関する教育活動を地理学的な視点から行っています。</p>
<p>人文科学部総合歴史学科 講師</p>	<p>研究手法は、現地での資料調査とフィールドワークが中心です。研究対象地に赴き、公文書館や図書館において資料を収集し、関係者に聞き取り調査などを行います。そして、手に入れた資料と地図を片手に、現地を歩き、時代の流れや地域の変化を肌で感じることを大切にしています。</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1989年 千葉県生まれ ・大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学 ・2019年 博士(文学) ・川村学園女子大学を経て、現職 	<p>新型コロナウイルスの感染拡大によって、日本の観光産業は大きな打撃を受けています。人々の移動や交流が制限されるなか、観光地は様々なかたちで観光客の誘致に努めています。そのなかで、マイクロツーリズムと呼ばれる近距離観光が注目を集めています。つまり、県境をまたがずに移動できる地域の観光地に関心が寄せられており、今まで観光資源とはみなされてこなかったような地域の文化や歴史、自然環境などが新しい観光資源となる可能性が高まっているのです。これまで培ってきたフィールドワークの経験を活かし、新しい地域の魅力を、皆さんとともに探し、地域の活性化の力になればと考えています。</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本地理学会 ・人文地理学会 ・日本温泉地域学会 ・観光学術学会 ・地域地理科学学会 	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>フィールドワークを通して、地域のなかで思わぬ発見をすることがあります。こうした小さな発見が、やがて大きな資源となる可能性もあります。そのお手伝いができれば幸いです。</p>
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県我孫子市手賀沼公園便益施設設置予定者選定委員(2020年～2021年) 	

<p>心理学 発達科学</p> <p>keyword</p> <ul style="list-style-type: none"> ■身体の左右差と認知 ■潜在的知覚処理と運動処理 ■リズムの個人差 ■遺伝と環境 	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>側性における遺伝と環境要因の推定 潜在的知覚と運動処理との関連性</p>
	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 潜在的知覚処理とは、俗にいう「サブリミナル効果」です。サブリミナル効果の研究というと怪しい感じがするかもしれませんが、注意を向けていない対象物が、その後の行動に影響を与えているかどうか、また影響があるならば、どのようなものなのかを検討していると思っていただけるとありがたいです。おそらく、商品进行评估の際には、官能評価を主に実施すると思われるが、前提として「注意を十分に払っている資料(商品)」を対象としているでしょう。日常場面では、ちらりとしか見ていない(注意を払っていない)ものでも、消費行動に影響を与えている可能性があると思います。
<p>鈴木 国威 Kunitake Suzuki</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 遺伝と環境要因の影響の推定とは、表現型の分散における遺伝子や環境が寄与する割合を推定することです。その推定の際には、共分散構造モデリングを使用します。したがって、測定可能であれば、様々な行動に応用することが可能です。例えば、遺伝が高い寄与をしていると考えられている疾患について、遺伝と環境の大きさを推定することで、介入(環境、商品やサービス)の可能性を考えることができます。従来の方法では、遺伝と環境は交絡しているため、サービスそのものに効果があるのかが推定できないことが多いです。この手法を用いることで、より正確な推定が可能となるでしょう。
<p>教育学部 教育心理学科 教授</p>	
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 東京都立大学理学研究科 博士 ● 慶應義塾大学先端研究センター研究員 ● 大阪人間科学大学 准教授 ● 現在: 就実大学 教授 	
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本双生児研究学会 幹事 ● 日本心理学会 ● Association for Psychological Science ● 日本発達心理学会 ● 日本イメージ心理学会 など会員 	
<p>【その他】 詳細は</p>	
<p>https://researchmap.jp/tyrv123</p>	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>その他、感性、官能評価などに関してお手伝いできるかもしれません。</p>

臨床心理学	【代表的な研究テーマ】
keyword	スクールカウンセリングにおける教師に対する コンサルテーション
臨床心理学 (学校臨床) スクールカウンセリング スクールカウンセラー・コ ンサルテーション	代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明 <p>私は、臨床心理士として、平成10年から現在まで、岡山県内の小中学校でスクールカウンセラーをしてきました。その中で、1対1のカウンセリングだけでなく、学校という場では先生（教師）とどのように連携・協力していくのが大切であると気づき、先生と一緒に子供たちの課題に取り組んでいく「コンサルテーション」を実践するとともに、研究するに至りました。</p>
	<p>コンサルテーションとは？</p> <p>「カウンセリング」はクライアントとカウンセラーの1対1の関係、「コンサルテーション」は課題（クライアント）とコンサルティ（例えば、困っておられる先生）とコンサルタント（スクールカウンセラー）の3者の関係です。コンサルテーションは、コンサルティ（先生、教育の専門家）とコンサルタント（スクールカウンセラー、心理臨床の専門家）が、コンサルティ（先生）の仕事上の課題について行う作戦会議であり、先生の個人的な問題を治療するものではありません。</p>
石原みちる Michiru Ishihara	<p>なぜ、コンサルテーションなの？</p> <p>私がコンサルテーションに感じる魅力は、コンサルティ（先生、教育の専門家）が、ご自身とは別の専門家（スクールカウンセラー）と相談することで、今困っている子供の問題だけでなく、他の子供たちに対して視野をひろげてくださることが少なくないということです。</p> <p>学校現場の問題は、本当に色々なことが複雑に絡み合っているのです、すぐに解決することはなかなかありません。ですが、だからこそ、今ある事態の中で何に目を付けていくのかを探したり、失敗したと思った取り組みから次に使える情報を見つけ出したり、小さな変化を一緒に喜んだり・・・そうしたことを心理臨床の視点で提供できることは大事なことだと思っています。あきらめずに先生方と一緒に取り組んでいくこともスクールカウンセラーのコンサルテーションの魅力だと思っています。</p>
教育学部・教育心理学科 教授	
【プロフィール】 大阪府 出身 京都大学大学院 教育学 研究科 博士後期課程 単位取得満期退学 兵庫教育大学連合大学 院 学校教育学研究科修 了(博士:学校教育学) 山陽学園短期大学 講 師 山陽学園大学 講師 准教授 を経て現職	
【主な社会的活動】 ・岡山県スクールカウ ンセラー/岡山市スクール カウンセラー ・岡山県スクールカウ ンセラースーパーヴァイザ ー	<p>図：コンサルテーションは3者の関係</p>
【その他】 臨床心理士・公認心理師	企業・自治体等へのメッセージ スクールカウンセラーや教育相談の研修でもお役に立てれば幸いです。

臨床心理学	【代表的な研究テーマ】
keyword	身体疾患を抱えた人に対するイメージを用いた心理療法
臨床心理学 心理臨床学 箱庭療法 イメージ 心身症	
	代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明
桑原 晴子 KUWABARA Haruko	私の現在の研究テーマは、C.G.Jung の分析心理学における共時性という概念に着目をした研究を行っていますが、この研究テーマは企業・自治体との連携には向かないテーマになっています。
教育学部 教育心理学科 教授	そのため、そのような観点に適切な研究テーマ(共同研究を含む)は大きく分けて以下の二つになります。
【プロフィール】	①身体疾患を抱えた人の心理的特徴に関する研究
京都大学大学院教育学 研究科博士後期課程単 位取得満期退学	私はこれまで身体疾患を抱えた人の心理支援に関わることが多く、そのような身体疾患を抱えた人の心理的特徴について、様々な心理検査(質問紙法やバウムテストなどの描画法)を用いて調査研究を行ってきました(共同研究)。具体的には、そのような質問紙法やバウムテストにどのような特徴が表れているかについて統計的に比較検討を行う研究を行っています。またそのような心理的特徴を持つ人のカウンセリングはどのような特徴があるのかについて、量的・質的な研究も行っています。これらの研究は、病院臨床の実践と密接に関わる基礎研究であり、そこで得られた知見をまた心理臨床実践に生かしていくことができることが研究の魅力だと考えています。
兵庫教育大学連合大学 院学校教育学研究科修 了(博士(学校教育学)) 岡山大学教育学部講師・ 社会文化科学研究科准 教授を経て現職	②イメージを用いた心理療法(箱庭療法, 描画療法)に関する研究
【主な社会的活動】	上の①と重なる部分もありますが、私はイメージを大切にする心理療法に関心を持ち、実践しています。イメージというのは、わたしのところから生まれるものでありながら、わたしを超える力を持つおもしろさを持っています。具体的には箱庭療法や描画療法を実践しています。この研究は主に心理臨床実践の事例研究法を用いることが多いですが、共同研究などでは、それらの事例を多数集め、その特徴について統計的な処理を行った考察する研究を行うこともあります。
・日本心理臨床学会 ・日本箱庭療法学会 ・日本ユング心理学会	このように、私は、うまく言葉にならないような、こころとからだ、意識と無意識などの境界の体験に関心を持っているとまとめることができるかもしれません。そこに、こころの不思議と魅力を感じながら、日々教育研究と心理臨床実践に携わっています。
【その他】	
臨床心理士・公認心理師 病院非常勤カウンセラ ー	企業・自治体等へのメッセージ
	イメージを用いた心理療法(箱庭, 描画など)の研究や研修(ワークショップ)等でお役に立てれば幸いです。

臨床心理学	【代表的な研究テーマ】
keyword	認知行動療法を用いた遠隔(オンライン)心理教育プログラムの開発と効果検証
<ul style="list-style-type: none"> ■ 認知行動療法 ■ 不安症(パニック症, 強迫症, 社交不安症など) ■ 遠隔心理療法(オンラインカウンセリング) 	
	代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明
永田 忍 Shinobu Nagata	<p>新型コロナウイルス感染症のパンデミックを経験して以降, 社会活動の場で Zoom 等の Web 会議ツールが積極的に活用されるようになりました。心理臨床実践の場においても, 国内外で対面カウンセリングと Web 会議ツールを用いた遠隔(オンライン)カウンセリングの比較検討が数多くなされており, 遠隔カウンセリングは, 対面カウンセリングと同等の効果があることが示されています。</p>
教育学部・教育心理学科 准教授	<p>認知行動療法でも同様で, うつ病や不安症を中心に多くのランダム化比較試験が実施され, 遠隔は対面と同等の有効性があることがメタ解析で示されています。一例として, Carlbring et al. (2018) は, 遠隔と対面の認知行動療法を受けたクライアントの脱落率はメタ・ロジスティック回帰分析で有意差がなかったことを示しています。国内でも遠隔認知行動療法は, 新型コロナウイルス感染症の感染予防, カウンセリングの供給が困難な地域や, 外出困難な CI への認知行動療法の提供という面で近年の発展は著しいものがあります。</p>
【プロフィール】 神奈川県出身	<p>私は千葉大学の博士課程で不安症の認知行動療法を学ぶことと並行してパニック症の認知行動療法マニュアル作成に携わりました。その後, 対面と遠隔の不安症をはじめとした精神疾患の方への認知行動療法の実践に長年携わってまいりました。</p>
千葉県内の心療内科クリニック常勤心理職(17年間)として勤務しながら, 千葉大学大学院医学薬学府先端医学薬学専攻博士課程(認知行動生理学)を修了(博士:医学)	<p>これらの経験を活かし, 今後は皆様とともに認知行動療法を用いた遠隔(オンライン)心理教育プログラムの開発と効果検証を行うことで, カウンセリングの供給が困難な地域の方々にも大都市圏と同等の認知行動療法を受けることができるシステムを構築していきたいと考えております。</p>
【主な社会的活動】 千葉大学大学院医学研究院非常勤講師	<p>上記のテーマにご賛同いただける際にはお声掛けの程, 是非ともよろしく願い申し上げます。</p>
日本認知・行動療法学会 認知行動療法スーパーバイザー	<p>以下に私に関心をもっているテーマを記載させていただきます。</p>
日本心理臨床学会 心理臨床学研究 編集委員	【企業・自治体の方々と取り組みたいと思っているテーマ】
【その他】 公認心理師 臨床心理士 キャリア・コンサルタント シニア産業カウンセラー	<ul style="list-style-type: none"> ・不安症(特にパニック症)の遠隔集団認知行動療法の開発と効果検証 ・メンタルヘルスに関連する認知行動療法アプリの開発と効果検証 ・認知行動療法の遠隔ケースカンファレンスの実践システムの構築 <p>(※超アナログ人間のため, 開発に関してお力添えいただきたいと思っております)</p>
	
企業・自治体等へのメッセージ	<p>ご一緒に中四国のメンタルヘルス向上に関する活動を推進していきたいと思っております。何卒よろしく願い申し上げます。</p>

スポーツ・健康

keyword

体力・健康づくり
身体活動
有酸素能力
体力・運動能力向上



森村 和浩

Morimura, Kazuhiro

教育学部
准教授

k_morimura@shujitsu.ac.jp

【プロフィール】

・1978 年香川県生まれ。2001 年福岡大学体育学部卒業。福岡大学大学院体育学研究科修士課程修了。博士(スポーツ健康科学)。福岡大学スポーツ科学部助手、研究員、助教を経て現職。研究分野は、応用健康科学、スポーツ科学。子どもから高齢者、有疾患者まで、運動・スポーツを介した心と身体の健康に関わる研究や普及に携わる。

【主な社会的活動】

- ・日本体力医学会(評議員)
- ・日本体育・スポーツ・健康学会
- ・日本健康支援学会
- ・日本発育発達学会
- ・日本学校保健学会
- ・ランニング学会

【著書等】

「10 分間のジョギング活動が子どもにもたらす大きな効用」**体育科教育**

「スポーツと君たち—10 代のためのスポーツ教養」**大修館書店**

「地域在住中高齢女性における運動介入に伴う体重減少がセルフ・エフィカシーに及ぼす影響」**日本スポーツ健康科学誌**

「児童のスポーツ活動状況と食意識および保護者の食教育に対する意識の関連性」**体力科学** 等

□身心の最適化を目指した身体活動・体力科学的アプローチ

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

運動習慣やその結果として得られる高い有酸素能は、年齢や性、人種を問わず身心の健康と密接に関連していることが明らかとなっています。生活の中で有酸素能の向上や改善に努めることは、アクティブで豊かな生活の礎を築く上で重要であることは言うまでもありません。しかし、私たちの生活に不可欠な有酸素能を高めるための運動には下限強度が存在するため、これを下回る強度での活動や運動は、期待するような効果を得られない可能性があるため、何でも動けば良いというわけではありません。身体と心(脳)の最適化や豊かな社会生活を送るためには、多様な人が『最適な運動強度』の運動や生活活動をそれぞれの生活や社会の中で、いつでも、どこでも、獲得、実践できるようにすることも必要です。未曾有の少子超高齢社会、昨今の著しい不活動化で生じる様々な問題の解決と持続可能な社会の実現に向けて個人や集団、そして地域社会に対して体力科学的にアプローチしていく必要があると考えています。



《受け入れ可能な共同研究・連携内容例》

- ・地域・企業、で取り組む健康づくり、公共空間を活用した体力・運動機能の向上推進
- ・学校空間を利用した体力・学力向上プログラム
- ・健康度・体力測定・調査 など

《これまでの企業・自治体等の連携・社会貢献活動》

- ・(株)アサヒコーポレーション、福岡大学共同事業(理想の靴づくり) 研究メンバー
- ・「健康づくりはまちづくり! 田島健康講座」講師及び運動指導
- ・シニア☆アピスパ de 健康教室 講師及び運動指導 ・健康サポートセミナー(福岡市) 講師
- ・福岡県教育委員会『鍛えよう褒めようプロジェクト』推進委員
- ・福岡県教育委員会『鍛えよう褒めよう研究プロジェクト』運動部門リサーチメンバー
- ・総社市岡山県立大学連携事業メディカルフィットネス 研究メンバー
- ・笠岡市ぐるりんウォーク スタートイベント講演会 講師 ・吉備創世カレッジ講座 講師
- ・日本スロージョギング®協会アドバイザー 等

企業・自治体等へのメッセージ

運動・スポーツを通じて子どもから高齢者、地域の方々の健康をサポートできればと思っています。運動・スポーツを介した健康づくりに関わる研究・開発や普及・促進、地域貢献等、企業・自治体の皆様と協働・協創できれば幸いです。

<p>経済・経営</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p>
<p><i>keyword</i></p>	<p>サステナビリティ時代における企業の社会的責任および企業の存在意義に関する研究</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ CSR(企業の社会的責任) ■ 経営哲学 ■ 企業のパーパス ■ SDGs 	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
	<p>企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility)として要請される事柄は、時代によって、あるいは国や地域によって様々です。例えば戦後日本においては、経済を復興させること・雇用を創出することなどが、また高度経済成長期においては公害への対応が社会的責任として求められてきました。グローバル化が進む 1980 年代以降は進出先における人権・労働問題への対応、1990 年代以降は地球環境問題への対応といった具合に、社会が企業に求め期待する実践内容は実に多様なものへと広がりを見せています。SDGs やサステナビリティという言葉が市民権を得た現在において、企業が果たすべき社会的責任とは何であり何であるべきか。企業が中長期的に発展していくためには、この点をしっかりと理解・認識することが大切だと考えています。</p> <p>また昨今、企業の存在意義(purpose:パーパス)を改めて問い直そうとする動きが国内外で活発化してきています。流行語のように使われる「パーパス」という言葉と、もともと日本に定着している「経営理念」「経営哲学」とは何が違うのでしょうか。最近はこうした点についても研究をおこなっています。</p>
<p>大塚 祐一 Yuichi Otsuka</p>	<p>以下の事項に関するご相談がありましたら、お気軽にお問い合わせください。</p>
<p>経営学部 准教授 博士(経営学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現代における CSR 全般に関する事柄 ■ CSR、CSV、SDGs、ESG など類似概念の理解や解釈の仕方に関する事柄 ■ 中小企業における SDGs の推進に関する事柄 ■ 経営理念とパーパスの関係性(共通点や相違点)に関する事柄 ■ 経営理念やパーパスの策定に関する事柄 ■ 社内外に向けた CSR 情報の発信・開示に関する事柄
<p>【プロフィール】</p>	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p>
<p>1984 年生まれ、東京都出身。2007 年 3 月、麗澤大学国際経済学部卒業、2019 年 3 月、同大学院経済研究科博士課程修了。2019 年 4 月より就実大学経営学部講師、2023 年 4 月より現職。</p>	<p>岡山県は「SDGs 未来都市」として 4 つの自治体が選定されており、自治体・産業界・教育機関・その他各種団体が密に連携を図って地域の持続可能な発展に向けてご尽力されておられます。CSR や SDGs の視点から協働することができれば幸いです。</p>
<p>【主な社会的活動】</p>	<p>【その他】</p>
<p>日本経営倫理学会、経済社会学会、地域デザイン学会に所属。学外委員として、岡山県人権政策審議会委員(2023 年-)、岡山市女性活躍推進協議会座長(2022 年-)、公益財団法人モラロジー道德教育財団客員研究員(2019 年-)。</p>	<p>経歴や研究業績の詳細は、researchmap.jp/otsuka.y</p>

経済・経営

keyword

- 地域資源
- 消費者行動
- マーケティング
- 観光



古安 理英子

Rieko Koyasu

経営学部・経営学科
講師

【プロフィール】

鳥取大学、博士（農学）

【主な社会的活動】

- ・日本マーケティング学会
- ・日本観光研究学会
- ・地域活性化学会等

【その他】

[1]古安理英子・赤沢克洋 (2023): 観光土産品店における利用者が希求する価値に関する定量分析, 地域活性化研究, 18, pp.11-20.

[2]古安理英子・赤沢克洋 (2020): 産業遺産への満足をもたらす要因に関する定量分析—石見銀山跡における経験の評価からの接近—, 地域活性化研究, 12, pp.25-34.

[3]古安理英子・赤沢克洋 (2019): ベスト・ワースト・スケーリングによる温泉地への期待に関する定量分析—玉造温泉宿泊者を対象として—, 温泉地域研究, 33, pp.25-36.

【代表的な研究テーマ】

地域資源に関わるステークホルダーの選好の定量評価

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

地域には、自然、歴史、文化などさまざまな資源があります。こうした地域資源を活用することは、地場産業の振興、交流人口の拡大、地域愛着の醸成などといった地域振興の一助となります。このとき、消費者をはじめとしたさまざまなステークホルダーの意識・選好・行動を把握し、効果的なマーケティングを行っていくことが重要です。

そこで私は、それらのステークホルダーを回答主体とした質問紙調査の実施とそのデータの統計的処理によって、地域資源に関わるステークホルダーの意識・選好・行動を定量的に明らかにし、地域資源の有効なマーケティング戦略に関する知見の提示に取り組んでいます。たとえば、顕在旅行者を回答主体とした、旅行地に対する期待や満足に関する質問紙調査を実施し、顕在旅行者層の特徴、期待や旅行満足の構成要因などを解明しています。さらに、それらの分析に基づき、旅行者のターゲット層や訴求すべき魅力等を検討しています。

これまで取り上げた分析対象は、観光地（たとえば、世界遺産、国宝、ジオパーク、島嶼地域、温泉地など）、農産物直売所、観光土産物店、道の駅、美術館などです。分析手法には、潜在クラス分析、Best-Worst Scaling (BWS)、構造方程式モデリング、テキストマイニング等を採用しています。

こうした調査・分析・検討を通して、利用者満足の向上や顧客ロイヤルティの醸成といったマーケティング戦略目標の達成に有用な知見を提示し、企業や行政等による地域資源の有効活用に役立つ情報を明らかにしたいと考えています。



図 1. 分析対象の例
(農産物直売所)



図 2. 分析対象の例
(観光土産物店)



図 3. 旅行者調査の様子
(歴史的町並み)

企業・自治体等へのメッセージ

地域や現場に出てぜひ勉強させていただきたいと思っております。
よろしくお願いいたします。

経済・経営

keyword

- 経営計画
- 食料・農業
- 地産地消、直売所
- 中山間地域
- 放牧畜産
- ニュージーランド農業



千田 雅之
Masayuki Senda

経営学部・教授
博士(農学)

【プロフィール】

1984 年岡山大学卒業
1985～2021 年 農林水産省入省、農業政策研究所、農業・食品産業技術総合研究機構(NARO)
2022 年 4 月より現職

【主な社会的活動】

日本農業経営学会会員
地域農林経済学会会員
畜産技術士会会員

【主な著書、論文】

- ・放牧が切りひらく水田農業と畜産の未来
- ・水田飼料作経営成立の可能性と条件
- ・アグロフォレストリーの統合力と存続条件
- ・ニュージーランドの放牧型肉牛経営における生産管理

【代表的な研究テーマ】

和牛放牧による耕作放棄地の解消、農業を通じた地域のネットワークづくり

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

■ 国土資源を利用した飼料作及び放牧畜産の推進

耕作放棄地の農地復元や、農業従事者の少ない中山間地域で農林地を有効活用する方法として和牛の放牧飼養があります。和牛はススキやヨシ、クズを好み、こうした植生の放棄地は放牧後 2～3 年で見通しがきくようになり、作物生産の再開も可能になります(写真)。

また、和牛1頭で約 40aの農用地の草本を採食しますので、少ない労力で広い農林地を管理する手法として適しています。放牧先進国のニュージーランドでは、一般的な家族経営で約 1000ha の農用地と 2000 頭の牛が飼われています。人口減少下でこうした農法のわが国への適応が有力な手法になりつつあります。



放牧開始直後の放棄地



放牧2年後の状態



ニュージーランドの土地景観

■ 農作物栽培等を通じた地域のネットワークづくり

最近関心を持ち、自らも実践しているテーマです。農林業に興味のある退職者やサラリーマン、児童と野菜や花蓮、キノコの栽培に取り組んでいます。彼ら初心者とともに、土づくりや栽培技術、美味しい食べ方、環境のことなどを学ぶ機会となっています。外国人技能実習生や障がい者ともこうした取り組みを広げたいと考えています。



企業・自治体等へのメッセージ

わが国の基幹的農業従事者は、最近 10 年間で約 34%(岡山県では 40%)も減少しています。また、2020 年の農業従事者の約 70%(岡山県では 82%)は 65 歳以上の高齢者です。このため、10 年後には農業従事者が激減し、耕作放棄地の激増が懸念されます。

他方、わが国の食料自給率は 40%を下回り、先進国の中では韓国や台湾と並び低い水準にあります。トウモロコシや飼料イネなどの飼料作物の生産・利用や放牧畜産の拡大は、限られた労働力で農林地の活用を広げ、食料自給率向上に貢献できる方法です。

同時に、農地を持たないけれど、農作物栽培に関心のある定年退職者やサラリーマン、学生等の農業生産への関わりを進めることも、国土資源の有効活用や食料自給率の向上、そして健康な地域社会の構築に重要と思われます。

和牛放牧による耕作放棄地の活用や、耕畜連携による国産飼料の生産と利用、一般市民の参加による地域農業の再生など、ご協力できることがあれば気軽にご連絡ください。

週末は仲間と、雄町米の栽培と日本酒造り、野菜、花蓮、原木シイタケなどの生産にも取り組んでいます。

<p>経済・経営</p> <p>keyword</p> <p>組織行動 人的資源管理 リーダーシップ モチベーション</p>  <p>日高 靖和 Yasukazu Hidaka</p> <p>経営学部経営学科 教授</p> <p>【プロフィール】 ■学歴 1989年大阪府立大学大学院工学研究科博士前期課程修了(修士/工学) 2007年大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了(修士/経済学) 2017年大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程修了(博士/経営学) ■職歴 1989年～2001年 大和銀行(現・りそな銀行)勤務。中小企業の融資審査、株式上場支援などに従事。 2001年～2020年 大阪経済大学勤務。学生の就職支援などに従事。 2020年～現在 就実大学経営学部教授。 2022年～現在 就実大学・就実短期大学キャリア支援・開発部長。</p> <p>【主な社会的活動】 ・日本経営学会 ・組織学会 ・経営行動科学学会など</p> <p>【その他】 ・建設業経理士1級</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>技術系人材のマネジメントに関する研究</p>
	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p> <p>1. 「組織行動」「人的資源管理」「リーダーシップ」「モチベーション」 「組織行動」「人的資源管理」「リーダーシップ」「モチベーション」などをキーワードに研究しております。ただし、経営に「万能薬」や「特効薬」はありません。企業や自治体の皆様が持っていらっしゃる問題意識をお聞かせいただきながら、少しでも有益な情報提供ができれば幸いです。私は長年の実務経験を通じて数多くの経営者やビジネスの最前線で活躍する人たちと出会い、その思慮深さと行動力に触れてまいりました。皆様のご意見を尊重しながら、お役に立てるよう努める所存です。</p> <p>2. 「保育所の人的資源管理」 最近、関心を持って取り組んでいる研究テーマです。これまでの経験や、培ってきた知識を活かしながら、取り組んでいきたいと考えております。皆様と連携しながら、新たな知見を得ることができれば、この上もない喜びです。</p> <p>3. 「企業の新卒採用に関する研究～インターンシップ活用の有効性～」 2022年度より、就実大学・就実短期大学キャリア支援・開発部長を務めており、企業の新卒採用に関心を持っております。皆様と連携しながら、新たな知見を得ることができれば、この上もない喜びです。</p> <p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>2020年4月に大阪から岡山へ参りました。教育・研究を通じて、微力ながら、岡山県の発展のために最善の努力を尽くす所存でございます。</p>

経営・経済

keyword

- 簿記・会計
- 経営診断
- 6次産業
- 中山間地域
- 持続型農業



古塚 秀夫
Furutsuka Hideo

経営学部・教授
農学博士

【プロフィール】

専門分野
・農業経済学
・農業会計学
略歴
・京都大学大学院農学研究科修士課程修了
・鳥取大学名誉教授

【主な社会的活動】

・モンゴルにおける農業簿記の普及と経営診断（モンゴルの国立大学と共同研究）
学会活動
・農業会計研究会（元会長）
・地域農林経済学会会員（元副会長）
委員・講師など
・中国地域ニュービジネス大賞表彰制度 審査会委員
・武庫川女子大学元非常勤講師
・鑑定評価実務研究会代表

【その他】

研究テーマ履歴
・農業会計原則の確立
・農産物の国際競争力
・グリーン・ツーリズムによる地域振興
・六次産業化による地域活性化
・モンゴルにおける小麦栽培経営の最適集約度と最適規模
主な著書（共著）
・『現代農業簿記会計概論』
・『農地評価の理論と実務』
・『現代漁業簿記会計』
・『戦後日本の食料・農業・農村 第8巻食料・農業・農村の六次産業化』

【代表的な研究テーマ】

- 開発途上国における簿記普及とそれにもとづく経営診断
- 六次産業化による中山間地域活性化

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

I. 六次産業化について:

農産物貿易の自由化が推進されることによって低価格の輸入農産物が増加して、国内価格は低迷しています。また、農産物需要が横ばい傾向にあります。したがって、農家1戸当たり農業所得は減少傾向を示しています。このために、農家数の減少、耕作放棄地の増加および中山間地域では過疎化が進んでいます。

他方、食生活では、調理・加工を企業や産業が担う、いわゆる、食生活の外部化が進んでいます。このような農業、食生活の現状から2011年に「六次産業化法」が施行されています。六次産業化の目標は、農家所得の向上、雇用の創出、定住できる地域社会の再生です。

岡山は、その気候を活かした桃、ブドウといった果実栽培が盛んです。このような農産物によって付加価値を農家に取り込んで、農業所得の増大、さらに地域社会を再生していくためには六次産業化が1つの方策であるといえます。

六次産業の考え方:

一次産業 × 二次産業 × 三次産業 = 六次産業



写真1:採卵養鶏からスタートしてレストラン展開へ

写真2:人気の卵かけご飯

写真1, 写真2は鳥取県八頭郡八頭町H社。

II. 農業簿記・漁業簿記について:

農業経営と漁業経営の改善による所得増大のためには、まず、経営状態の把握が必要です。また、今日、貿易の自由化が推進されているので、農業と漁業では国際競争力を高めることが課題といえます。国際競争力を高めるためには生産物単位当たりコスト(生産費)の低減が重要です。

このような経営状態の把握と国際競争力を高める手段として簿記があります。工業簿記、商業簿記とは異なる第一次産業に対応した農業簿記、漁業簿記の普及が重要ではないでしょうか。

このような簿記の普及とともに、経営管理技術、すなわち、経営診断能力の向上が今後と重要となっていきます。

経営管理のサイクル:まずは、現状把握から

- ・See → Plan → Do → See → …
- ・Check → Plan → Do → Check → Action → Check → Plan → …

企業・自治体等へのメッセージ

- ・農業簿記、漁業簿記にもとづく経営診断に関心がある企業・自治体の方はご連絡下さい。
- ・六次産業に関心がある企業・自治体の方はご連絡下さい。
- ・キノコ栽培経営に関心がある企業・自治体の方はご連絡下さい。

<p>経済・経営</p> <p>keyword</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキル形成 ・人材育成 ・イノベーション 	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>スキル形成とイノベーション</p>
	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
<p>堀 圭介 Keisuke HORI</p>	<p>研究シーズ概要</p> <p>専門は人的資源管理論とイノベーション論です。主に製造業を対象として、人材が経験を積みながらスキルを獲得していく過程・それを可能にする制度的要件、また各種イノベーションがこれらに与える影響を調査・分析しています。</p>
<p>経営学部 経営学科 准教授</p>	<p>本研究シーズの適用分野・用途</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 世代間でのスキル・熟練の継承に関する事柄 ➤ 人材の成長を促進させるような経験学習に関する事柄 ➤ 特に伝統産業におけるブランドイメージ向上に関する事柄 ➤ 特に伝統産業における製品開発に関する事柄
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一橋大学大学院 商学研究科(1999-2006) ・富士大学経済学部 講師・准教授(2006-2021) ・一橋大学 TDB-CAREE 客員研究員(2020-) ・就実大学経営学部 准教授(2021-) 	<p>こうした事項に関するご相談がありましたら、お気軽にお問い合わせください。</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本経営学会 ・人材育成学会 	
<p>【その他】</p> <p>経歴や研究業績の詳細は https://researchmap.jp/read/80438514</p>	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>岡山県には多様な産業と優れた企業が数多く存在しています。そこで働くビジネスパーソンの方々との交流を通して、産業発展の一助となれば幸いです。</p>

<p>経済・経営</p> <p>keyword</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 国際経営 ■ 多国籍企業論 ■ 事業継承 ■ インド家電市場 ■ 航空宇宙産業 	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 多国籍企業と現地化戦略 <input type="checkbox"/> 東アジア家族企業における事業継続問題
	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
<p>洪 性奉 Seongbong Hong</p>	<p>研究及び専門分野は、①「国際経営」、「多国籍企業論」、②「事業継承」である。これまで、グローバル企業が新興国市場で事業展開をする際に、現地子会社の企業形態および本社の機能、出資比率の構造が企業成果にもたらす影響を中心に研究を進めてきた。とりわけ、アジア家電市場の中でもインド市場に注目し、韓国の LG 電子やサムスン電子を事例とした定性的研究を行ってきた。近年では、その対象領域や分析手法を広げ、航空機製造における開発・生産分担方式のリスクとその変貌について研究を行っている。同産業は高度な技術が要求される代表的なシステムインテグレーション産業であり、他産業への技術の波及効果が高い産業である。さらに、国際ビジネスの上でリスクの高い産業であることから、今後、代表的なグローバル企業であるボーイングとエアバスの主なサプライチェーン・マネジメントの事例について考察し、航空機製造においてリスクを分散し収益を共有する RSP (Risk Sharing Partnership) 生産方式が普遍的な事業モデルとして定着された背景と理由について明らかにしたい。</p>
<p>経営学部 講師</p>	<p>次の「事業継承」に関連しては、長寿企業および経営理念という切口から、日・中・韓の国際比較研究を遂行している。企業が持続性を追求し、企業価値を高めていく上で、経営理念が如何なる役割を果たすかという問題意識を解明することに主眼を置いている。同研究に関しては、2017～18 年度にサントリー文化財団（共同研究）及び 2022～23 年度科学研究費助成事業（基盤研究 C）（研究代表者：竇少杰）による助成を受けている。同研究プロジェクトの狙いは、企業経営と家族企業という二つの側面から国家間の共通性と多様性を解明することである。その成果の一部は、2023 年に『東アジアの家族企業の事業継承：その共通性と多様性』（共著、竇少杰・河口充勇・洪性奉）として出版された。同書は日中韓 3 カ国で同時出版の予定であり、日本以外にも中国、韓国、香港、台湾の研究者が執筆陣として関わっている。東アジアの家族企業関連の研究過程で、海外の企業家及び研究者との交流は、アジア文化の特徴と多様性についてさらに理解を深めることで、現在、事業継続問題に悩んでいる経営者に助となることが期待される。</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同志社大学、博士 ・同志社大学院、助手 ・同志社大学、助教 ・就実大学、講師 <p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本比較経営学会会員 ・日本経営学会会員 ・アジア経営学会会員 ・国際商取引学会会員 ・アジア市場経済学会会員 ・同志社大学中小企業マネジメント研究センター研究員 ・特定非営利活動法人あめんど理事 <p>【その他】</p> <p>Asian Financial Crisis and LG Electronics Paradigm Shift, In: Izumi Mitsui (eds.), Cultural Translation of Management Philosophy in Asian Companies Its Emergence, Transmission, and Diffusion in the Global Era, Singapore, Springer, pp.137-152, (2020)</p> <p>「インド家電市場の構造変化と韓国家電メーカーの現地化戦略の再考察—LGEIL の事例研究—」『アジア市場経済学会年報』第 25 巻, pp. 91-99 (2022)</p> <p>【査読付】</p> <p>竇少杰・河口充勇・洪性奉 (2023)『東アジアの家族企業と事業継承—その共通性と多様性—』文眞堂【共著】</p>	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>今後、以上のような経験を活かして、海外（特に東アジア）に進出及び、事業継続問題を抱えている企業及び研究団体に少しでも貢献したいと思います。</p>

経済・経営

【代表的な研究テーマ】

keyword

多変量データの可視化手法の開発とその応用

データ解析

統計分析

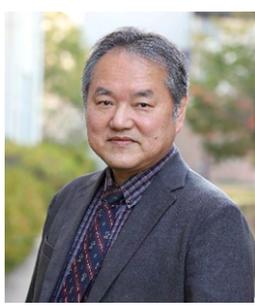
多変量解析

データサイエンス

グラフ解析法

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

ビッグデータの時代になり、データは複雑化し、さまざまな種類のデータが社会に溢れています。それらの複雑な多変量データをできるだけシンプルに可視化することで、直感的かつ容易に、数値だけでは得られない知見を得ることが可能になります。また、多変量解析の手法においても数値結果だけではなく、グラフ表現が併用されることがあります。例えば、階層型クラスター分析においては、デンドログラムで可視化することが一般的に行われていますし、MDSにおいても距離の関係を2次元プロットで表示することが多いと言えます。また、主成分分析などにおいても主成分の解釈を容易にするために、負荷量を2次元座標上にプロットすることがあります。非線形構造のデータのクラスタリングにおいては、MDSや t-SNE、UMAP などを用いて可視化することにより、直感的にクラスタの分類を把握することができます。私たちは、これまで、数値解析を補完することを目的として、グラフ解析手法の提案や開発を行い、それらのグラフを経営学や心理学、教育学などさまざまな領域に応用することを行ってきました。



福森 護

Mamoru Fukumori

経営学部・経営学科
教授

【プロフィール】

1985年 岡山大学大学院
修士課程文学研究科修了
(文学修士：心理学)

1986年 岡山大学理学部
数学科研究生修了

1995年 岡山大学大学院
博士課程自然科学研究科
修了(博士(学術)：計算
機統計学)

1989年～2022年度 中国
短期大学勤務(中国短期
大学名誉教授)

2023年 就実大学経営学
部教授

【主な社会的活動】

- ・岡山心理学会理事
- ・約10年間、テレビ番組制作活動(番組内で、里庄町・矢掛町・総社市などの市町村や倉フェスなどのイベント、地元の企業との連携活動を行う。)

【その他】

- ・文部科学省 短期大学教育功労者表彰

最近では、変数をベクトルに変換し、それらのベクトルを連結することにより標本をプロットするグラフや、レーダーチャートと漢字1文字との組み合わせによって、クラスタの特徴を可視化するグラフなどを開発しました。以下の図は、スコッチウイスキー80銘柄のフレーバーのデータを用いて、前者のグラフ(図1)と後者のグラフ(図2)で描いたものです。後者のグラフは、ある特定のクラスタの各変数の標準偏差をレーダーチャートに描き、変数の値を大きさとした漢字1文字をレーダーチャート上に描くことで、そのクラスタの特徴を表しています。このように、データを可視化することにより、スコッチウイスキーのフレーバーが5つのクラスタに分類されることや、あるクラスタは、スモーキーでフルボディのフレーバーを持つことなどの特徴を一目で把握することができます。

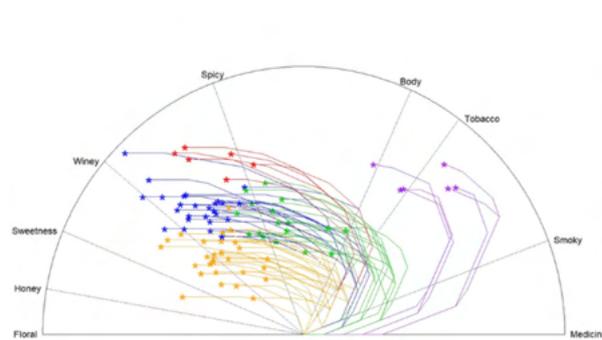


図1. スコッチウイスキー80銘柄のクラスタ

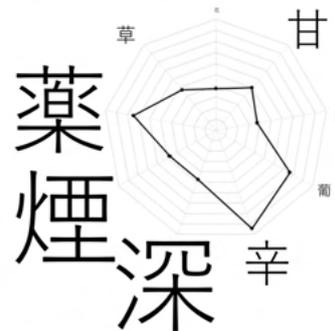


図2. 紫色のクラスタの特徴

企業・自治体等へのメッセージ

統計手法を正しく活用することでデータに隠された新たな知見を得ることができます。私のノウハウが何かのお役に立てれば幸いです。また、データ解析以外にも、10年以上に渡り、テレビの番組制作などに関わらせていただき、市町村や企業との連携活動も行っています。それらの経験を活かして地域に少しでも貢献できればと思っています。

<p>経済・経営</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p>
<p>keyword</p>	<p>人口動態(転入・転出, 結婚, 出生)についての実証研究</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ ミクロ経済学 ■ 人口移動 ■ 結婚・出生 ■ 実証分析 	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
	<p>代表的な研究テーマ</p>
<p>水ノ上 智邦 Tomokuni Mizunoue</p>	<p>日本の人口問題の構造を解明し、地域が抱える問題の解消のために貢献することを目的に研究しています。</p>
<p>経営学部・経営学科 教授</p>	<p>現在の日本が抱える最大の問題は急激な人口減少であり、その影響は特に地方において甚大です。地域の人口減少の原因となる進学・就職に伴う転出、出生や結婚など個人の行動や意思決定に関心があります。これらの決定は経済的要因のみならず、社会的要因や地域的要因など様々な要因によって決定されるため、複数の視点からの考察が不可欠であり、学際的な研究分野とも言えます。</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広島県尾道市出身 ・ 同志社大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学 	<p>現在は、行政や他分野の研究者と連携し、社会移動(人口転入・転出)についての実証的な研究を進めています。2023年3月には、全国25,000人を対象としたアンケート調査を実施し、人々が進学、就職、結婚や出生というライフイベントに際して、どのように居住地を変化させるかを分析しています。これらの分析を通じて、「なぜ若者は転出するのか」、「なぜUターンしないのか」など多くの地方自治体が共有する問題の理解を深める一助となる実証的な研究を目指しています。先行研究では主に雇用面などの経済的側面からのアプローチが中心ですが、我々が行ってきた過去の研究結果からは、経済的側面に加えて、補完的に異なる視点からのアプローチの必要性が浮かび上がってきました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 徳島文理大学総合政策学部 専任講師, 准教授, 教授を経て現職 	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本経済学会会員 ・ 日本金融学会会員 ・ 日本人口学会会員 ・ とくしま EBPM 研究会メンバー 	<p>研究手法として、データを用いた統計的な解析を用いており、行政現場において EBPM (Evidenced Based Policy Making:エビデンスに基づいた政策立案)の推進を進める研究会に所属しています。「勘」、「経験」、「思い込み」に囚われず、適切なデータの収集・分析を通じた客観的な現状認識と方針の決定は、行政における政策立案のみならず、民間企業など様々な組織においても、これまで以上にその重要性が認識されているのではないのでしょうか。</p>
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『日本経済と公共部門のダイナミクス』(共著, 晃洋書房) 	<p>これまでに上記の調査のほかにも、「企業における仕事と子育ての両立支援」、「企業におけるテレワークの導入」、「観光客による交通機関の利用」などについて、アンケートの作成・計量的な分析やヒアリング調査を行ってきました。データに基づいた分析は、様々な組織の問題点を探り、解決策を見出す一助となるかもしれません。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ パーソナルファイナンス学会 2020 年度研究奨励賞 	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p>
	<p>上記のような人口動態に限らず、個人の意思決定全般や、人々の行動変容を促すナッジにも関心があります。結論ありきではなく、「共に課題発見・解決を目指したい」という自治体・企業の方からのご連絡をお待ちしています。</p>

<p>経済・経営</p> <p>keyword</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際ビジネス 国際商取引 国際ビジネスコミュニケーション 貿易商務 	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ インコタームズの適用に関する比較研究：ロシアと東欧・旧ソ連諸国を中心に □ ロシアにおける国際ビジネスと貿易に対する国際制裁の影響
	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
<p>キセリョフ エフゲーニ Evgeny KISELEV</p> <p>経営学部 経営学科 准教授</p>	<p>最近、関心を持って取り込んでいる研究テーマは、ロシアと東欧・旧ソ連諸国におけるインコタームズ（国際貿易条件）の使用状況です。インコタームズは、国際商取引において商品の引渡し、輸送、リスク移転に関する買手と売手の権利と義務を定める重要な役割を果たしています。国際取引のダイナミックな性質から、貿易条件の適用に関する様々な側面の調査は重要な学術およびビジネスの課題です。最近の研究では、インコタームズがロシアと東欧・旧ソ連諸国においてどのように適用されているのか、そしてその適用に影響を与える要因を明らかにすることを目的としています。特に、これらの地域での貿易条件の進化、法的地位、適用に焦点を当てています。</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2011年 関西学院大学商学研究科博士課程前期過程修了（修士／国際ビジネス） ・2017年 関西学院大学商学研究科博士課程後期過程修了（博士／商学） 	<p>研究課題に関しては、まず、ソビエト時代の東欧・旧ソ連諸国地域での貿易条件の歴史的背景と適用について分析が必要です。ソ連の貿易において一般的に使用されていたインコタームズは、商品の引渡しに関する買手と売手の権利と義務を定める手段の一つであったが、これが唯一のアプローチではありませんでした。インコタームズとソビエト時代の貿易条件（一般納入條款）の相違点と共通点の評価は、ソビエト連邦の崩壊後におけるこれら地域のビジネス慣行の理解を促進することに重要です。</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際商取引学会幹事 ・国際ビジネスコミュニケーション学会会員 ・ロシア・東欧学会会員 ・日本港湾経済学会会員 	<p>次に、インコタームズの現状とビジネス慣行への取り込みを、東欧・旧ソ連諸国の異なる地域で比較を進めています。一部の東欧諸国は迅速に欧州の貿易に統合され、最終的には欧州連合のメンバーになりました。一方、中央アジアなどの他の地域は移行が遅れがちでありながらも、ロシアとの強固な貿易関係を維持しています。ロシアと東欧・旧ソ連諸国の異なる国で使用されるインコタームズを比較することで、その適用における規則性を把握することが重要です。</p>
<p>【その他】</p> <p>経歴や研究業績の詳細は https://researchmap.jp/kiselev_ev</p>	<p>各地域のインコタームズを巡る研究のもう一つの目標は、インコタームズが国際貿易の効率性に与える影響と効果を評価することです。インコタームズが物流、関税、取引に関わる費用やリスクの配分にどのように影響を与えるのかを分析が必要です。各地域におけるインコタームズの適用に関する学術文献の分析を通じて、ロシアと東欧・旧ソ連諸国における貿易運営に対してインコタームズがどのように貢献するかを検討しなければなりません。</p>
	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>国際紛争、経済制裁、政治的安定性、地域統合の取り組みがインコタームズの適用との相互作用を把握することを通じて、ロシアと東欧・旧ソ連諸国の国際貿易に関与する企業に一助となれば幸いです。</p>

<p>経済・経営</p> <p>keyword</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□産学連携活動、公民連携活動</p>
<p>地域経済 産業 地方創生 官民連携</p>	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
	<p>□産学連携活動</p> <p>産学連携活動(人材育成)の効果を探求</p> <p>地域企業と大学の連携活動は、従来から技術導入、製品開発、性能評価など多岐にわたって進められています。本学においても薬学部をはじめ、さまざまな学部で連携活動を行ってきました。経営学部では、経営管理に関わる問題をはじめ、組織開発、マーケティングなどの分野の研修等に講師を派遣してきました。</p> <p>また、経営学部では学生が2年次後期に長期インターンシップを経験する機会をいただき、地域の企業と交流・人材育成についてご協力をいただいています。</p> <p>2023年度からは経営実践コースとして、PBL実習(project based learning)という、地域の企業が抱える課題に取り組むコースを開設し、地域社会の企業活動に貢献しつつ、そうした学生の養成にチャレンジしてまいります。</p> <p>インターンシップやPBL実習は、企業と大学を架橋する学習様式であり、学生が学びを得るのはもちろんのこと、企業、大学にも大きな影響や効果をもたらしているはずです。</p> <p>こうした結果を把握し、戦略的に企業、大学が教育を通じて、事業や教育の質を高めていくことが、地域の経済活動に好影響を与えるものと認識し、研究しています。</p>
<p>宮前 善充 Yoshimitsu Miyamae</p> <p>経営学部・経営学科 教授</p>	<p>□公民連携活動</p> <p>公民連携活動の意義</p> <p>地域の課題を解決する役割を担うのは、地方自治体だけでなく、従来から町内会をはじめ、NPOやNGOなど非営利団体などが関わってきました。しかし、人口の減少などで、地域の課題が多様に拡大、関係分野も従来は所得配分や福祉、医療、教育、初期投資の大きな費用逓減事業など単一の課題だったものから、相続、金融資産、住宅、土地、環境、DX、地域経済など複数で広範な分野を包括したものに変化しています。加えて長期の視点で、経済性や環境保全、利用者や地域の利益を考えながら、向き合っていくことが求められています。</p> <p>こうした課題を解決するためには、企画段階から民間事業者を含めて、前例に捉われない創意工夫を凝らした考えが求められています。こうした新たな手法を研究しています。</p> <p>□連携活動がもたらすもの</p> <p>連携活動の肝となるのは、人材ネットワークとそれを形成するコミュニケーションと認識しています。研究活動ではオープンイノベーションといった手法が取り入れられ、さまざまな組織の研究者が研究開発に従事して、新たな技術を生み出しています。経営分野、人材分野においても、フレキシブルな制度が開発されつつあります。こうした制度とIT技術を取り入れることにより、相互の経営資源を活用し、新しい事業の確立や人材の輩出が期待されます。</p>
<p>【プロフィール】</p> <p>1965年岡山市生まれ</p> <p>1989年早稲田大学政治経済学部経済学科卒業</p> <p>同年 中国銀行入行</p> <p>1997年岡山経済研究所出向</p> <p>2021年4月より現職</p> <p>【主な社会的活動】</p> <p>一社)岡山県中小企業診断士会執行役員</p> <p>【その他】</p> <p>地域経済の理解・把握や地域の課題を調査研究しています。また、前職では受託案件として、経済波及効果分析、官民連携事業の可能性調査、事業者選定の支援など幅広く対応しました。</p> <p>今後も、地域を基盤に研究を進めます。</p>	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>規模の大小にかかわらず、複雑で多様な課題を解決するために、企業、金融、言論、自治体、学生、労働者、経営者がシームレスに連携することが、これからの縮小社会を乗り越えるには不可欠となります。よりよい方策を一緒に研究開発してみませんか。</p>

keyword

- 試料前処理法
- 固相マイクロ抽出
- バイオマーカー
- 受動喫煙
- 糖化ストレス
- ストレス評価
- メタボローム解析



片岡 洋行

Hiroyuki Kataoka

薬学部薬学科・教授
(薬学博士、東北大学)

【プロフィール】

- ・1954年 長崎市出身
- ・1979年3月大阪大学大学院薬学研究科修了(修士)
- ・1979年4月～2003年3月 岡山大学薬学部(助手・助教授)
- ・1998年 University of Waterloo (Canada)博士研究員(1年間)
- ・2003年4月就実大学薬学部教授(～現在に至る)
- ・2003年生物薬学科長(6年間)
- ・2009年 教務部長(4年間)
- ・2013年 薬学部長(2年間)
- ・2015年 学長(5年間)

【主な社会的活動】

- ・日本薬学会
- ・日本分析化学会
- ・その他 14学会に所属
- ・Editorial Board Member: Analytica Chimica Acta, Journal of Chromatography A, Molecules (Academic Editor)
- ・その他インパクトの高い英文ジャーナル 10誌の編集委員
- ・岡山県薬事審議会委員 他

【その他】

- 2023年11月末までの業績
- ・著書: 英文 29, 和文 4
- ・総説論文: 英文 20, 和文 8
- ・原著論文: 英文 134, 和文 21
- ・教科書執筆: 24(含改定版)
- ・学会発表: 国際 23, 国内 408
- ・論文査読: 英文 1087, 和文 5
- ・科学研究費: 代表 13, 分担 6
- ・その他の外部資金: 代表 15
- ・表彰: Top Cited Article Award, 環境化学論文賞他
- ・研究者評価: *h*-index 44
- ・論文被引用数: 7145 (scopus)
- ・2023年度 Stanford University List of World's Top 2% Scientists

【代表的な研究テーマ】

- 分析法の簡便迅速化、微小化、自動化、省力化、高感度化
- 生体曝露、ストレス・疲労のバイオマーカー分析法の開発

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

新しい分析技術の創出が科学の進歩に繋がると言っても過言ではない。我々は、斬新な発想で、不可能を可能にするような新しい分析技術開発とその応用について研究している。ゴールは、分析技術のイノベーション、快適な生活と健康増進に貢献することである。

主な研究の目的と概要は以下の通りで、詳細は研究者情報サイト[1]を参照されたい。

(1) 発想の転換で、分析法を効率化する

近年、目覚ましい科学技術の進歩で高性能の分析装置が開発されているが、食品、環境、生体試料を分析する場合、手間や時間のかかる試料前処理を効率的に行うことが、信頼性の高い分析結果に繋がる。たとえ高価で高性能の分析機器を使ったとしても、前処理が不十分であれば、精度や正確さに影響が出る。我々は、試料前処理法の重要性に着目し、複雑なマトリックス試料中の微量化学物質を、固相マイクロ抽出法(SPME)を用いて、有機溶媒を用いず簡便・迅速に抽出・濃縮する技術を開発し、様々な生体成分、薬毒物、代謝物、環境汚染物質、曝露バイオマーカーなどの分析法を確立して、実試料分析に適用できることを報告している。特に、カナダ留学中に開発したキャピラリーを抽出デバイスとするインチューブ SPME 法は、HPLC とのオンライン連結により、サンプリングから抽出・濃縮、分離、検出、データ解析までを完全自動化して、高精度かつ高感度な分析を達成できる。本手法はキャピラリーコーティング剤の新規開発に伴い世界中で広く利用されるようになり、開発から発展に至る概要を総説にまとめている[2]。今後、新規抽出デバイスの開発や様々な分析機器との連結により、新たな展開と応用が期待されている。

(2) 病気の予兆を捉えて、健康を守る

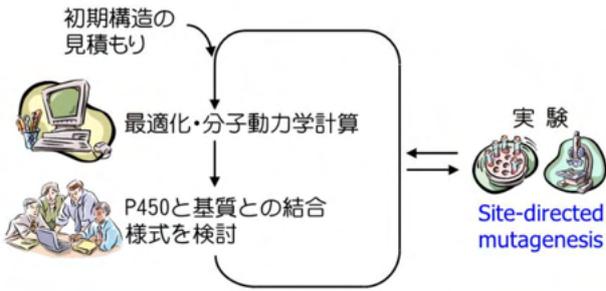
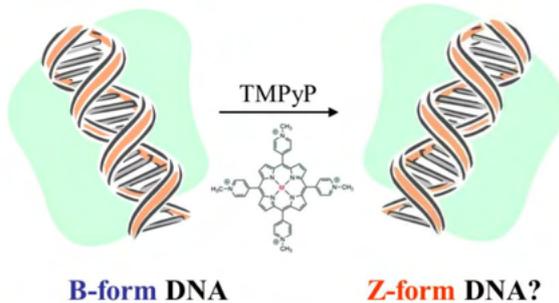
診断・治療技術の進歩により多くの病気の治癒率が飛躍的に向上し、平均寿命も長くなっているが、健康寿命を延ばすには、我々の生活環境の改善や健康の保持・増進を図ることが重要である。我々は、健康を脅かす化学物質による生体曝露の実態を把握し、早期に病気の予兆を捉えるバイオマーカーを LC-MS/MS などを用いて高感度かつ選択的に定量分析する方法を開発している。例えば、毛髪中に蓄積するタバコ関連物質を曝露マーカーとして受動喫煙の実態を把握し防止策を考案したり、酸化ストレスや糖化ストレスのバイオマーカー分析法を開発して病気の早期診断に役立てたりする研究をしている。また、感情や感覚は主観的で定量的に数値化するのは難しいが、それらを客観的に評価するために、唾液試料中に含まれる癒しやストレス、疲労関連のバイオマーカーを簡便かつ非侵襲的に分析する方法を開発して、健康状態の評価や疾病予防に役立てている。

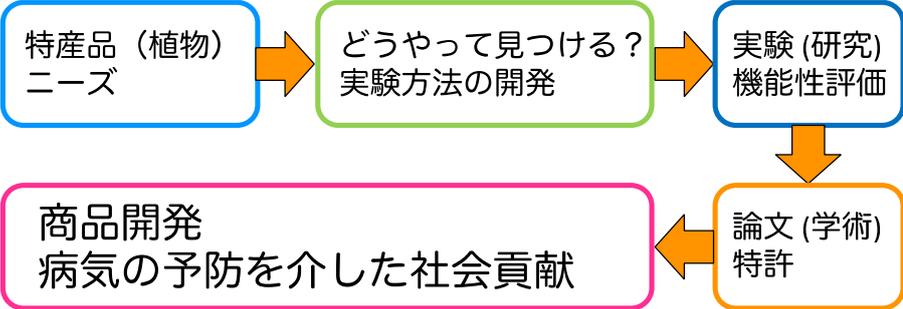
- [1] 大学 HP https://www.shujitsu.ac.jp/yakugaku_site/faculty-introduction/basis/#basis01
 research map <https://researchmap.jp/read2020-HKshujitsu>
 ResearchGate https://www.shujitsu.ac.jp/yakugaku_site/faculty-introduction/basis/#basis01
 Scopus <https://www.scopus.com/authid/detail.uri?authorId=7202767326>
 Google Scholar <https://scholar.google.com/citations?user=YqkZWa4AAAAJ&hl=ja>

- [2] Kataoka H., (2021) In-tube solid-phase microextraction: Current trends and future perspectives (Review). *J. Chromatogr. A*, 1636: 461787 (doi: 10.1016/j.chroma.2020.461787).

企業・自治体等へのメッセージ

研究は独創性や先駆性が重要ですが、我々は常に世の中が必要としていること、解決しなければならない課題にチャレンジしています。大学の研究は、実用化に直結するものでなくても、そのアイデアや技術が、発想の転換によって大きな力となる可能性を秘めています。研究の価値を発掘していただき、有効に活用できる共通の接点が認められれば、企業や自治体の皆様との共同研究が可能となるでしょう。

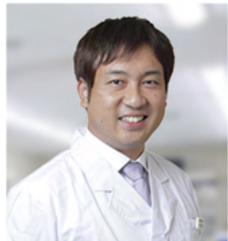
<p>物理化学</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p>
<p>keyword</p>	<p>生体高分子と薬物との相互作用の研究</p>
<p>計算化学, 分子シミュレーション, P450, 生体膜, DNA, TMPyP, モンテカルロ法, プログラミング</p>	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
	<p>生体内に存在する高分子と低分子化合物の相互作用を物理化学の立場から研究しています。</p>
<p>増田和文 Kazufumi MASUDA</p>	<p>1. Cytochrome P450 の薬物代謝機構に関する研究</p>
<p>薬学部薬学科 大学院医療薬学研究所 教授</p>	<p>Cytochrome P450 は、多種多様の基質の酸化的代謝を担うヘム含有モノオキシゲナーゼの総称で、その代謝反応は、疎水性低分子を水酸化あるいは脱アルキル化することが主な反応であり、薬物代謝反応の約 8 割に関与するとも言われています。この代謝機構を計算機化学の立場から予測し、これを部位特異的変異導入法にフィードバックすることでさらに精度の高い機構を明らかにすることができます。オーダーメイド医療の基礎となる研究です。</p>
<p>【プロフィール】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・岡山大学薬学部卒業 ・京都大学薬学研究科 修了 ・岡山大学薬学部助手・助教 ・就実大学薬学部講師・准教授を経て現職 	<p>2. カチオン性ポルフィリンと DNA の相互作用に関する研究</p> <p>これまでにカチオン性ポルフィリンは DNA に結合してその構造を B 型(右巻き)から Z 型(左巻き)に転移させることを、CD スペクトルなどの分光学的手法や粘度、融点、原子間力顕微鏡、分子モデリングなどにより研究してきました。今後さらに結合様式や構造転移の機構を明らかにすることにより、部位特異的に結合するポルフィリンの設計、薬の開発に発展させていきたいと考えています。</p>
<p>【主な学会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本薬学会 ・日本化学会 ・日本コンピュータ化学会 ・日本バイオイメージング学会 	
<p>3. モンテカルロ法による分子シミュレーションプログラムの開発</p> <p>熱力学的平衡状態における生体膜の挙動をシミュレートするプログラムを Fortran で開発しています。</p>	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>基礎研究から応用への道を模索しています。</p>

薬学・生薬学	【代表的な研究テーマ】
keyword	食品・生薬から機能性成分を探索
生薬 食品 ハーブ 生活習慣病	
	代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明
二宮 清文 Kiyofumi NINOMIAYA	<p>未曾有の超高齢化社会に至った本邦。これに伴う医療費の増加、即ち、社会負担の増加を背景とする将来への不安、具体的な改善策の認められない少子化問題。誰もが願うのは「健やかな生活」ではないでしょうか？ では、上記の種々の問題を解決するにあたり、我々がなし得る具体的な方策とは何でしょうか？</p>
薬学部・薬学科 大学院医療薬学研究科 教授	<p>現状の医薬・医療を鑑みると、病気に罹患しないことは、われわれ個人々人にとっても、この社会にとっても非常に重要なことであると考えられます。そこで、国の施策としては、種々の生活習慣(病)に対する啓蒙活動や、特定保健用食品(トクホ)や機能性表示食品など、一定の条件を満たす食品などを利用した健康増進・維持の推進がなされています。</p>
【プロフィール】 京都薬科大学大学院薬学研究科博士課程修了 博士(薬学)、薬剤師 企業での研究開発職、 近畿大学教員を経て 2020年度より現職	<p>そこで、私の研究室で行っているのは、主に植物を由来とした「機能性成分の探索研究」になります。主として、肥満、糖尿病関連の研究を行っています。</p>
【所属学会】 日本薬学会 日本生薬学会 和漢医薬学会 日本農芸化学会 日本栄養・食糧学会 日本糖尿病学会 日本肥満学会	<p>これまでに研究を行ってきたものの中では、機能性表示食品として広く国内で利用されているものもあります。例えば、バラ科植物イヌノイバラ (<i>Rosa canina</i>) の果実(ローズヒップ)から見いだした <i>trans</i>-tiliroside は、“内臓(体)脂肪を減らす”の機能性表示とともにスーパーやコンビニエンスストア、ドラッグストアで販売される商品に利用されています。</p>
企業・自治体等へのメッセージ 何ができるかわかりませんが、できることを考えましょう。まずは、ご相談してみてください。	<p>ここでは、地場の野菜など特産品などを研究素材とし、社会の「ほしい」をニーズとして、機能性成分(分子)の解明研究を展開できればと、考えています。天然素材(植物)の中に含まれる分子の機能性については、まだまだ未知の可能性が潜んでいます。</p>
	<p>それでは、産学連携において具体的に何をするのか？について、ご紹介致します。まずは、素材またはニーズ(開発ターゲット)をご相談下さい。私の研究室で行うのは、どのようにして有用な成分(分子)を見つけ出してくるのか？をデザインします。即ち、これまでの医薬開発の歴史を鑑みて、新しく有用な機能性を発見する手法(実験方法)を考えます。これまでにない新たな機能分子を利活用できるお手伝いができればと、考えています。</p>
	 <p style="text-align: center;">産学連携の概念図</p>

薬学

keyword

- 有機化学
- 構造式
- 薬学基礎教育
- 初年次教育
- 対話演習型授業



山川 直樹
Yamakawa Naoki

薬学部・薬学科 教授
(薬学博士・薬剤師)

【プロフィール】

・1974年 兵庫県神戸市生まれ。
・2001年に熊本大学大学院博士後期課程修了後、熊本大学薬学部、慶應義塾大学薬学部にて創薬研究と薬学教育に携わり、2023年より現職。

【主な社会的活動】

- ・日本薬学会
- ・日本化学会
- ・日本フッ素化学会
- ・日本薬学教育学会
- ・日本リメディアル教育学会
- ・薬学教育協議会委員

【その他】

・UNO用構造式カードや構造式のビンゴカードなど、化学構造式を楽しく意欲的に覚えらるる教材を使った教育実践を展開し、その取り組み事例が薬事日報新聞で紹介される(2017年第11937号第3面、2018年第12084号第3面)。



【代表的な研究テーマ】

- 薬学基礎教育教材の開発と実践
- 対話演習型授業モデルの構築

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

◆ 構造式の UNO カード

有機化合物の構造式を身近に感じ、かつ遊びながら楽しく暗記できる UNO カードを開発しました(特許権取得:特開 2019-135506)。本発明技術の最大の魅力は、UNO ゲーム(手持ちのカードを減らしていくカードゲーム)をそのまま適用して遊べる点であり、実際の UNO カードに描かれた「色」と「数字」が、構造式に含まれる「官能基の種類」と「炭素数」にそれぞれ対応しています。さらに、構造式に含まれるヘテロ原子(窒素や酸素)の種類や数に相同性がある場合にも手持ちカードを減らせるような工夫を加え、有機化合物ならではの特徴を活かしたカードとして活用することができます。



有機化学を理解するための補助教材として、学校での演習授業や研究室ゼミ内での娯楽イベント、化学薬品を取り扱う会社での社員教育や研修など、様々な場面での実用が可能です。カードに描かれた構造は、大学で学ぶ有機化学に登場する基本構造が中心であり、UNO ゲームを繰り返し行うことで、自然に構造式を覚えることができる教材です。

就実大学薬学部では、1年次後期に開講される対話演習型授業の中で、構造式の UNO カードを活用しています。実際に授業を受けた学生からは、「単に丸暗記で頭に詰め込むよりはるかに効率良く覚えられ、人と対話する苦手意識も無くなった」と、毎年高い授業評価を受けています。薬の「顔」とも言える多くの化学構造を1年次から学び、化学の専門家として質の高い薬剤師の輩出へ繋がればと考えています。



構造式の UNO カードを用いた対話演習の授業風景(写真左)。配布されたカードを眺める様子(写真右)。対話演習時のルールでは、最後の手札を捨てる際には構造式の名称を宣言しなければならないため、プレイヤーはあらかじめ構造式の名称を暗記しておく必要がある。

企業・自治体等へのメッセージ

遊び要素を取り入れた理科教材の開発をコア技術として提供します。特に、視覚的な情報が記憶に残るような仕掛けとゲーム性を持たせることを意識し、学習者が教材への興味や関心を持ちやすいようなアイデアの創出を強めます。

分析化学・代謝化学

keyword

- 固相マイクロ抽出
- 簡易診断分析
- 体臭解析
- 薬物代謝酵素
- 薬食相互作用



齋藤 啓太
Keita Saito

薬学部 薬学科
准教授

【プロフィール】

2007年に岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程生体機能科学専攻修了後、就実大学薬学部薬学科着任。
2021年より現職。

【主な社会的活動】

- ・ 日本薬学会
- ・ 日本分析化学会
- ・ 日本薬物動態学会
- ・ 内分泌攪乱物質学会
- ・ 日本薬学教育学会
- ・ 日本薬剤師会
- ・ 岡山市薬剤師会薬物乱用防止キャンペーン委員
- ・ 薬剤師国家試験問題検討委員

【代表的な研究テーマ】

- ヘルスケア簡易診断分析用サンプリングデバイスの開発と実用化
- 薬食相互作用を起こす食品成分の検索と評価法に関する研究

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

■ ヘルスケア簡易診断分析用サンプリングデバイスの開発と実用化

口臭や体臭分析のためのディスポーザブルサンプリング器具と迅速分析システムを開発している。体臭・口臭の診断や予防のための機能性食品の検索など、ヘルスケアを指向した健康の保持・増進に資する研究開発を行っている。また、Fiber SPME/GC-MS法による体臭成分の高感度分析法の開発及びその生成要因や生成機構についても解析している。

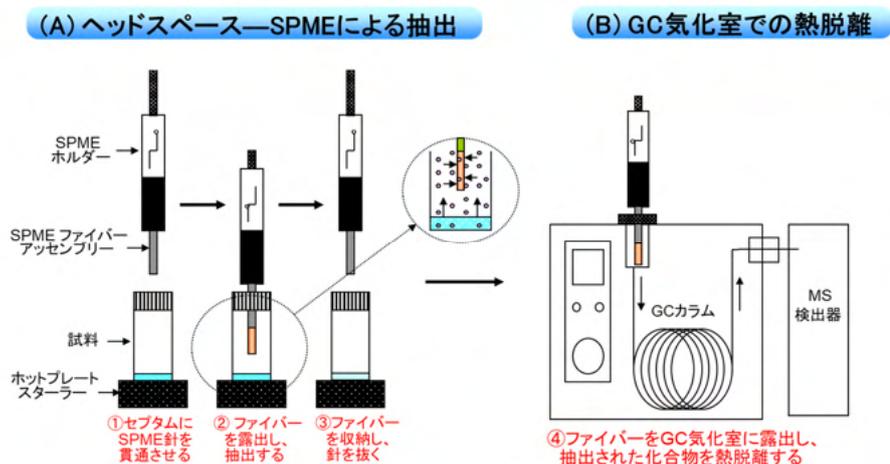


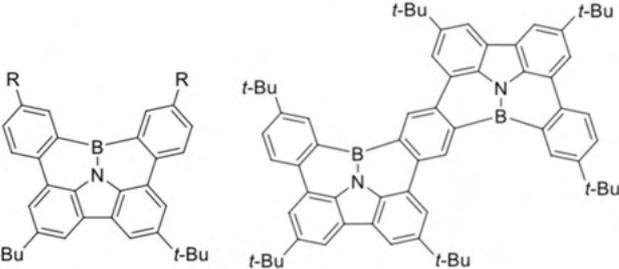
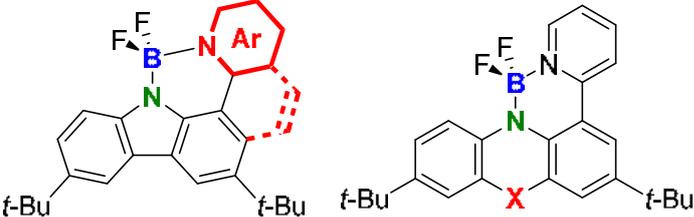
図 ヘッドスペース Fiber SPME/GC-MS法による体臭成分解析の概要

■ 薬食相互作用を起こす食品成分の検索と評価法に関する研究

薬と食品あるいは環境化学物質の同時摂取に伴う有害作用を簡便迅速に蛍光分析する方法とそれらの相互作用を評価する方法を開発する。また、薬物代謝酵素活性測定により、薬物相互作用を惹起する食品及び環境成分のスクリーニングを行っている。

企業・自治体へのメッセージ

環境中有害物質の含量測定から毒性および人体への影響を評価する総合分析系の構築を目指し、研究をすすめている。

<p>有機化学</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p>
<p>keyword</p>	<p>ホウ素を含む有機化合物の合成と物性</p>
<p>ホウ素 蛍光分子 アザボリン</p>	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
	<p>有機化合物とは、分子中に炭素原子を含み、炭素が分子の主骨格を形成する化合物です。ここに、ヘテロ原子（炭素と水素以外の元素）が加わり、様々な性質をもつ有機化合物が生まれます。このようなヘテロ有機化合物は、薬、機能性材料の材料として、古くから注目を集めており、現在でも活発に研究が行われています。有機化合物とヘテロ元素の組み合わせはほぼ無限に存在し、極めて大きな可能性を秘めています。</p>
<p>山本 浩司 Koji Yamamoto</p>	<p>私はホウ素原子に着目した研究を行なっています。</p>
<p>薬学部・薬学科・講師</p>	<p>窒素-ホウ素結合を含む 1,2-ジヒドロ-1,2-アザボリンは、ベンゼンとよく似ていますがベンゼンとは異なる性質を示します。ベンゼンは既存の材料や薬の多くに含まれていることから、これを 1,2-アザボリンで置換すると、新たな性質・機能をもつ物質を生み出すことができると期待されます。特に、この 1,2-アザボリン誘導体は光機能性材料、例えば、燐光 OLED のホスト材料への応用が期待されています。</p>
<p>【プロフィール】 2022 年 4 月に着任 しました。</p>	<p>私は、このアザボリン誘導体の研究を進めており、以下の化合物などを合成し、これらが興味深い光学特性を示すことを報告しています (<i>Chem. Lett.</i> 2022, <i>51</i>, 65–68)。</p>
<p>【主な社会的活動】 オープンキャンパス における地域住民・ 高校生への説明</p>	
<p>高校生への大学案内</p>	<p>この他にも、ホウ素原子が含まれた蛍光色素の開発も行なっています (<i>J. Org. Chem.</i> 2023, <i>88</i>, 4003–4007, <i>Org. Biomol. Chem.</i> 2023, <i>21</i>, 5398–5405)。センサーや固体発光材料への展開を狙っています。</p>
<p>【その他】</p>	
	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>有機化学を通じて新たな化合物を生み出すことで、みなさんのお役に立てれば幸いです。</p> <p>化合物の合成、精製、構造解析についてお困り事があれば、お声がけください。</p>

有機合成化学

keyword

有機化学

医薬品化学

環境調和型有機合成

DNA-encoded library

天然物合成



浅井 彰太

Asai Shota

薬学部・薬学科 講師

(博士(薬学)、薬剤師)

【プロフィール】

・愛知学院大学薬学部医療薬学科卒業

・岐阜薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程修了

・The Scripps Research Institute 博士研究員、岩手大学理工学部助教を経て現在に至る。

【主な社会的活動】

・講習・講演会(大学、企業)

・出前講義(高校)

【所属学会】

有機合成化学協会

日本薬学会

アメリカ化学会

日本プロセス化学会

日本化学会

【代表的な研究テーマ】

□医薬品合成を志向した有機合成反応の開発

□DNA-encoded library (DEL) 構築のための有機合成技術開発

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

医薬品の有効成分の8割以上は有機化合物であり、複雑構造を有する有機化合物を短工程かつ廃棄物を少なく合成できる方法の開発が重要です。また、医薬品の新たな候補化合物の探索は非常に難しく、医薬品候補化合物の新たな探索法が注目されています。私は環境調和型の有機合成反応・合成ルートの確立および DNA-encoded library (DEL) 構築のための有機合成技術開発を中心に研究を行っています。

□医薬品合成を志向した有機合成反応の開発

回収・再利用容易な白金族系不均一触媒を使用する有機化学反応、安価で安全な塩化鉄(FeCl₃)などを触媒とする反応や金属触媒を使用しない反応の開発を行っています。

1) *Org. Lett.*, **2016**, *18*, 5604-5607

2) *Chem. Eur. J.*, **2015**, *21*, 2222-2229

3) *Chem. Commun.*, **2017**, *53*, 4787-4790

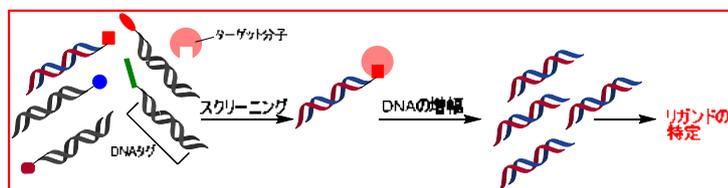
□DNA-encoded library (DEL) 構築のための有機合成技術開発

DNA-encoded library (DEL)は、識別可能なDNAでタグ付けされた化合物群です。DNAの特性の複製を利用することで、ごく少量のサンプルで複数の化合物を一挙にスクリーニングできる優れた技術です。しかしながら、DNA タグの特性(有機溶媒に難溶なため高希釈条件かつ20%以上の水を含む溶媒を使用する必要があるなど)のため通常の有機化学反応をそのまま使用することが難しく、DEL構築に使用できる有機化学反応に限られています。私は固体支持体とDNAの可逆的な吸着を利用することで溶媒に水を加えることなく、開発された有機化学反応をほとんどそのまま使用できる技術を開発しました。現在はその方法の利用性の拡大や適用できる有機化学反応を明らかにすることを検討しています。

1) *Proc. Natl. Acad. Sci. USA*, **2018**, *115*, E6404-E6410

2) *J. Am. Chem. Soc.*, **2019**, *141*, 9998-10006

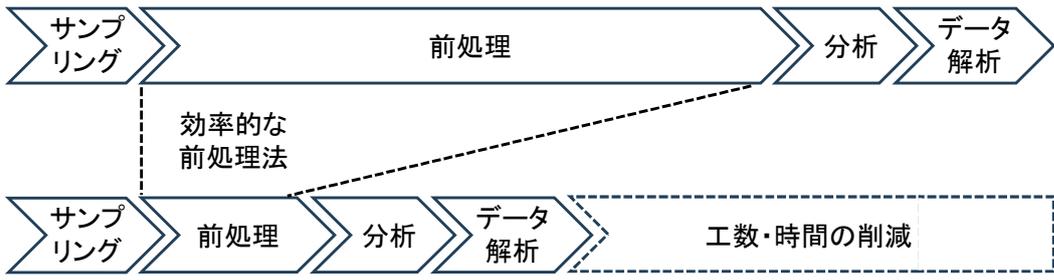
3) *Angew. Chem. Int. Ed.*, **2020**, *59*, 7377-7383



DNA-encoded library (DEL)を使用したターゲット分子探索の概念図

企業・自治体等へのメッセージ

複雑な化合物の合成技術は医薬品や機能性材料の開発には必須であり、近年は特に合成時の廃棄物の抑制や毒性が高い化合物の使用・排出の削減などが重要視されています。環境調和型の有機合成化学反応、もしくは我々が開発した固体支持体とDNAの可逆的な吸着を利用する技術にご興味がある方はご連絡下さい。

<p>薬学・分析化学</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p>
<p>keyword</p>	<p>微量化学物質の効率的試料前処理法と高感度分析法の開発</p>
<p>・クロマトグラフィー ・質量分析 ・試料前処理 ・メソッド開発</p>	
	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
<p>石崎 厚 Atsushi ISHIZAKI</p>	<p>近年、環境や食品、医薬品の化学物質汚染が社会問題となっており、これらの問題に対して安全性を確認し、健康被害を未然に防ぐことが重要な課題となっている。そのため、大気をはじめ、水質、土壌、食品や医薬品といった様々なマトリックスから目的の微量化学物質を正確かつ精密に分析する簡便な方法が求められている。このような状況下、これまでに感度、特異性、操作性の向上を目指した高性能分析装置が開発されてきたが、複雑なマトリックス中から微量の化学物質を分析する場合、抽出、濃縮、精製などの前処理が必要不可欠である。一般的に、前処理に要する時間と手間は全分析工程の約8割を占めると言われており、試料前処理がメソッド開発の律速となっている。従って、いかに効率的に試料の前処理を行うかが重要なポイントであり、そのための条件として、次のような点が挙げられる。</p>
<p>薬学部 薬学科 助教</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 試料の損失を最小限に抑え、目的成分を再現性よく回収できること。 2) 共存成分を効率よく除去できること。 3) クロマトグラフィーシステムに悪影響を与えないこと。 4) 操作が簡便、迅速に行えること。 5) 低コストであること。
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就実大学薬学部生物薬学科卒業 ・岡山大学大学院博士課程前期終了 ・就実大学大学院医療薬学研究科修了 ・(株)大阪合成有機化学研究所品質保証部 ・岡山旭東病院薬剤部 	<p>しかし、これまでの前処理法は、操作が複雑で所要時間も長く、分析者のテクニックによって左右されるために、人為的誤差や分析精度の低下の原因となっていた。さらに、多量の試料や有機溶媒を必要とするため、分析者の健康障害や環境汚染の原因となるなど様々な問題点が指摘されている。これらの問題点を解決するような簡便かつ迅速な試料前処理法と高感度分析システムの開発を行っている。</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本薬学会 ・日本分析化学会 ・日本・岡山県薬剤師会 ・岡山市学校薬剤師会 	
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止委員 ・スポーツファーマシスト 	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>分析化学により、研究を通して開発した技術がこれからの新たな取組みに貢献できればと考えております。</p>

薬学

【代表的な研究テーマ】

keyword

細菌・真菌・ウイルス
消毒・殺菌
人工膜
細胞膜損傷
電気化学センサー

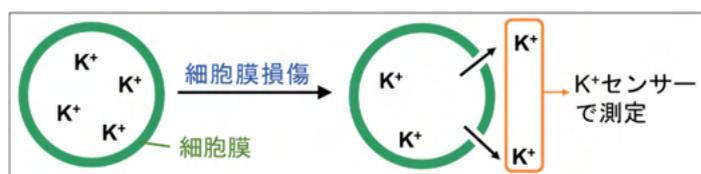
細胞膜損傷を引き起こす化合物の作用解析

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

○ 概要

細胞膜を損傷すると予想される化合物に対して、電気化学センサーを用いた測定を行うことで、その作用を解析することができます。

細胞内にはカリウムイオン(K^+)が多量に含まれていることから、 K^+ をプローブとしてその流出量を、 K^+ センサーを用いて測定することで細胞膜損傷を評価できます。(下図:概略図)



加藤 久登

Hisato Kato

薬学部・薬学科、助教

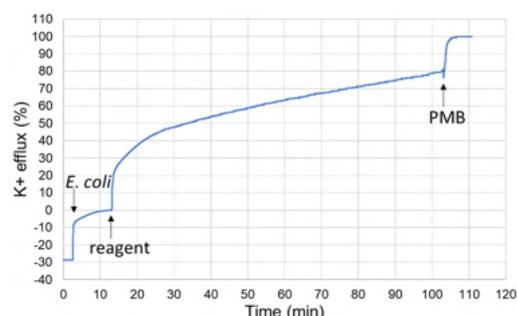
【プロフィール】

岡山大学薬学部卒
就実大学大学院医療薬学
学研究科修了
2012年に就実大学薬学部
に助手として就任

【主な社会的活動】

- ・日本薬学会
- ・日本分析化学会
- ・日本細菌学会
- ・日本薬学教育学会

この方法は非常に簡便な方法であり、また、経時変化をリアルタイムで測定できるという特徴も持っています。(右図:細菌からの K^+ 流出率の経時変化)
測定対象として、生細胞または人工膜を用います。



○ 生細胞(細菌・真菌・赤血球)を用いた解析

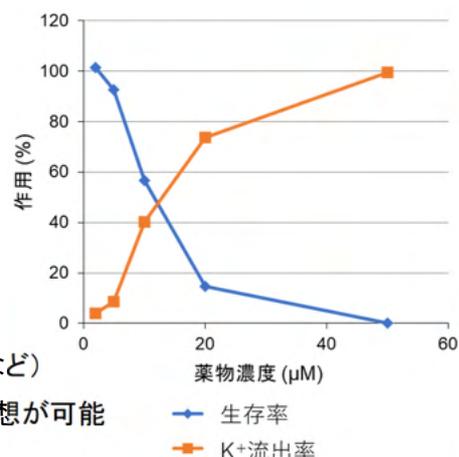
特徴

・細菌や真菌の場合、生存率との相関性から作用機序を明確にできる

(右図:細菌の生存率と K^+ 流出率との相関性)

短所

・ウイルスへの応用は不可



○ 人工膜(リポソーム)を用いた解析

特徴

・異なる細胞モデル間での比較が容易

(細菌モデル人工膜と真菌モデル人工膜との比較など)

・ヒト細胞モデル人工膜からウイルスへの作用の予想が可能

短所

・実際の生細胞への作用の強さと乖離が起こる場合がある。

企業・自治体等へのメッセージ

細胞膜を損傷すると予想される化合物について、上記の実験系を用いることで細胞膜損傷を簡便かつ低コストで解析することができます。

抗菌・抗真菌・抗ウイルス等に関する開発のお力になれば幸いです。

薬学・医療

keyword

- PTP 包装
- 開封容易性
- 一方化作業
- コンプライアンス



平岡 修
Osamu Hiraoka

薬学部・薬学科
生体分子化学研究室
教授

【プロフィール】

岡山大学薬学部卒業

岡山大学大学院修了

薬学博士

日本ロシュ研究所

主任研究員

タンパク工学研究所

国立鈴鹿工業高専

助教授

現職に至る

【主な社会的活動】

学校薬剤師

スポーツファーマシスト

【その他】

日本薬学会

日本薬剤師会

日本生物工学会

日本熱帯医学会

日本薬局学会

【代表的な研究テーマ】

医療用医薬品における PTP 包装の開封容易性改善のための科学的研究

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

現在、PTP 包装は、管理のし易さなどから薬剤包装の主流として広く普及している。ところが、薬剤を PTP シートごと誤飲する事故が増えるなど、PTP シートに関連した課題が注目されるようになってきた。本研究は、多剤の一包化調剤作業を行っている際に、PTP シートからの薬剤の取り出し易さに関して、製品によって様々であることを実感したことが研究を始める動機となった。高齢者への投薬や在宅医療の現場で患者の様子を直接確認した際に、手指の筋力が低下している患者も多く、そのような患者にとっては、シートから薬剤を自分で取り出して服用することは負担になり、場合によってはコンプライアンスの低下に繋がることが懸念される。さらに、一包化調剤をする薬剤師側にとっても、PTP 包装から薬剤を取り出す作業は、薬剤師泣かせの作業であり、指を酷使するために痛みを伴い、ひどい場合には出血することもあることから PTP 包装医薬品のユーザビリティの改善は無視できない。我々は、これまでに医療現場で使用されている PTP 包装の改善項目を探索する目的で、一包化作業で使用した 181 種類の医療用 PTP 包装薬剤について、我々が考案した置き針式テンションゲージを使用した装置（下図左）を用いて、各製品の取り出し易さを数値的に評価した。その結果、錠剤の形状と薬剤の取り出し易さの間に相関が観察されたので、そこから見えてきた PTP 包装の改善点について学会発表や論文投稿により報告してきた^{①, ②, ③}。今後は、下図右に示すデジタルフォースゲージ搭載の高精度機器により薬剤の取り出し易さの評価をさらに信頼性の高いものとする。さらに、薬剤の取り出し易さの要因を絞り込むために、新たな調査項目として薬剤が入った状態での窪み内の空間率、アルミ箔の強度、シートの材質などの項目を追加してユーザビリティの高い PTP 包装の条件を確立し、より使い勝手の良い薬剤包装への改善情報提供を行っていきたいと考えている。

学会発表

- ① 2010 年 第 20 回 日本医療薬学会年会：高齢者の視点から見る錠剤等の PTP シートからの取り出し易さについての考察 ○*赤松 昌夫 1, 安藤 成多 2, 末宗 悠生 2, 島田 憲一 2, 平岡 修 2, 増田 和文 2, 手嶋 大輔 2, 五味田 裕 2 (1 有限会社赤松薬局, 2 就実大薬)
- ② 2011 年 第 50 回 日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術会 : PTP シートからの錠剤の取り出し易さについての科学的考察 ○安藤 成多 1, 末宗 悠生 1, 赤松 昌夫 2, 島田 憲一 1, 増田 和文 1, 五味田 裕 1, *平岡 修 1 (1 就実大薬, 2 有限会社赤松薬局)

論文発表

- ③ 2017 年 日本薬局学会誌 薬局薬学, *J Community Pharm Pharm Sci* Vol.9 No.2, 219-226
: PTP シートからの錠剤の取り出し易さについての科学的考察 *平岡 修 1, 安藤 成多 2, 末宗 悠生 3, 島田 憲一 1, 赤松 昌夫 3 (1 就実大薬, 2 株式会社エバルス, 3 有限会社赤松薬局)



押す力と速度を精密に調節することで再現性の高い測定が可能。荷重-時間グラフの作成が可能。

薬学・医療

keyword

- 病態モデル
- 自閉スペクトラム症
- てんかん



末丸 克矢

Katsuya Suemaru

薬学部・薬学科

公衆衛生学

教授

【プロフィール】

- ・1986年 福岡大学大学院 博士課程前期修了
- ・1986年 岡山大学病院・薬剤部
- ・1994年 博士(薬学)
- ・2003年 愛媛大学病院・准教授
- ・2012年 就実大学教授

【主な社会的活動】

- ・日本薬理学会 (学術評議員)
- ・日本薬学会

【その他】

【代表的な研究テーマ】

自閉スペクトラム症とてんかんの病態モデル

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

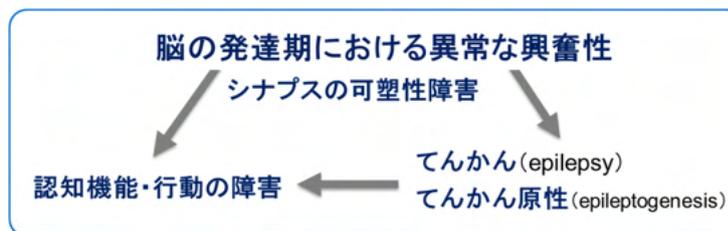
発達障害の有病率は、近年その頻度が上昇し、1～2%に達すると報告されています。自閉スペクトラム症(ASD)は、①他人との社会的関係の形成の困難さ(社会性障害)、②言葉の発達(学習障害)の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわり(執着性)を特徴とする発達障害で、高次脳機能に何らかの機能不全があるとされています。ヒトの高次脳機能の異常を明らかにするために霊長類以外の動物モデルが役立つか否かについては議論の余地がありますが、ASDの解明や機能回復法の基礎的研究には実験的動物モデルの応用が有効となります。



自閉スペクトラム症の症状

ASDは先天的な要因によって生じる発達遅延で、その成因には遺伝的要因と胎児の母体環境の要因が推定されています。遺伝的要因としては、てんかんとASDの合併率が高頻度であることから、てんかん素因との関連性も注目されています。母体環境の要因としては、感染症、低栄養ならびに薬剤の影響が明らかになっています。

私共の研究室では、特発性てんかん(EL)マウス、胎生期にHDAC阻害薬(バルプロ酸)やプロピオン酸を曝露したマウスを用いてASD様の病態モデルマウスを作成し、症状改善薬や環境エンリッチメントの飼育効果について、行動薬理的ならびに神経科学的な研究を行っています。



てんかんと自閉スペクトラム症

てんかん発作やてんかん焦点の形成要因(てんかん原性)と認知行動障害の関連性を検討する目的で、角膜電気キンドリング、PTZキンドリングなどのてんかん動物モデルを作成し、それらの行動障害の特性と症状改善薬の探索を行っています。

企業・自治体等へのメッセージ

私の研究で何かお役に立てることがございましたら、遠慮なくお声がけください。

食品機能学

keyword

グルタチオン
米タンパク質加水分解物
抗酸化

【代表的な研究テーマ】

食品からの抗酸化作用をもつ物質の単離とその作用メカニズムに関する研究

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

活性酸素種は、生体内のエネルギー代謝や病原微生物の感染防御過程などにおいて発生し、生命活動を行う上で活性酸素種の発生を避けることはできません。このようにして発生した活性酸素種は、抗酸化物質や抗酸化酵素の働きにより除かれ、生体内の酸化・抗酸化のバランスが保たれています。しかしながらこのバランスがくずれ活性酸素種による障害が大きくなると、いわゆる酸化ストレスという状態になります。酸化ストレスかにおいては、十分に除くことのできなかつた活性酸素種が、脂質、核酸、タンパク質などの生体分子の酸化損傷を引き起こし生体の機能を損なわせ、老化、がん、神経変性疾患、動脈硬化、糖尿病などのさまざまな疾患の原因や増悪化に関与すると考えられています。従って、生体の抗酸化能を高め酸化・抗酸化のバランスを保ち、生体を酸化ストレスから守ることは、酸化ストレスが関与する疾患の予防や健康維持に繋がるのが期待されます。以上の様な背景から、生体の抗酸化能を高める物質、中でも、生体内で合成され抗酸化に働くグルタチオンの合成量を増やす物質を探索し、その機能性の解析を行っています。また、より安全・安心な機能性成分の単離を目指し、食習慣のある米のタンパク質成分加水分解物の生体調節機能に注目しています。



守谷 智恵

Chie Moritani

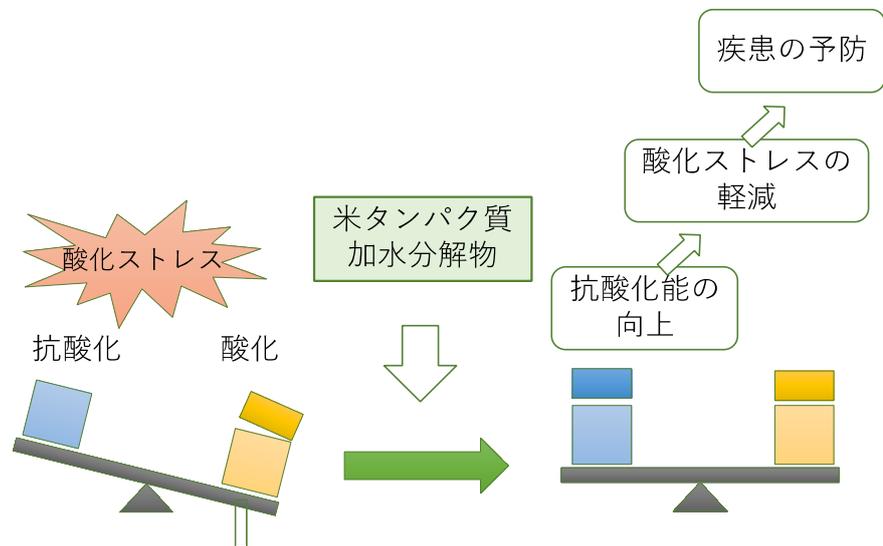
薬学部 薬学科
教授

【プロフィール】

1993年 岡山大学大学院自然科学研究科博士課程修、岡山大学薬学部薬学科助手、医学部助手、工学部生物応用工学科助手、マックス・プランク生化学研究所、博士研究員、岡山大学遺伝子実験施設助手、岡山大学医学部客員研究員、岡山県生物科学総合研究所流動研究員を経て、2007年7月 就実大学薬学部にて講師として着任、2018年より現職

【所属学会】

日本生化学会、日本薬学会、日本分子生物学会、日本酸化ストレス学会、日本栄養・食糧学会



薬学

【代表的な研究テーマ】

感染対策

keyword

- 感染対策
- 抗菌
- 抗ウイルス
- 抗カビ
- 消毒・殺菌
- 付着性

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

様々な感染症が、日々の生活（ヒト、家畜、農作物など）を脅かしています。感染症の原因は、主に細菌、真菌、ウイルスです。そのような病原体への**感染対策の研究**を行っています。

感染対策への取り組み



山田 陽一
Yoichi Yamada

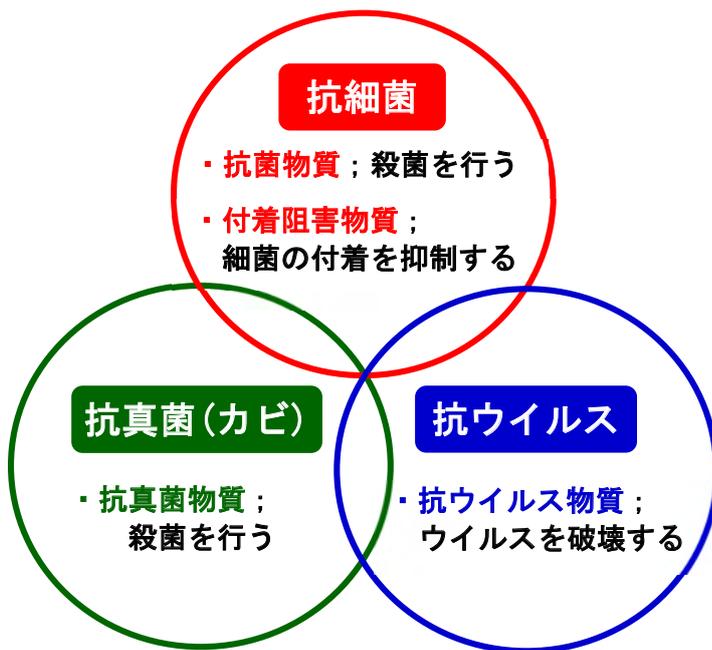
薬学部薬学科
准教授

【プロフィール】

- ・岡山大学薬学部、同大学院自然科学研究科修了。
- ・同大同研究科博士研究員、米国オクラホマ大学博士研究員、立命館大学薬学部助教を経る。
- ・薬剤師、薬学博士。
- ・専門は微生物学。新規作用機序をもつ抗感染症物質の開発、新規消毒薬の開発、およびおその応用方法の研究を行っている。

・産学官連携の実績

企業： 11
公共団体： 4
プレスリリース： 3



産学官連携による研究成果例

・**抗菌シート**
(企業との共同開発)
細菌への殺菌効果・付着(バイオフィルム形成)阻害効果



プレスリリース(2022/2/7)
<https://www.shujitsu.ac.jp/news/detail/3375>

・**抗ウイルスコーティング**
(産業技術総合研究所との共同開発)
インフルエンザウイルスなどの不活性化



プレスリリース(2021/3/22)
<https://www.shujitsu.ac.jp/news/detail/2939>
プレスリリース(2022/6/24)
<https://www.shujitsu.ac.jp/news/detail/3631>

企業・自治体等へのメッセージ

企業や自治体との産学官連携を積極的に行っています。

連絡先； y-yamada@shujitsu.ac.jp
Tel；086-271-8423

薬学・医学

keyword

- 再生医療
- iPS 細胞
- 幹細胞
- メラニン生成阻害
- 抗酸化作用



山崎 勤
Yamasaki Tsutomu

薬学部 薬学科
医療薬学研究科
講師

【プロフィール】

- ・岡山理科大学大学院で理学博士号を取得
- ・岡山理科大学 助教
- ・就実大学 助教
- ・就実大学 講師

【主な社会的活動】

- 日本寄生虫学会
- 日本薬学会
- 日本生化学会
- 日本分子生物学会
- 硬組織再生生物学会

【代表的な研究テーマ】

- 新規幹細胞による脊髄損傷の治療薬開発
- 植物由来成分の抗酸化作用メラニン合成阻害作用の探索

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

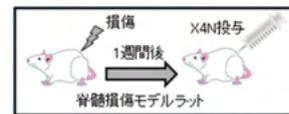
【新規幹細胞 NEcST 細胞】

昨今、iPS 細胞などの幹細胞研究が進み、再生医療によって今まで治療できない病気も治る可能性が出てきています。

当研究室では独自に新たな幹細胞である「NEcST 細胞」を樹立しました。この NEcST 細胞は様々な特徴を持った神経幹細胞の一種で、既存の iPS 細胞や間葉系幹細胞といった幹細胞と比較し、高効率で神経細胞に分化するという特徴があります。

これらの特徴から、脊髄損傷の治療に用いることが出来ないと研究を行っています。マウスを用いた実験では、マウスに NEcST 細胞単体投与する事で歩行可能になるなどの成果を得ています。

NEcST細胞を用いたラット亜急性脊椎損傷治療試験
脊椎損傷後7日経過したラットの脊椎に神経分化させた
NEcST細胞を直接投与



コントロールラット(投与無し)

NEcST細胞投与

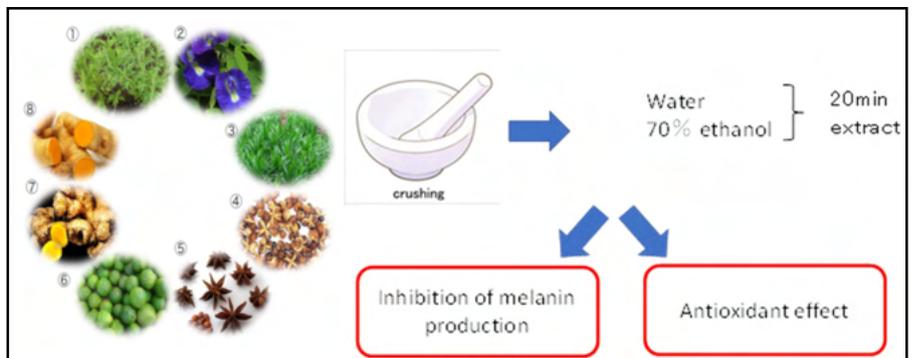


細胞投与21日目において、NEcST細胞投与により歩けなかったラットが歩けるようになった。

【植物由来成分の抗酸化作用メラニン合成阻害作用の探索】

メラニンはメラノサイトによって産生され、皮膚を守る防御因子として重要な役割を示す一方、メラニンの皮膚色素沈着により、しみ、黒ずみなどを引き起こす事が知られています。メラニン産生には様々な要因が関与している事が知られていますが、活性酸素も原因一つと考えられており、抗酸化物質がメラニン産生を阻害することが報告されています。

そこで、植物からの抽出物を用いて、抗酸化作用とメラニン生成阻害作用を調べ、新たなメラニン生成抑制物質を探索することを目的とした研究を行っています。



企業・自治体等へのメッセージ

新規幹細胞「NEcST 細胞」を用いた再生医療の研究や、植物成分による抗酸化作用やメラニン阻害作用、抗炎症作用などの新たな生理活性物質の探索など、基礎的ながらも新たな発見のため、日々研究しています。

keyword

- 母体環境
- 発達障害



吉川 弥里

Misato Yoshikawa

薬学部薬学科
講師

【プロフィール】

福岡大学薬学部 博士

【主な社会的活動】

- ・日本薬理学会
- ・日本神経科学学会

【代表的な研究テーマ】

母体環境と発達障害との関連性

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

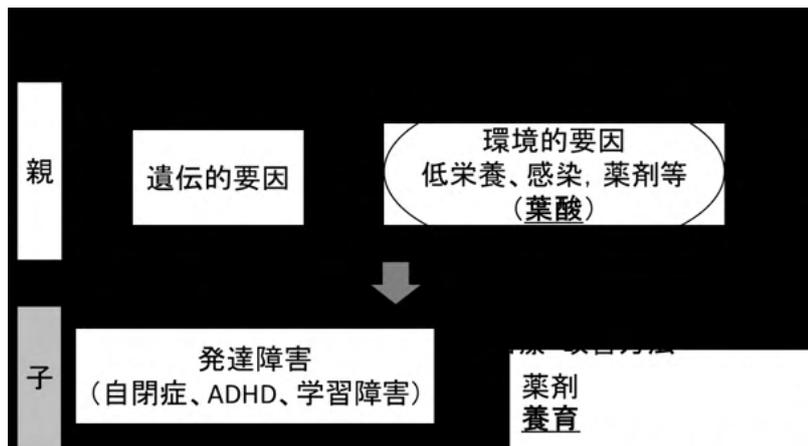
少子化により子供の数は減少していますが、支援を必要とする児童は年々増加しています。特に、自閉症や注意欠陥多動性障害(ADHD)などの発達障害は、広く一般の人にも理解され知られるようになりました。発達障害の要因としては、遺伝的要因と環境的要因があります。その環境的要因の中には、胎児期や幼児期の環境も含まれます。

我々の研究室では、実験動物を用いて胎生期の葉酸欠乏と仔の発達に対する影響について研究を行っています。葉酸は、胎児の正常な形成・成長のために必要なビタミンで、神経管閉鎖障害を予防するため、母子手帳にも適切な量を摂取するように記載されて指導されています。また、動物を用いた研究からは、妊娠前の父親の葉酸欠乏も仔の発達に影響を与えることが報告されています。したがって、母親だけでなく父親への食事指導も重要であると考えます。

野菜等の食品から葉酸を摂取する場合は、食べ過ぎたとしても吸収の点から摂取過剰になることはありませんが、サプリメントから葉酸を摂取する場合は、摂取しすぎると過剰症となり、発達障害のリスクを上昇させるとの報告もありますので、適切な量の葉酸摂取が重要です。

また、発達障害マウスモデルの症状改善を目的として、環境エンリッチメント(飼育場所を広くしたり、遊び道具などの物体を入れたりして飼育環境を豊かにすること)飼育を行いました。その結果、他のマウスに興味を示すようになり、社会性の低下が改善されました。

早期診断、早期養育が発達障害の改善に有効であると考えられます。



企業・自治体等へのメッセージ

研究結果を通して、現場で抱えている課題に対し貢献できれば幸いです。

食品機能学

keyword

県産農産物
グルタチオン
酸化ストレス
睡眠



川上 賀代子
Kayoko Kawakami

薬学部・薬学科
講師

【プロフィール】

2006年 東北大学大学院農学研究科生物産業創成科学専攻 博士前期課程 修了 新潟薬科大学応用生命科学部 教育・研究支援職員 / 2009年 同大学応用生命科学部 助手 / 2011年 東北大学大学院農学研究科生物産業創成科学専攻 博士(農学) を取得 岡山県農林水産総合センター 生物科学研究所 流動研究員 / 2014年 就実大学薬学部 助教 / 2022年 同大学薬学部 講師

【主な社会的活動】

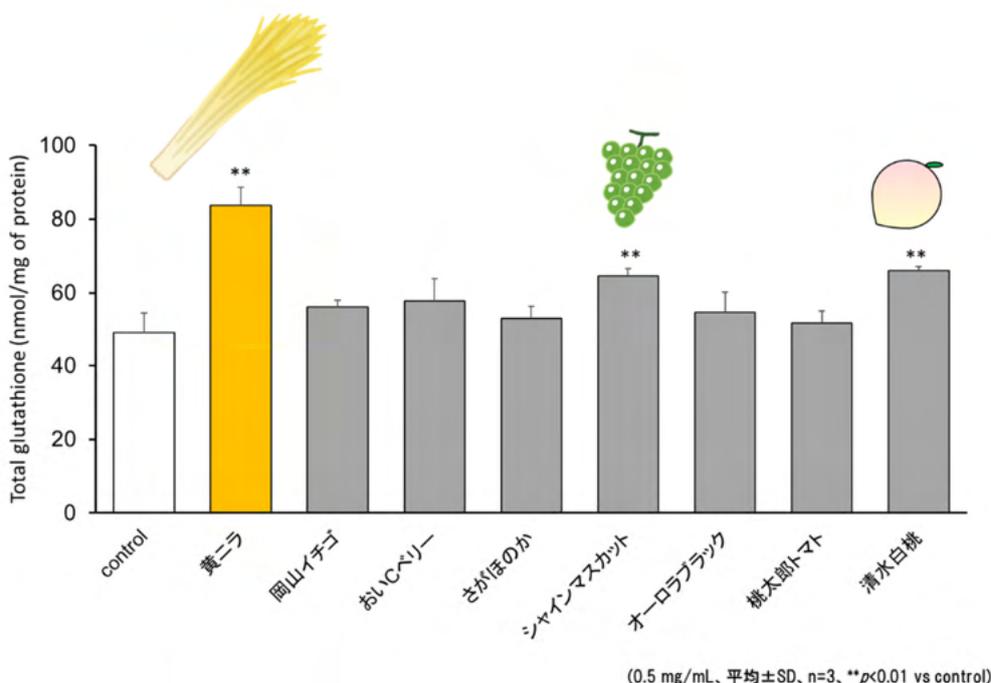
日本農芸化学会
日本栄養食糧学会
日本食品免疫学会

【代表的な研究テーマ】

岡山県産農産物の抗酸化を指標にした機能性食品素材の開発

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

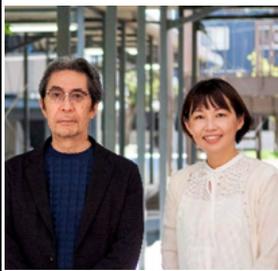
体の中の抗酸化と酸化のバランスが崩れると、さまざまな病気になることが分かっています。生体内の抗酸化物質であるグルタチオン量を増やすことは、酸化ストレスが関与する疾病の予防に有効であることが期待されます。我々のグループでは細胞内グルタチオン上昇活性をもつ食品成分のスクリーニングを行っており、黄ニラに強い活性があることを見出しました。また、グルタチオンは睡眠ホルモン合成酵素の活性化に関わっており、グルタチオンを増加させることで快眠に繋がることも明らかにしています。この研究成果により、黄ニラを利用した快眠作用を持つ機能性食品の開発や黄ニラの付加価値を高めることで販売促進につながると期待されます。



免疫薬理学

keyword

薬物アレルギー
急性リンパ芽球性白
血病治療薬
肥満細胞
サイトカイン



見尾 光庸

Mitsunobu Mio

原(野上) 愛

Ai Nogami-Hara

薬学部薬学科

教授(見尾)、講師(原)

【プロフィール(見尾)】

岡山県出身
岡山大学大学院薬学研
究科修了、薬学博士
岡山大学助手、助教授、
ロンドン大学客員研究
員などを経て現職
就実大学副学長、産学官
地域連携センター長

【主な社会的活動】

大学基準協会基準委員
会委員等

【プロフィール(原)】

大分県出身
福岡大学大学院薬学研
究科修了、博士(薬学)
福岡大学博士研究員、就
実大学助教を経て現職

【主な社会的活動】

日本薬理学会(学術評議
員・薬理学エデュケーター
等)

【代表的な研究テーマ】

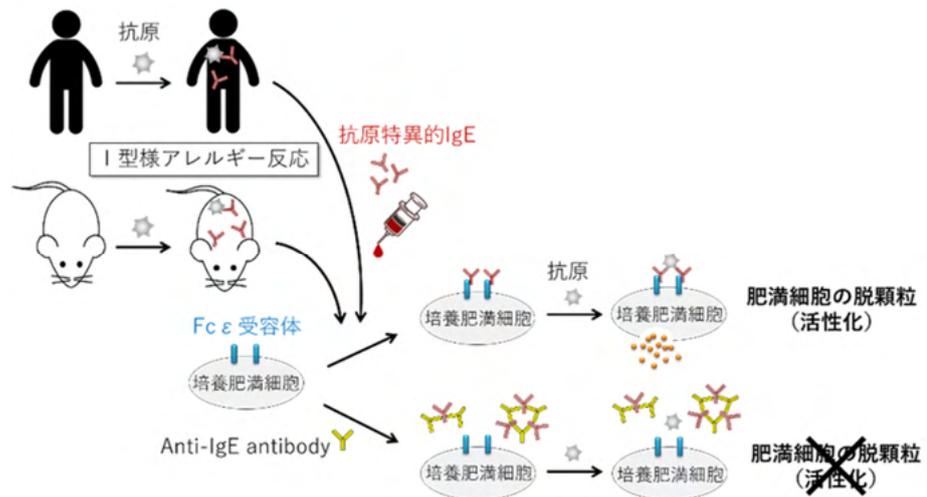
白血病治療薬による薬物アレルギーの克服に向けた新規治療法
ならびに非侵襲的検査方法の開発

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

薬物アレルギーは、医薬品の有害作用の中でも予見困難なもののひとつである。しかし、薬物アレルギーの発症機序は不明な点も多く、治療方法のみならず個々の薬物に応じた抗原特異的検査方法も確立されていない。中でも、小児急性白血病の標準治療薬であり第一選択薬として用いられる L-アスパラギナーゼは、ヒトにとって異種タンパク質を治療に用いていることから、しばしば白血病治療の妨げとなる重篤な薬物アレルギーを高頻度で起こすことが临床上問題となっている。

我々は L-アスパラギナーゼアレルギーの新規治療法ならびに簡便で非侵襲的な検査方法の開発を目指した研究を行っている。さらに、L-アスパラギナーゼと併用される薬物のうち、免疫系に作用する薬物に着目し、薬物アレルギーのみならず免疫系を介した薬物耐性の発現についても明らかにしている。

これまでに、L-アスパラギナーゼアレルギーモデルマウスを作成し、*in vivo*(生体内)で薬物アレルギーを再現し、抗 IgE 抗体を用いた治療の手掛かりを見出した。また、L-アスパラギナーゼアレルギーの血清を用いて即時型アレルギー反応に関わる肥満細胞の培養細胞に作用させることで、*in vitro*(試験管内)で L-アスパラギナーゼアレルギーを再現させた。そして、抗 IgE 抗体の有効性についても *in vitro* で評価する評価系を構築した。また、これらの系を用いることにより、免疫系に作用する抗腫瘍薬が、白血病治療薬に対する薬物アレルギーや免疫系を介した薬物耐性に影響を及ぼすことを明らかにしている。



(本研究は、自治医科大学や岡山大学の小児科の先生との共同で行っている。さらに、小児白血病の克服を目的とした支援団体である日本白血病研究基金、がんの子どもを守る会、ゴールドリボン等の支援を受けて行っている)

企業・自治体等へのメッセージ

小児の死亡原因はがんであり、その中でも急性リンパ性白血病は最も多くを占めます。しかし、治療を完遂することができれば、完全寛解に至ることも可能になっています。治療完遂を妨げる薬物アレルギーを克服するためにも、ご理解とご支援をお願いします。

医療・生命科学

keyword

- ・ 慢性炎症
- ・ 分子標的薬
- ・ 生活習慣病
- ・ 組織リモデリング
- ・ Damps
- ・ サイトカイン



森 秀治
Shuji Mori

薬学部
教授
薬学部長

所属学会

日本薬学会
日本薬理学会
日本生化学会
日本分子生物学会
日本血栓止血学会
日本炎症・再生医学会
日本ラクトフェリン学会
創薬・薬理フォーラム
岡山

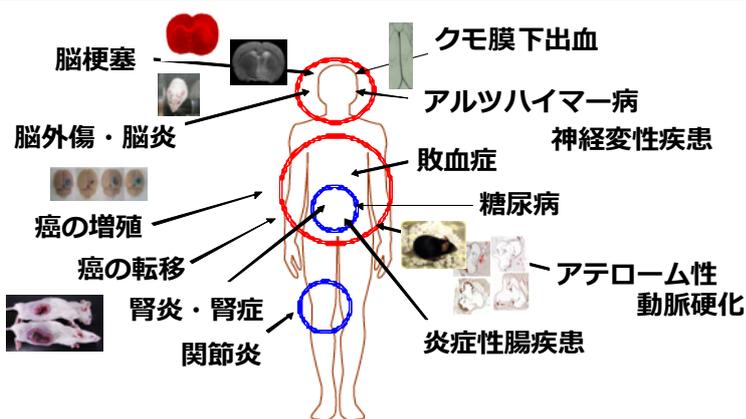
【代表的な研究テーマ】

慢性炎症の増悪化因子を分子標的とした生活習慣病改善研究

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

- 1) 心筋梗塞・脳梗塞・糖尿病をはじめとする生活習慣病は、超高齢化社会を迎えた我が国において死因の上位を占め、重度後遺症による介護・看護などの医療損失も極めて甚大な状況にあります。
- 2) しかしながら、これらの重大疾患に対する有効な根治的治療法は未確立のままであり、現代医療が取り組むべき最重要課題の一つといえます。
- 3) 組織リモデリングは、炎症の慢性化・遷延化に基づいた病的な組織構造と機能障害を伴う重篤な難治性病態であり、生活習慣病の発症や増悪化をもたらす重要な危険因子と位置付けられています。
- 4) その過程には、様々な生体内微量性因子による過剰炎症応答や慢性刺激などが深く関わっており、病態形成の分子基盤となっています。
- 5) このような背景のもと、私達の研究室では組織リモデリングの主原因となる新規炎症関連因子(Damps など)の同定および病態発症機序の解明を行っており、得られた知見を基にして新たな分子標的治療物質の開発や疾患予防に有用な食品・サプリメントへの応用を目指しています。
- 6) 具体的には、Damps と称される病態増悪化因子を分子標的に定め、これらに対する活性遮断分子の探索研究と予防・治療への応用について解析を行っています。
- 7) 研究室では、目標達成に必要な様々なバイオ技術(ゲノム編集、細胞融合、遺伝子組換え、内毒素フリータンパク質発現系など)を備えており、多くの協力者と共に力を合わせて難題に取り組んでいきたいと考えています。

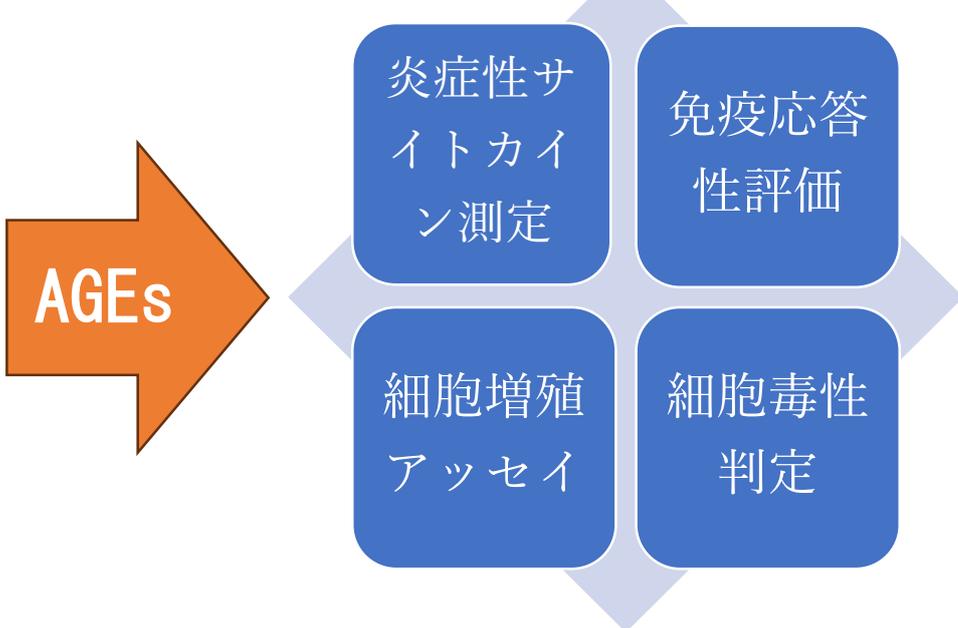
慢性炎症制御による生活習慣病改善



● 高い社会的要求度と広い波及効果

企業・自治体等へのメッセージ

社会的要請度の高い課題の解決に向けて、ともに発展・成長していきたいと願っています。お気軽にお声を掛けて下さいますようお願いいたします。

<p>薬学</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p>
<p>keyword</p>	<p>終末糖化産物 AGEs の新規機序に対する抗炎症作用を期待した創薬開発に関する研究</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■薬理学評価 ■細胞生物学 ■生理活性物質 ■抗炎症作用 ■創薬ターゲット 	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
	<p>『炎症』という現象は、ほとんどの疾患で生じており、多くの場合症状の悪化や回復の遅延等に影響を与えていることが知られています。その重要性から、多くの研究者によりメカニズムの解明が進められ、現在も新規機序の解明が進みつつ、それに対抗するための創薬も各製薬会社が精力的に行っており、臨床現場では様々な『抗炎症薬』が患者の生命を守っている現実があります。</p>
<p>豊村 隆男 Takao Toyomura</p>	<p>我々の研究室では、近年問題となっている終末糖化産物(AGEs)の作用機序とその活性に対する創薬を目指し研究を行っています。AGEs は、体内で代謝された様々な種類の糖と、たんぱく質のようなアミノ基を持つ物質とが結合して生成される糖化物質の総称です。AGEs は、様々な受容体と結合するという特徴もあり、AGEs と受容体の掛け合わせがほぼ無限に存在するため、その作用機序は未解明な現状があります。そこで我々は、代表的な AGEs と受容体に着目し、限定した条件においてそれらがどう言った細胞生物学的反応を引き起こすか明らかにすることで、薬理学評価実験を構築できると考えています。</p>
<p>薬学部薬学科 医療薬学研究科 准教授</p>	<p>培養細胞を用いた薬理的評価</p>
<p>【プロフィール】 甲南大学理学部卒 大阪大学大学院理学研究科で博士号(理学)を取得</p>	 <p>炎症性サイトカイン測定</p> <p>免疫応答性評価</p> <p>細胞増殖アッセイ</p> <p>細胞毒性判定</p>
<p>日本学術振興会特別研究員、大阪薬科大学私学助成研究員の後、現職</p>	<p>炎症関連の培養細胞だけでなく、血管内皮細胞や肺胞細胞、線維芽細胞など、様々な細胞での評価が可能です。近年は、線維芽細胞を用いた美容成分の解析なども一般的なものとなってきています。</p>
<p>【主な社会的活動】 日本生化学会 日本分子生物学会 日本薬学会 薬学教育学会</p>	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p>
<p>【その他】 就実大学生協理事</p>	<p>特定保健用食品(トクホ)のように、様々なものに「機能」を見出すことで付加価値を付ける事が一般的となってきました。当研究室における薬理的評価手法は有用なものと思いますので、企業等との共同研究をお待ちしております。</p>

薬学

keyword

慢性炎症
終末糖化産物(AGEs)
ダメージ関連分子パターン(DAMPs)
リコンビナントタンパク質
モノクローナル抗体



渡邊 政博

Masahiro Watanabe

薬学部・薬学科
准教授

【プロフィール】

・徳島大学薬学部, 同大学院薬科学教育部 修了.
・産業技術総合研究所技術職員, 香川大学医学部附属病院 薬剤師を経て就実大学薬学部に着任.

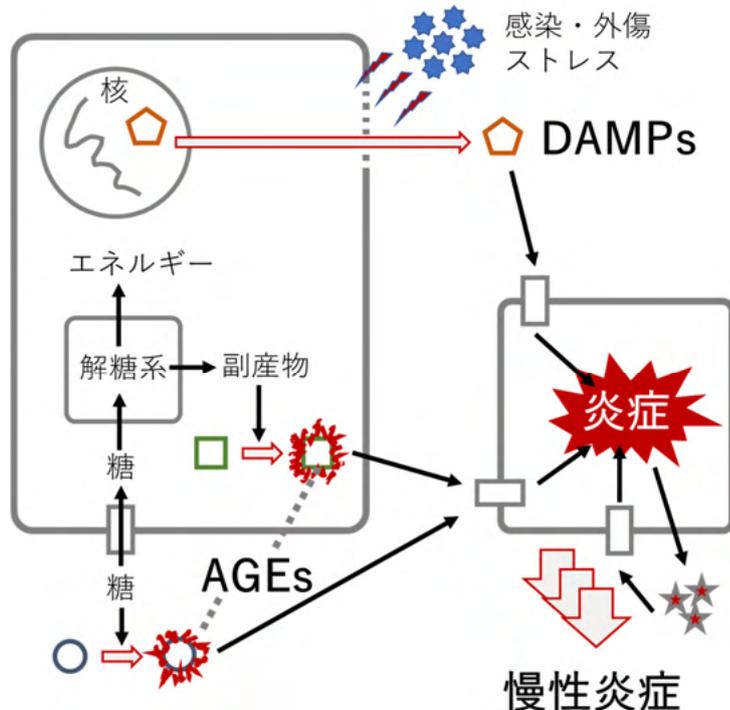
【主な社会的活動】

・TDM ソフトウェアの開発発(<http://easytdm.com>)
・岡山県医薬品配置協議会 研修会講師

【代表的な研究テーマ】

- ・AGEs や DAMPs が炎症を引き起こすメカニズムの解明
- ・モノクローナル抗体を用いた臨床検査機器の開発

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明



炎症を引き起こす新規メカニズムの探索

生体内では、糖やその代謝産物とタンパク質等が反応して終末糖化産物(AGEs)という分子が生じています。AGEsの生成によって、タンパク質の機能が損なわれることが明らかになっており、糖尿病や加齢に伴って生じる疾患の要因として注目されています。さらにAGEsは、細胞を刺激して炎症を引き起こす可能性が示されています。このことは、生体内におけるAGEs量の増加が、炎症が原因となって生じる疾患の要因となっていることを示唆しています。また、通常は細胞内に存在しており、細胞が刺激をうけることにより放出されるDAMPsとよばれる分子が存在することが報告されています。このDAMPsは、AGEsと類似したメカニズムにより炎症を引き起こすことが示唆されています。我々は、AGEsやDAMPsがどのようにして炎症を引き起こすのか、また一度起きた炎症が持続する病態である慢性炎症に関与しているのかを明らかにすることを目的に研究を行っています。

モノクローナル抗体を用いた臨床検査機器の開発

AGEsやDAMPsを対象とした研究を進めるなかで、これらの分子を精密に認識する抗体を調製する技術を確認しました。この方法を用いて、抗体により医薬品や生体分子の動態を測定・解析するための機器の開発を進めています。

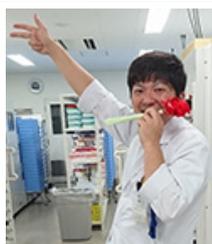
企業・自治体等へのメッセージ

研究を進める中で、モノクローナル抗体作製に加えて、細菌由来の成分を極力含まないリコンビナントタンパク質を取得する手法を確認しました。これらの手法をお役立ていただける可能性がございましたらご連絡をお待ちしております。

薬学、組織学

keyword

糖尿病性腎症、免疫組織化学、糸球体、*ob/ob* mouse、腎皮質、腎小体肥大、傍糸球体細胞、renin、タコ足細胞、podocin



徳永 智典

Tomonori Tokunaga

薬学部 薬学科
助教

【プロフィール】

就実大学大学院卒

日病薬病院薬学認定薬剤師

公認スポーツファーマシスト

【主な社会的活動】

日本薬学会 正会員

日本病院薬剤師会 正会員

日本医療薬学会 正会員

岡山県病院薬剤師会 特別
会員

日本バイオイメージング学会
正会員

日本解剖学会 正会員

日本薬学教育学会 正会員

岡山県薬剤師会 正会員

日本薬剤師会 正会員

【代表的な研究テーマ】

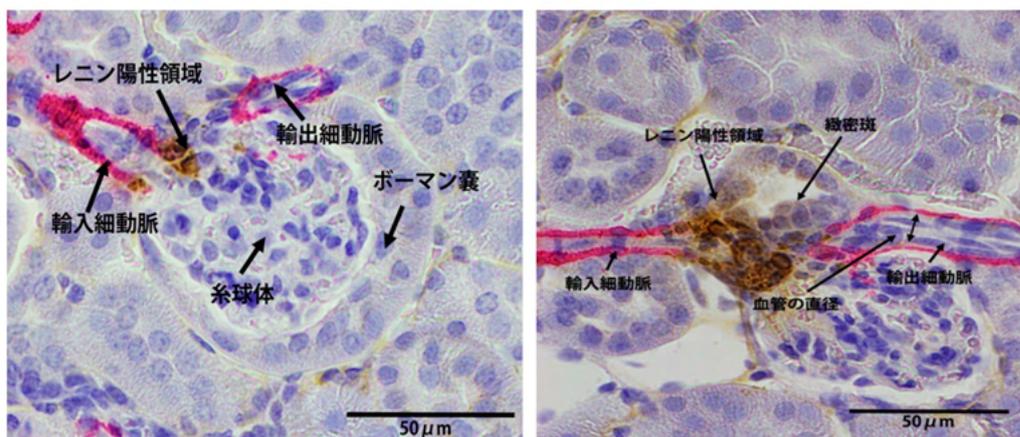
糖尿病性腎症における早期変化の組織学的解析

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

糖尿病における三大合併症の一つである糖尿病性腎症は、進行した場合に腎不全、透析療法へと至り、患者の QOL や生命予後および医療経済的観点等から、最も深刻な合併症と言える。そのため、腎症への進行を早期にとらえることが重要となる。

そこで我々の研究室では、糖尿病性腎症の初期変化を検証するために、10 週齢(10W)と 20 週齢(20W)の糖尿病モデル(*ob/ob*)マウスとその正常(control)マウスの腎切片を用いて組織学的に検討している。

腎臓の皮質では領域によって血圧の調節機構が異なっているという報告がある。腎皮質の髄質に近いところに存在する傍髄質糸球体は、解剖学的理由から血圧の影響を受けやすく、糖尿病のように輸入細動脈が収縮不全となると高血圧が直接糸球体内圧を上昇させ、濾過圧の上昇がアルブミン尿排泄を促進すると言われている。また皮質表在糸球体では輸出細動脈のアンギオテンシン II に対する反応性が高く、糖尿病のように腎内レニン-アンジオテンシン系(Renin-Angiotensin System : RAS)が亢進した状態においてはアンギオテンシン II により輸出細動脈が強く収縮することで皮質表在糸球体の濾過圧上昇につながり、アルブミン尿を増大させると言われている。



皮質側領域(左)と髄質側領域(右)に存在する腎小体の輸出入細動脈(赤)とレニン陽性領域(褐色)

企業・自治体等へのメッセージ

特になし

医療薬学

keyword

- ・精神神経疾患
- ・行動薬理学
- ・モデル動物作製
- ・医薬品適正使用
- ・薬剤師職能



北村 佳久
Yoshihisa Kitamura

薬学部薬学科
大学院医療薬学研究科
教授

【プロフィール】
1989 年福岡大学大学院博士
前期課程修了
1989 年東洋醸造(株)リサー
とセンター
1992 年旭化成工業ライフサイ
エンス総合研究所
1997 年岡山大学病院薬剤部
2005 年岡山大学大学院医薬
管理学 准教授
2012 年岡山大学病院薬剤部
准教授・副薬剤部長
2020 年～現在に至る
就実大学薬学部教授

【主な社会的活動】

- ・日本薬理学会
- ・日本精神神経薬理学会
- ・日本病院薬剤師会
- ・日本薬学会
- ・日本医療薬学会
- ・日本医薬品情報学会
- ・日本緩和医療薬学会
- ・日本サイコオンコロジー学会
- ・日本薬学教育学会
- ・日本精神薬学会
(国外所属学会)
- ・米国神経化学会
- ・国際神経精神薬理学会

【その他】

- ・日本医療薬学会 編集委員
会 委員
- ・日本精神薬学会 倫理委員
会 委員
- ・日本サイコオンコロジー学
会 薬剤師委員会 委員
- ・日本薬理学会 学術評議員
- ・日本精神神経薬理学会 学
術評議員

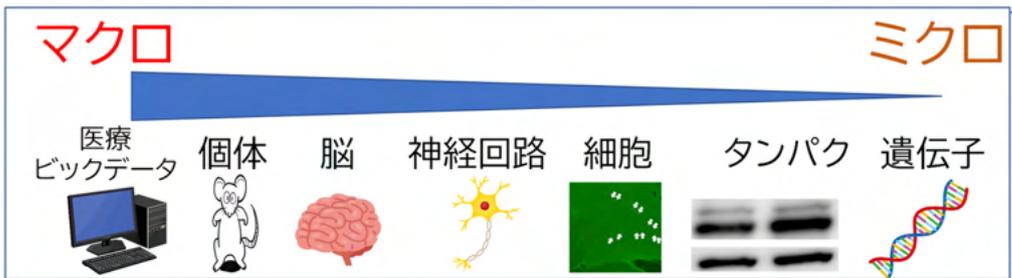
【代表的な研究テーマ】

精神疾患の病態解明および次世代の治療薬開発

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

精神疾患は、一般によく認められる疾患であり、社会経済的に大きな影響を与える疾患である。障害によって失った普通の健康な生活の年数を積算したものである YLD (the years lost due to disability) では 2004 年の報告(WHO)によると男性では、うつ病(1 位)、アルコール障害(2 位)、統合失調症(5 位)、双極性障害(7 位)の 4 つの精神疾患が YLD の 10 位以内に入っており、女性においても、うつ病(1 位)、統合失調症(6 位)、双極性障害(8 位)、認知症(10 位)の 4 つの精神疾患が YLD の 10 位以内に入っている。このように精神疾患は身近な病気でもあり、長期に生活の質に影響する疾患でもあり、十分な病態解明および次世代の創薬研究が必要な分野である。

私は“行動薬理学的手法”を用いて精神疾患病態を反映したモデル動物の作製を基盤として精神疾患の病態ならびに新薬の創薬研究を展開しています。そのモデル動物を用いて、脳における神経伝達物質、各種受容体・酵素蛋白等の定量、免疫組織科学的染色法により各種蛋白の発現変化、mRNA 発現量からも精神疾患の解明を行っています。



参考図 当研究室での研究展開

- 【ターゲット疾患】
- 1) 炎症による精神機能低下の病態解明と予防・治療薬の創薬研究
新型コロナウイルス感染症を視野に置き、肺炎が精神機能に与える影響を検討しています
Ushio S, Kitamura Y et al. Front Pharmacol. 2022 Aug 12; 13:890048.
Matsumoto D, Y, Kitamura Y et al. Eur J Pharmacol. 2021 Aug 5; 904: 174195.
 - 2) 抗がん剤投与による精神機能低下の病態解明と予防・治療薬の創薬研究
がん患者の健全な精神機能の維持を目標に研究を展開しています。
Tabuchi H, Kitamura Y et al. Psychopharmacology 2021; 238:3607-3614.
Kitamura Y et al. Pharmacology. 2020 Dec 22;1-8.
Nakamura Y, Kitamura Y et al. J Pharmacol Sci. 2018; 138:192-197.
 - 3) 治療抵抗性うつ病の病態および次世代の抗うつ薬の創薬研究
既存の抗うつ薬が改善しない動物モデルを開発し、世界の研究室で利用されている
Miyake A, Kitamura Y et al. Pharmacol Biochem Behav. 2014; 122:240-245

企業・自治体等へのメッセージ

多くの精神疾患改善薬は中枢神経系に作用するため副作用の発現により、服薬の維持、疾患の改善は困難な症例が散見される。次世代の精神疾患治療薬はより有効性が高く、副作用が少ない医薬品が望まれる。私たちは現在漢方薬、サプリメント関係から有効な作用機序を持つ化合物の創薬研究を実施している。

薬学 公衆衛生

keyword

地域医療
公衆衛生
薬局管理
へき地医療

【代表的な研究テーマ】

地域医療における薬局・薬剤師の役割

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

薬剤師はもはや薬局内で調剤だけを実施する存在ではなくなってきています。国民の健康増進の総合的な推進を図るための基本的な方針である「健康日本 21」では生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、健康寿命の延伸と健康格差の縮小などが掲げられており、薬剤師も積極的に本方針に参画していく必要があります。しかしながら、薬局・薬剤師が地域住民の健康に対して十分な役割を果たせてはいないのが現状です。もちろん、一部では積極的に地域貢献活動を実施している薬局もありますが、医療提供施設数や高齢化率のばらつき、行政の方針、薬剤師の地域偏在など、地域にはそれぞれ特性があるため、画一的に地域活動を実施することは不可能であることも役割を果たせていない要因の一つになっています。

そこで我々の研究室では、地域住民の健康維持・増進に向けて、町の薬局を地域の健康ステーション、薬剤師を健康相談役として、地域のニーズに合わせて活用するための方策を考え、それを実践して効果を検証する、といった研究を実施しています。これまでに以下のような活動を実施してきました。

具体的な研究活動内容(主に体験型として実施し、その効果を検証)

- ・中山間部や離島など医療過疎地域における健康維持増進活動(フレイルチェック・おくすり相談会・栄養摂取状況調査)の実施(行政との連携経験も有)
- ・小学校及び幼稚園における公衆衛生活動(手洗いと手指消毒講習会の実施・学校薬剤師便りの発行・お薬実験教室の実施)
- ・在宅医療現場における多職種連携の現状調査
- ・薬の適正使用と薬物乱用防止に関する取組
- ・セルフメディケーションへの貢献を目指した鎮痛薬等の適切な選択ツールの開発



加地 弘明
Kaji Hiroaki

薬学部・薬学科
准教授

【プロフィール】

1975年生まれ
兵庫県出身
六甲高校卒(1994)
岡山大学薬学部卒(1998)
岡山大学大学院博士課程卒(2003)
2003年の就実大学薬学部開設時に助教として入職
途中他大学へと移ったが、
2014年より就実大学薬学部へ再入職

【主な社会的活動】

岡山県薬剤師会 理事
日本社会薬学会 代議員
日本薬学会
日本医療薬学会
日本薬学教育学会
日本薬局学会
日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会

【その他】

学校薬剤師(幼稚園・小学校)
薬物乱用防止教室、高齢者へのお薬の適切な使い方教室、エビペン講習会、子ども科学実験教室、手洗い講習会などの実績多数



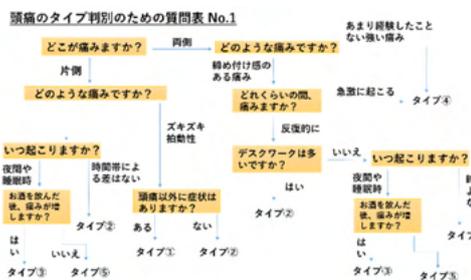
児童向けお薬実験教室



幼稚園でのエピペン講習



中山間地区での栄養講座



セルフメディケーション補助ツール

企業・自治体等へのメッセージ

研究活動を通じて、自ら考え地域に貢献できる薬剤師を育てたい、薬剤師が地域社会でもっと活躍してほしい、という想いをもって日々研究活動を実施しています。特に自治体などと連携して地域住民の健康維持・増進活動に貢献できればうれしく思います。

医療、医薬品、薬剤師

【代表的な研究テーマ】

keyword

薬剤師の職能・役割を見える化する研究
より良い薬物治療を見出す研究

薬剤師

医薬品適正使用

副作用回避

電子カルテ情報

薬剤疫学

医療統計学

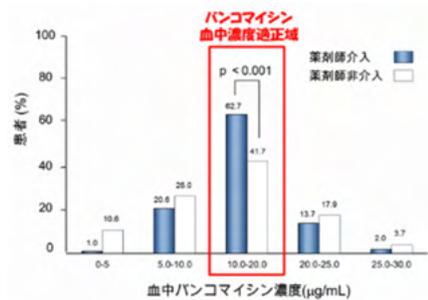
代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

薬剤師はくすりの専門家・責任者として、医薬品を用いた治療の有効性を最大限に発揮し、副作用を最小限に抑えるため、医療に携わっています。

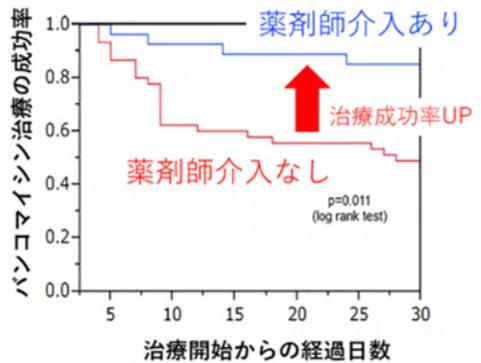
私の研究では、薬剤師がいるから「副作用が抑えられている」、「病気や症状が改善している」という事実を統計学的手法を用いて「見える化」しています。この研究によって薬剤師の職能が明示されるだけでなく、より効果的な薬の使用法を見出すことにも繋がります。

これまでに、明らかにしてきた研究成果を以下に示します。

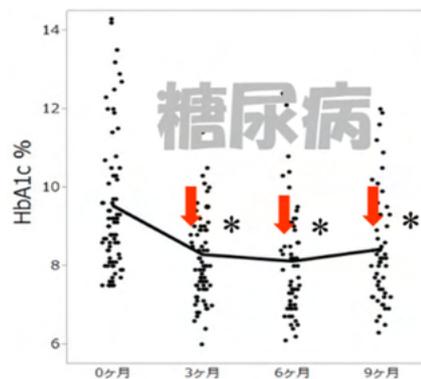
- ① 耐性菌の治療において、薬剤師が行う投与量設計により腎障害を防ぐことが出来る



- ② 重症感染症の治療において、薬剤師が関わると副作用の悪化や治療の中断を起こすことなく、有効な治療を継続することが出来る



- ③ 糖尿病の治療において、薬剤師が病院のチーム医療に関与すると、血糖コントロールが良い状態を半年以上継続できる



毎熊 隆誉
Takayoshi Maiguma
薬学部・薬学科
大学院 医療薬学研究科
准教授

【プロフィール】
・長崎県出身
・九州大学薬学府修了後、福岡徳洲会病院にて薬剤師として勤務
・2009年薬学博士取得
・2004年より就実大学薬学部の助手、助教、講師を経て2020年より現職
・就実大学薬学部附属薬局 薬剤師(兼任)

【主な社会的活動】
・日本薬学会
・日本医療薬学会
・日本薬剤師会
・日本病院薬剤師会
・日本医学教育学会
・日本薬学教育学会
・日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会理事
・NPO 法人岡山 SP 研究会顧問
・一般財団法人タイオン奨学基金 評議員・選考委員

企業・自治体等へのメッセージ

医薬品による現状の治療を見極めて、より良い治療法の探索や薬剤師職能の発展に貢献したいという病院や薬局などの医療機関、医療行政に関わる皆様と協働できますと幸いです。

医療薬学

【代表的な研究テーマ】

keyword

- ・プレアボイド
- ・医療経済効果
- ・医薬品適正使用
- ・副作用マネジメント
- ・ビッグデータ解析

薬剤師による薬学的介入と医療経済効果

～安全で質が高い地域医療提供体制と薬剤師の役割に関する研究～

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

我が国では、地域包括ケアシステムの概念のもと、安全で質の高い地域医療の提供が求められています。一方、日本の医療費は増加の一途をたどり、令和3年度の概算医療費は44.2兆円と、我が国の財政を圧迫する要因の一つとなっています。そのため、医療費を抑えつつ安全で質の高い地域医療提供体制を維持する方策が求められますが、人件費や薬剤費を下げることによる対応には限界があります。

私たちは医療費には薬の副作用の治療にかかった費用も含まれることに着目し、「副作用の発生や重症化を抑えることが医療費の削減に繋がる」と考えています。また、そこには薬剤師が大きな役割を果たすことができると考え、薬剤師が薬物療法に直接関与し、患者の不利益(副作用など)を回避した取り組みである「プレアボイド」に着目して、薬剤師がどのような関わりを行うことがプレアボイドに繋がるかについて研究を行っています。

これまで愛媛県で病院や薬局の薬剤師がプレアボイド報告を入力できるデータベースを構築して解析を行い、薬局薬剤師による副作用回避が、我が国全体に換算すると約2,960億円の医療費削減に繋がっていることを明らかにしました¹⁾。また、岡山県では岡山県薬剤師会と連携して薬局薬剤師がプレアボイド報告を入力できるデータベース「Pharma-PROs」を構築し、2020年4月より運用を開始しました。これまで5,000件以上のプレアボイド報告が集積され、薬局薬剤師が薬の過量投与や重複投与、禁忌薬投与の回避等を通じて多くの副作用回避に貢献していることを明らかにし、岡山県におけるプレアボイド事例1,064件のみでも約8,300万円の医療費を潜在的に抑制していることが推算されました²⁾。



田坂 祐一

Yuichi Tasaka

薬学部薬学科
大学院医療薬学研究科
准教授

【プロフィール】

- ・愛媛県出身
- ・2009年 熊本大学大学院博士前期課程修了
- ・2009年 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部
- ・2015年 愛媛大学医学部附属病院 医療安全管理部ゼネラルリスクマネージャー
- ・2018年 就実大学薬学部講師
- ・2023年～現在 就実大学薬学部 准教授

【主な社会的活動】

- ・日本薬剤師会
- ・日本病院薬剤師会(日病薬病院薬学認定薬剤師)
- ・日本医療薬学会(医療薬学専門薬剤師)
- ・日本医薬品安全性学会(医薬品安全性指導者、医薬品安全性専門薬剤師)
- ・日本薬学会
- ・医療の質・安全学会
- ・日本薬理学会
- ・日本薬学教育学会

【その他】

- ・日本病院薬剤師会 医薬情報委員会 委員
- ・日本病院薬剤師会 令和5年度学術第1小委員会 委員
- ・岡山県薬剤師会 安全管理特別委員会 委員長

岡山県薬剤師会 プレアボイド報告事業

プレアボイド:薬剤師職能の発揮により患者の不利益(副作用等)が回避された事例



“プレアボイドのきっかけ”を共有 ➡ 回避の方策を仕組み化
医療の質の向上 × 医療費削減 × 医療従事者の負担軽減 = Happy!

1) Economic and safety benefits of pharmaceutical interventions by community and hospital pharmacists in Japan. Tasaka Y, Yasunaga D, Tanaka M, Tanaka A, Asakawa T, Horio I, Miyauchi Y, Araki H, Int J Clin Pharm. 38(2), 321-329, 2016

2) 薬局プレアボイドの分析に基づく外来患者における薬剤関連問題の特徴. 竹内はる香, 立野朋志, 尾上洋, 廣田美祐紀, 廣戸敬毅, 監物英男, 伊達元英, 田坂祐一, 医療薬学. 48(5), 194-202, 2022

企業・自治体等へのメッセージ

医療費の増加は社会的な問題となっていますが、人件費や薬剤費を下げることによる対応には限界があります。私たちは、薬剤師の積極的な関わりが削減可能なコスト(回避可能な副作用に対する医療費)の発生を抑えることに繋がると考え、病院や薬局と連携して安全で質の高い医療提供が実現可能な方策に関する研究を行っています。

薬学・医療

Keyword

- 肺炎症
- 精神機能低下
- 術後貧血
- 肺高血圧症
- 基礎/臨床薬理学
- 地域医療



出石 恭久

Yasuhisa Izushi
薬学部 薬学科
講師

【プロフィール】

就実大学薬学部卒業、岡山大学大学院博士課程修了。独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター薬剤部、同センター臨床研究部 分子病態研究室、就実大学薬学部附属薬局勤務を経て現職。

【主な社会的活動】

岡山市薬剤師会医療連携委員、非常勤講師(薬理学)、日本薬剤師研修センター認定薬剤師、日本臨床試験学会認定GCPパスポート、日本臨床試験学会認定モニタリング技能検定(基礎コース)、日本臨床薬理学会認定臨床研究コーディネーター、日本薬理学会学術評議員、学校薬剤師

【所属学会】

日本薬理学会、日本臨床薬理学会、日本・岡山県薬剤師会、日本臨床試験学会、日本医療薬学会、日本薬学会、日本ファーマシューティカル・コミュニケーション学会。

【代表的な研究テーマ】

- 炎症に注目した難治性疾患の治療標的因子の探索
- 薬物治療の副作用発現およびそのリスクファクターの探索
- 薬局の健康サポート機能の構築

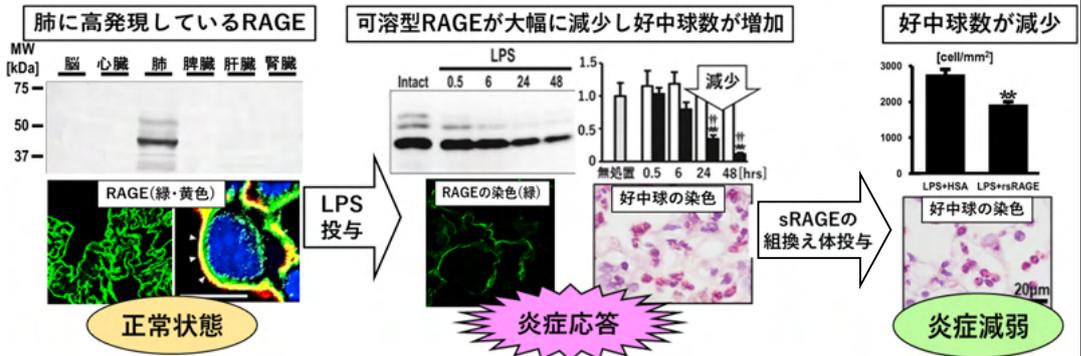
代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

【基礎研究】

医療技術の革新的な進歩に関わらず、未だ様々な治療法が確立されていない難治性疾患が数多く存在しています。開発された治療法も治療抵抗性や副作用等による問題で治療効果が限定的な事が多く、新たな視点からの治療戦略が必要とされています。

私は、難治性疾患の病態形成に「炎症」が関与しており、「炎症」を制御する事が治療戦略に繋がると考え、研究を進めています。現在、「肺炎症」に着目した精神機能低下の機序の解明と肺高血圧症の新規治療標的因子やバイオマーカーに関する研究を行っています。

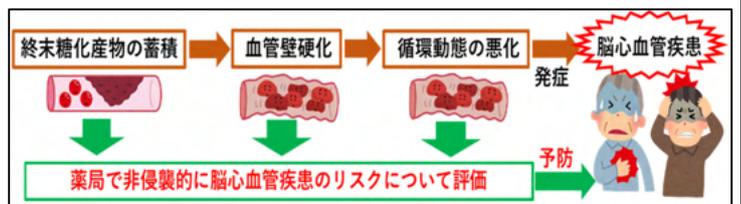
炎症を引き起こす物質であるリポポリサッカライド(LPS)を処置した肺炎症モデルでは、肺胞表面に高発現している終末糖化産物の受容体(RAGE)の可溶性分子種(sRAGE)が大幅に減少し、sRAGEの組換え体を補充する事で肺の炎症を軽減させる作用がある事を明らかにしました。そこで、肺炎症に合併する難治性疾患に関する研究でも、このRAGEを中心とした炎症に注目しています。



【臨床研究】

私は薬物治療における臨床薬剤師の科学的見地に基づいた副作用発現およびそのリスクファクターに関する臨床研究を行っています。これまでに、人工下肢関節置換術施術後に実施される深部静脈血栓塞栓症予防において、本邦で開発された抗凝固薬であるエドキサバン錠が術後貧血を上昇させる事、およびこの薬による術後貧血のリスク因子として腎機能の低下に注意が必要である事を明らかにしました。さらに、抗がん剤の血管外漏出に関する研究では、抗がん剤を長時間点滴しなければならぬレジメン(治療計画)で血管外漏出のリスクが有意に上昇する事を明らかにしました。

一方、高齢化が進む日本で重要な地域医療において、薬局の可能性を最大限に活用するために、薬局における健康サポート機能の構築に関する研究も行っていきます。現在、特に日本人の死亡率上位に入る脳心血管系疾患を対象として、終末糖化産物の蓄積による血管病変を非侵襲的に評価した健康サポートに関する研究を行っています。



【現在の主な研究内容】

- 1) 全身炎症および肺炎症による精神機能低下に対する新規治療標的因子の探索
- 2) 肺高血圧症の血液/組織サンプルを用いたバイオマーカーと治療標的因子の探索
- 3) 人工下肢関節置換術施術後のedoxabanによる術後貧血のリスク因子の探索
- 4) 終末糖化産物と血管硬化度の評価による薬局の健康サポート機能構築に関する研究

音楽 声楽

keyword

- 芸術
- 音楽
- 声楽



ズビャーギナ 章子
Akiko Zvyagina

幼児教育学科
教授

【プロフィール】

- ・大阪教育大学、同大学院声楽専攻修了
- ・ロシア国立サンクトペテルブルク音楽院独唱科に研究生として留学
- ・大阪府立盲学校講師
- ・大阪教育大学非常勤講師
- ・現在、就実短期大学教授

【主な社会的活動】

- ・高齢者施設、病院、教育施設での演奏活動
- ・日本音楽表現学会

【その他】

- ・「ちよっとひといき♪SDGsってなあに？親子で楽しむコンサート」に出演(2023)
- ・「花・緑・ハーモニーフェスタ Jazz in 西川 ちよっとひといき Akiko & Yoshika」に出演(2023)
- ・「第 22 回天満音楽祭 天満教会 ズビャーギナ章子ソプラノコンサート」に出演(2022)
- ・「就実こども園 園歌」作詞・作曲(2015)
- ・第 19 回アジア国際文化芸術フェスティバル優秀賞受賞

【代表的な研究テーマ】

□ ヴォイストレーニング～より豊かな声づくりをめざして～

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

良い発声で心も身体も健康に

「ヴォイストレーニング」というと、声楽家やアナウンサーなど声を職業とする専門家のための訓練であると思われがちですが、誰もが日常的に使う「話し声」に着目し、顔の表情の作り方や腹式呼吸のしくみ、全身を使った発声法を習得し心と身体をリフレッシュすることを目的に実践的なトレーニングを行います。

● **表情筋エクササイズ**

人間の顔にある30種類以上の筋肉は、相互に作用し合うことによって様々な表情を作り出しますが、この表情筋は、脚や腕などの筋肉と同じく使わなければ衰えます。表情筋を意識的に動かすトレーニングによって、今まで自分で気づかなかった顔の歪みを矯正しつつ、より豊かな表情を作り出すことで周りに生き生きとした印象を与える効果が期待されます。

● **ヴォイストレーニングのための全身ストレッチ**

ヴォイストレーニングは全身運動です。全身の機能を有効に使いながら発声することは、喉の疲労を最小限に抑え、声の病気やトラブルを抑止することにもつながります。

● **発声練習**

正しい姿勢と呼吸法を身につけ、安定感のある発声で歌ったり話したりするための、効果的なエクササイズを行います。無理な発声で喉を痛めないよう、日常生活の中でも自然な声の使い方ができるように声と身体をコントロールしていくことを目指します。

● **歌唱練習**

発声や呼吸法、喉の使い方など、声をだすための基礎を身につける中で、音楽的なテクニック(音程、リズム、表現)などを練習し、歌唱力をあげていきます。

「最近声が出にくくなった」、「健康増進に興味があるが運動は苦手」という方でも、自分の声にじっくりと耳を傾け、全身で歌ってエネルギーを開放することによって、医療とは違う角度から心と身体の健康法を見出すことができるのではないのでしょうか。

～ヴォイストレーニング講座の様子～



～高齢者施設での演奏～



企業・自治体等へのメッセージ

高齢者施設や病院、企業や教育施設等で、みなさんと楽しく身体を動かしたり歌ったりと、音楽の力を最大限に活かした講座や演奏を行っています。

岡山のみなさまと共に歌い笑い、人生を豊かにするためのお手伝いができれば幸いです。

<p>保育・子育て支援</p> <p>keyword</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育 ・子育て支援 ・主体 ・共感的理解 ・協働 ・育ち合い  <p>三好年江 Toshie miyoshi</p> <p>幼児教育学科 准教授</p> <p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士・幼稚園教諭を経て2004年より、新見公立短期大学、2021年より就実短期大学にて保育者養成に従事。 ・福山市立大学大学院にて幼稚園教諭専修免許、児童教育学士を取得 <p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本保育学会 ・日本乳幼児教育学会 ・日本保育者養成教育学会 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保育の友」(全国社会福祉協議会)への執筆活動 ・保育者に対する各種研修・研究会講師、園内研修および公開保育における指導助言講師 ・子育て支援に関する研修や講演活動 	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□地域協働型子育て支援/「子育て支援力」の育成 □保育の質向上につながる園内研修</p> <p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p> <p>専門は保育と子育て支援です。私の思考の中心にあるものは「主体」「共感的理解」「協働」「育ち合い」の4つのキーワードです。保育も子育て支援も、一人一人が「主体」としての思いや考えを持ちながら、他者を「共感的に理解」し、力を出し合ったり補い合ったりと「協働」することにより、「育ち合う」関係を生み出していくのではないかという考えをもちながら実践研究等に取組んでいます。以下、研究の一部をご紹介します。</p> <p>保育関連の研究では、「保育者の意識変容と保育内容の改善を目指した園内研修」(『新見公立大学紀要 37』, 107-114, 2016)があります。本研究では、園内研修を通して保育者の意識が変わるとともに、保育内容も「保育者主導」から「子ども主体」へ変化が見られました。この園内研修では、「カンファレンス」「成果と課題の可視化」「チェンジエージェントの視点」を用いて、保育者の気付き、意欲、同僚性に働きかけていくという手法をとっています。</p> <p>子育て支援関連の研究には「子育て支援施設を利用することによる親子の育ち—質問紙調査における自由記述の内容分析から—」(『新見公立大学紀要 40』, 203-210, 2019)や「地域協働型子育て支援「子育てカレッジ」におけるアウトリーチの考察—遠隔地域Aでの三世代交流活動—」(『新見公立大学紀要 36』, 17-22, 2015)などがあります。前者は、地域の子育て支援の核となる施設が親子の育ちにどのような変化を与えているのか明らかにし、その背景を探っています。後者は、協働の手法を取り入れた大学を核とした地域子育て支援機関(子育てカレッジ)が、地域に出向くアウトリーチを試み、三世代交流活動を通して、地域の子育て支援力向上に寄与していくプロセス等を明らかにしています。本取組みで、住民は、世代間交流の楽しさを味わい、子育てにおいて多様な世代がつながる必要性を実感しています。また、事業の企画・運営に関わった実施者や活動の参加者は、活動の中でそれぞれが持つ力を相互に引き出し合いエンパワメント(育ち合う)されていきました。実施後には、地域内に世代を超えた新たな交流が生まれたりネットワークの形成が見られたり等の成果が見られました。</p> <p>その他、子どもの育ちや子育ての基本等をまとめた『多世代をつなぐ子育て・孫育て応援ブック』(ハンドブック)を作成するなど、子育て世代と多様な世代・地域住民をつなぎ子育てしやすい地域づくりを目指す取組みなどを行っています。</p> <p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>すぐに成果が出たり、正解があったりするわけではありませんが、子どもや子育て家庭にとっての「より良いこと」をみなさんと共に考えながら、「子ども」や「子育て家庭」への理解を広め深めたり、地域の中で「育み合う関係」を構築したりするプロセスなどでお手伝いできることがあればと思っています。よろしく願いいたします。</p>
--	---

教育・臨床心理

keyword

- 教員
- スクールカウンセリング
- 学校内外の協働
- 支援体制の構築
- 多職種協働
- 多職種連携教育



荊木 まき子
Ibaraki Makiko

幼児教育学科
准教授

【プロフィール】

- ・大阪で幼小中高のスクールカウンセラーに従事
- ・兵庫教育大学連合大学院、博士
- ・大阪教育大学、非常勤講師
- ・就実短期大学、准教授

【主な社会的活動】

- ・日本教育心理学会
- ・日本コミュニティ心理学会
- ・日本心理臨床学会

【その他】

- ・荊木まき子・森田英嗣・鈴木薫 多職種連携教育における「模擬ケース会議」の可能性：教員養成における可能性 大阪教育大学紀要、第4部門、教育科学 64(1)231-252 2015
- ・荊木まき子 スクールカウンセラーから見た学校 コミュニティ心理学研究 20(1)6-1 0、2016

【代表的な研究テーマ】

教育領域における多職種連携教育の開発
学校における支援体制の構築

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

10年近く、学校や教育に関わる心理的支援や、カウンセリングにたずさわってきました。その中で、スクールカウンセラーと学校とでよりよく子どもを支援するために、何ができるのかを考えてきたことが、現在の研究にいたる原点になっています。

子ども達のより良い成長や発達を支援するには、下図のように、学校の先生方だけでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携することも含めた学校の支援体制の構築や先生方の協働に対する理解、養成段階での多職種連携教育が不可欠であると考えられます。そのため、子どもの支援がより円滑に進められる組織開発や、養成段階・現職の先生方の校内研修の開発と、学校現場の支援体制のお役に立てる研究に取り組んできました。

したがって、子どもや教育に関わる現場で頑張っている方々と、一緒に考えさせてもらえればと願っております。大切にしたいことは、子どもの支援に関わる方々が、今よりも少しでも主体的に、より円滑に支援を進めるようになることです。私は、皆さんのお話を伺って、状況を整理し、あるいは当事者同士では言いにくいことを一専門家の立場から、意見を述べさせていただくことも可能です。また、養成教育や研修に関連する研究を行っていますので、校内研修や自治体の研修講師を務めさせていただくことも可能です。

「学校の支援体制について、よりよく機能するように、考えてみたい。」

「学校内のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと教員が、よりよく協働するには、何が必要なのだろうか。」

「校内・教育委員会の研修で、子どもの支援や学校内の協働に関わることができないか。」

「各学校に対して、子どもの支援を体制作りからバックアップしたい。」

そんなご要望がございましたら、参りますので、お気軽にご連絡ください。

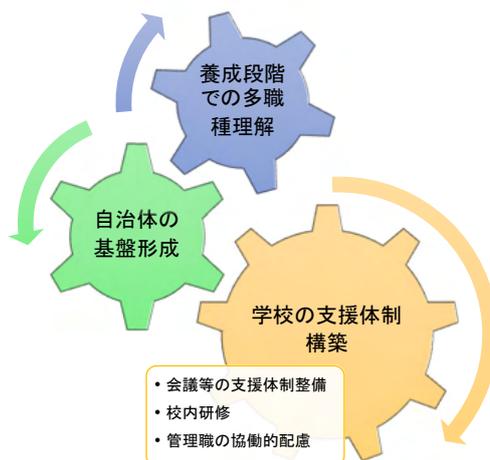


図 学校支援体制構築の関連図

企業・自治体等へのメッセージ

岡山に赴任してから、「教育県」としての、岡山の底力を感じる事が多い日々です。そんな、様々な可能性を秘めた岡山の人々と、一緒に仕事をさせていただくことは、私の喜びです。岡山の方々と、子どもの支援に関わる事について、一緒に挑戦させていただけることを願っております。

keyword

- 協働
- 社会的影響
- リーダーシップ
- 組織文化
- 学校
- リスクマネジメント



鎌田 雅史

KAMADA Masafumi

短期大学 幼児教育学科
准教授

【プロフィール】

岡山大学教育学研究科、
兵庫教育大学大学院連合学
校教育学研究科を修了。
2011年より就実短期大学に
着任。博士(学術)、公認心理
師、学校心理士

【主な社会的活動】

- ・『影響力の心理学』大学コ
ンソーシアム岡山 吉備創
成カレッジ講座(2021)
- ・『心のエンジンを ON にす
る！やる気の心理学』倉
敷市民学習センター 主催
講座 (2016)

【その他】

社会心理学、組織心理学。
教育心理学を基盤として、主
に教育的組織を対象とした研
究を行っています。

【代表的な研究テーマ】

□ リスクマネジメントと組織づくり

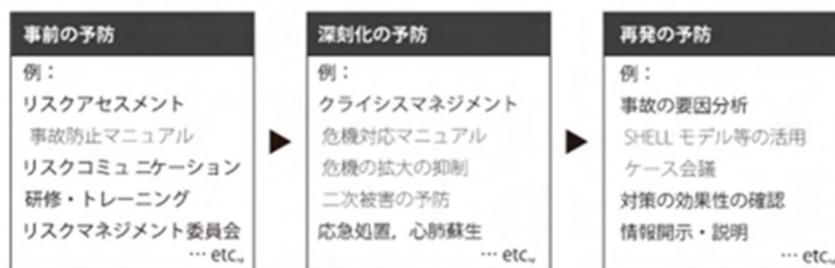
代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

□ リスクマネジメントと組織づくり

COVID-19 が猛威を振るう現代社会において、『安全』の意味が問い直されています。安全とは何なのでしょう？どうすれば守ることができるのでしょうか？私たちが日常的に目にする多くの『安全策』は、本当に効果的なのでしょう？

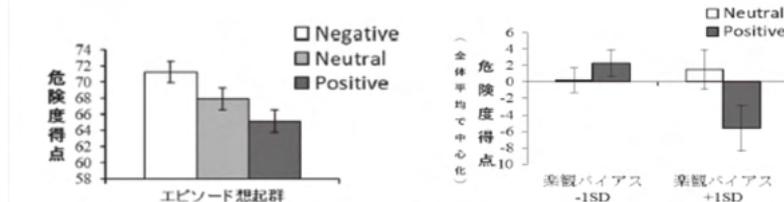
リスクマネジメントとは許容可能なレベルに『リスク』をコントロールすることです。前提として、リスクは決してゼロにはできません。例えば保育・教育であれば、死亡や後遺症が残る重篤事故といった、『許容できない』悲劇を防ぐ具体的な手立てを考え抜くことがリスクマネジメントです。リスクマネジメントには、3つのチャンスがあります。

リスクマネジメント3つの予防



保育者個人/チーム/保育施設(組織)として可能な対策
鎌田・伊藤(2020) 保育施設におけるリスクマネジメントに関する心理学的研究の展望 就実論叢 49, 73-84

近年の心理学研究、近接領域の研究で分かってきたことは『人は常には合理的にはいられない』ということです。いつも『気をつけて』いても一瞬気を緩めた刹那に事故が起こる可能性があるのです。例えば、私達の調査からは弱い効果量ながら、感情によってヒトの危険予知能力が揺れ動く可能性が示唆されました。ヒトの合理性や注意力には限界があり、精神論に依拠した予防策は脆弱です。付け加えるなら、確率論的に重篤事故は滅多に起こりません。『いつ起こつか分からない』事故に神経を尖らせ、警戒し続けることは極めて困難な課題です。しかし重篤事故は『許容できない』悲劇を引き起こします。



伊藤・鎌田(2019) ポジティブ感情と危険認知の関係—保育場面における楽観バイアスに着目して— 日本教育心理学会 61回大会研究発表論文集, 432 より

個人の認知能力には限界があります。よって私は、わたしたちが肩の力を抜いて取り組むことのできる安全策こそ検討すべきであると考えています。それは環境整備であったり、私たちが当たり前のよう営んでいるルーティンの中に安全に関するコミュニケーションを埋め込むことなどが含まれます。以上のような問題意識から、安全に関するコミュニケーションのあり方を組織論や心理学の枠組みで検討していこうと考えています。

<p>音楽教育 音楽療法</p> <p>keyword</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 音楽療法 ■ 音楽教育 ■ 現象学 ■ 相互行為 ■ 変容 ■ ライフストーリー 	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>音楽活動の場で起こる語りや現象を通した人々の変容</p>
	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
<p>山下世史佳 Yamashita Yoshika</p>	<p>専門は音楽教育と音楽療法です。</p> <p>すべての人々が地域で共存できる社会づくりを目指すことを前提に、音楽教育と音楽療法を融合させることで、よりよい音楽活動が展開できると考えています。具体的には、グレーゾーンの子ども達も安心して参加できるような音楽教育活動、施設において参加者それぞれが何らかの学びを実感できる音楽療法、バリアフリーの音楽コンサート等です。参加者やお客様、様々な年代の生徒や学生等のニーズに対応した結果、音楽教育と音楽療法を融合させることになったケースが多くあります。これらを実践するためには、対応できる知識や技術等だけでなく、熱意、寄り添う気持ちや姿勢、相手の立場に立つホスピタリティ、コミュニケーション力が必要となります。</p>
<p>幼児教育学科 講師</p>	<p>社会生活を送る上で音楽は身近に存在します。音楽は、アラームやバックミュージック等、音楽をツールとして使用される他、音楽は、人の気持ちを高揚させたり、落ち込んだ時に慰めたりします。音楽とは全く関係のない企業や自治体で働かれる方々の中にも、音楽好きの方はきっとおられると思います(音楽嫌いの方でも、本当は音楽好きだったのに学生時代に音楽で苦い経験をしてから嫌いになってしまった方が多いように思います)。そこで、例えば、朝活として企業や自治体独自の音楽体操を行う、休憩時間に音楽を流して気分転換や安らぎを得る等はいかがでしょうか。</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキングホリデーでカナダに滞在、演奏活動。 ・小学校教員後、音楽教室を主宰、地域で音楽療法や演奏活動。 ・学校教育学博士(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科)。 ・就実短期大学、講師。 	<p>その他、音楽教育と音楽療法を融合させたプログラムの作成や実践をします。企業内での誕生日パーティーや設立記念パーティーで演奏した経験をもとに、ポップス、クラシック、ジャズ等の演奏依頼もお受けします。発達支援関連や教育関連の事業へのご協力もできます。</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本音楽教育学会 ・日本音楽療法学会 ・日本質的心理学会 ・日本対人援助学会 ・日本保育学会 	<p>ご質問やご依頼がございましたら、お気軽にご連絡ください。 喜んでサポートします。</p>
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員専修免許 ・中学校・高等学校音楽教員専修免許 ・社会福祉士 ・日本音楽療法学会認定音楽療法士 	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p>
<p>山下世史佳・松本健義, “Process leading up to a one-year-old singing a song that they like”, Proceedings of APSMER(The 13th Asia-Pacific Symposium for Music Education Research) Tokyo (2021)</p> <p>山下世史佳・虫明真砂子・松本健義,「アマチュア声楽家の歌によるライフストーリー—歌うことによる人生のかたちづくり—」,『質的心理学研究』, No. 20(2021)</p>	<p>皆様とお会いできることを楽しみにしております。</p>

芸術 ファッションデザイン

keyword

ファッションデザイン
デザイン教育普及
インスタレーション
芸術
ワークショップ



久保 美沙登
Misato Kubo

生活実践科学科
准教授

【プロフィール】

九州大学芸術工学府後
期博士課程満期退学

【主な社会的活動】
市立図書館でのワークシ
ョップ講師
市立小学校の学童でワー
クショップ講師

【その他】
代官山インスタレーション
2003 審査員特別賞受賞
(2003 年)

第 5 回 SICF 審査委員賞モ
エ・エ・シャンドン賞受賞(2004
年)

越後妻有アートトリエンナー
レ 2006 プロポーザルコンペ
ディション入 選(2006 年)

越後妻有アートトリエンナー
レ 2009 プロポーザルコンペ
ディション入 選(2009 年)
まちなかアートギャラリー福
岡 2012 プロポーザルコンペ
ディション入 選(2012 年)

【代表的な研究テーマ】

ファッションデザイン教育普及のための教材研究

代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明

衣服と日常のモノを融合させるというコンセプトを発展させながら、数々のコンペティションに応募し受賞。2004 年に MHD ディアジオ・モエ・ヘネシー株式会社からの依頼を受け、「メゾンモエ@東京」というシャンパンバックを制作。それ以降にオリジナルデザインのバッグを展開し、ポールスミス UK や六本木ヒルズ森美術館のミュージアムショップにおいてセレクトされ販売された。

東京での作品制作とロンドンへの留学の経験が大きく現在に影響している。「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ」や「さいたま市大宮盆栽美術館」での展示など、プロジェクトを進める上で地域文化の調査や予算組や協賛企業との会議、地域住民との話し合いや、また作品と連動した地域でのワークショップを開催し芸術の持つ教育的な側面を大事に活動し続けている。

近年の企業連携としては、クリスマスディスプレイの制作と展示、ペーパーファッションの展示会、(2016 年ー2019 年)それら展示に関連するワークショップの開催を行った。

●三井アウトレットパーク倉敷との企業連携の実践例
《クリスマスオブジェ作成》

三井アウトレットパーク倉敷の各ショップから協賛していただき集めた商品を使い、准教授久保美沙登とファッション・テキスタイル分野の学生たちでクリスマスツリーをイメージしたオブジェを制作します。制作したオブジェは、当施設のイベントステージにて 11 月 26 日(日)～12 月 25 日(月)の期間中展示いたします。学生たちの豊かな感性をお楽しみください。

- 展示期間:2017 年 11 月 26 日(日)～2017 年 12 月 25 日(月)
- 展示場所:1F イベントステージ

《ワークショップ》

当施設内の各ショップから集めた商品や、シール、ビーズなどのデコレーション素材を三角錐形の厚紙に貼りつけて、世界でひとつだけのオリジナルクリスマスオブジェづくりを体験していただけます。

- 開催日:2017 年 11 月 26 日(日)
- 時間:①11:00～12:00 ②12:00～13:00 ③13:00～14:00
- 場所:1F イベントスペース
- 定員:各回先着 30 名様 ※定員に達し次第受け付け終了
- 参加費:無料



企業・自治体等へのメッセージ

就実短期大学は5年目です。それ以前は倉敷芸術科学芸術学部でファッションテキスタイルを担当していました。短大ではファッションデザイン実習を担当し、講義では服飾歴史を担当しています。ファッションデザイン、グラフィックデザイン、染色、美術、デッサンなど幅広く対応可能です。ファッションは産業と結びついた分野です、企業連携をお考え是非ご相談ください。

<p>農業経済学</p> <p>keyword</p> <p>農産物流通 学校給食 地産地消 食品卸 放牧養豚</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>学校給食で活用される地場産食材・食品の流通</p>
	<p>代表的な研究テーマや課題解決に役立つシーズの説明</p>
<p>脇谷 祐子 WAKIYA Yuko</p>	<p>〈現在進めている研究課題〉</p>
<p>生活実践科学科・講師</p>	<p>・学校給食向け地場産食材・食品の流通に関する研究</p> <p>地産地消型学校給食が全国的に展開されております。地場産の生鮮食材（農畜水産物）、地場産原料を使用した加工食品の流通の研究を進めるため、学校、学校給食会、生産者・農協等の生産者組織、納入業者、配送業者、卸売市場、食品製造業者等への調査を行なっております。地域社会・地域経済の持続可能性と課題を明らかにしたいと考えております。</p>
<p>【プロフィール】</p>	<p>・放牧養豚による有畜農業に関する研究</p> <p>これまで、個人経営体を対象に放牧養豚に取り組む事例を対象に研究を進めて参りました。しかし、農業資材価格高騰が生産者を直撃していることから、地域で取り組む有畜農業へと対象を広げ、国内農業の維持・存続のため地域的に取り組んでいる事例から、成立条件・存続条件を見出すことを目的にしております。</p>
<p>北海道大学大学院農学院博士後期課程修了 博士（農学）、高等学校教諭（家庭科）、北海道地域農業研究所での専任研究員を経て、2022年4月より現職。</p>	<p>・現代流通における食品卸の役割に関する研究</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <p>日本流通学会（監事） 北海道農文協（事務局次長） 日本農業市場学会 日本農業経済学会</p>	<p>今日、チェーンスーパーの地域寡占化がすすみ、インターネット流通が台頭し、流通を大きく変革しつつあります。また、人工減少社会に突入し、その影響は地方においてより深刻です。さらには「2024年問題」を始めとする物流危機への対応は待たなしの状況となっています。こうした状況の変化に、食品卸がどう対応しようとしているのか、どのように対応して成果を上げているのかを明らかにすることを課題としております。</p>
<p>【その他】</p> <p>・坂爪浩史監修/日本流通学会編集(2023)『現代流通事典第3版』脇谷祐子「地場産物活用と学校給食」p. 226</p> <p>・井上淳生・脇谷祐子(2023)「農業雇用労働力需給におけるwebシステム中心型接合」『農業市場研究』31(4):25-35</p>	<p>企業・自治体等へのメッセージ</p> <p>研究から明らかにした結果をみなさまと共有し、現場で抱えている課題に対し貢献したいと存じます。</p>

施設名

吉備地方文化研究所

概要、設立の経緯

吉備地方文化研究所は1990年、就実大学人文科学部・就実短期大学の教員有志により、岡山県地域を中心とした歴史・文化の研究を目的として設立されました。現行の規程は「人文知の拠点として吉備地方文化の理解に繋がる研究を行い、地域文化の発展に寄与することを目的とする（規程第2条）」となっており、地域社会における文化の発展にも寄与するものです。研究調査・資料収集を行う他、研究会・公開講座なども開催しています。

主な活動内容

1) シンポジウム「人文知のトポス」の開催

テーマ「グローバリズムを超えて:あるいは『世界を毛羽立たせること』」、「人の移動・文化・精神」、「〈知〉の在処としての『周縁』」、「吉備津神社をめぐる風土と文学」、「災害と地理学」、「岡山と古典文学の世界」、「室町の文芸を語ろう!」など

(2) 紀要『吉備地方文化研究』の刊行

(3) 古文書資料集の刊行（吉備地方中世古文書集成シリーズなど）

備前西大寺・安養寺・本蓮寺文書、備前西大寺縁起絵巻など

(4) 岡山県域における文化財（美術品など）の調査研究

(5) 岡山県域における近世・近代古文書の調査研究

(6) 倉敷市域を中心とした近代文学資料の調査研究

(7) 岡山県域に関係深い哲学者の著作の講読会

哲学者・三宅剛一の著作の講読会の開催

(8) 中世古記録（日記）の講読会

『実隆公記』を読む会（月1回）の開催

(9) 随時の講演会

2023年度は「古代・中世の病気治療」「服部半蔵の虚像と実像」を開催

対応可能な分野

(1) 地域社会や企業の有する歴史資料の読解

(2) 地域社会における歴史・民俗の調査研究

(3) 地域社会における観光資源の発見と提案

(4) 地域社会の歴史についての講演

施設名

就実心理臨床センター

概要、設立の経緯

就実心理臨床センターは、2015年に開設された就実大学心理教育相談室を引き継ぐ形で2021年、「臨床心理学(心理臨床学)に関する研究及び研究指導、並びに臨床心理士及び公認心理師の養成訓練を行い、併せて地域社会の心理臨床にかかわるサービス要請に資すること」(規定第2条)を目的として設立されました。就実心理教育相談室では、地域社会の皆さんに対する心理臨床サービスの提供を通してこころの健康支援に寄与する他、地域の教育関係・心理専門職に対する研修会等も開催しています。

主な活動内容

- (1) 適応上の困難を抱えた地域社会の人およびその関係者に対する心理相談の提供(カウンセリング、プレイセラピーや親子並行面接、コンサルテーション等)
- (2) 教育学部・教育学研究科での臨床心理士及び公認心理師の養成訓練、修了生の修了後訓練
- (3) 臨床心理学(心理臨床学)に関する学内実習及び研究指導
- (4) 地域社会の教育専門職、臨床心理専門職に対する研修(公開研修会や研究会等)
- (5) 心理臨床の専門的援助に関わる諸機関との連携
- (6) 心理臨床実践に関する調査研究

対応可能な分野

- (1) 地域社会や企業における心理学的支援に関する助言や実践
- (2) 地域社会や企業でのこころの問題に関する講演
- (3) 地域社会や企業でのこころの問題に関する調査研究



施設名

就実教育実践研究センター

概要、設立の経緯

概要

就実教育実践研究センターは、乳幼児教育・初等教育及び教員養成に関する教育・実践・研究を行い、地域の教育・保育の充実振興に寄与することを目的とした施設です。2017年に竣工された就実大学のB館には、「大講義室」、「スタディールーム」、「教育学部関連実習室・演習室」、「会議室」などの他、200人収容の学生ホール「B-コモンズ」があります。本センターはB館の3階にあり、同じフロアの教職に関する情報収集エリア「教職ラウンジ」では、教職関係の広報誌や学習機会案内、新聞各紙など、自由に閲覧することができます。

また、当センターでは、「就実子育てアカデミー」の運営も行っています。本学の委員だけではなく、NPO法人の役員、連合町内会長、関係行政機関の職員等の外部委員から組織する「就実子育てアカデミー実行委員会」がその準備、円滑な運営を担っています。

沿革

就実教育実践研究センターは、就実短期大学幼児教育研究センターを前身とし、就実大学人文科学部初等教育学科(当時)の開設を機に、機能のさらなる充実と発展をはかるため、2007年に開設されました。現在は、就実大学教育学部(初等教育学科および教育心理学科)と就実短期大学幼児教育学科によって共同運営されています。

主な活動内容

機能

- ・乳幼児教育・初等教育・保育士及び教員養成に関する研究を推進すること。
- ・地域社会との連携を深めながら研究成果を地域社会に還元すること。
- ・卒業生や現職教員・保育士の再教育の場を提供すること。
- ・学生の実践力・応用力、協力精神・奉仕精神を育成する体験学習の場を構築すること。

就実教育実践研究センターは、以上4つの機能をもつことにより、研究者間、大学と社会(地域社会や教育保育現場)、学生と教員、学生間など、乳幼児教育・初等教育・保育士及び教員養成に関する実践と研究に関わる人びとを相互に結びつける中心的な場(センター)となることを目指します。

事業内容

1. 研究事業

教育実践に関する研究の推進、教育実践に関する研究助成の企画・公募・審査、教育実践に関する研究会の企画・開催等。

2. 出版事業

センター研究誌『就実教育実践研究』の年1回の発行。

3. 研修事業

在学生・卒業生や現職教員・保育士を対象としたセミナーの企画・開催(『就実教育実践セミナー』等)。

4. 子育て支援事業

地域の親子対象の交流の場の構築(「親子ふれあいタイム」の開催、「ふれあい通信」の発行等)。

対応可能な分野

- (1) 現職教員・保育士を対象としたセミナーの企画・開催。
- (2) 地域の親子を対象とした子育て支援。(親子の交流の場の構築、テーマ別ミニ講座)

施設名

就実大学薬学部臨床薬学教育研究センター 所在地:岡山県岡山市西川原 1-6-1

概要、設立の経緯

2003年4月の就実大学薬学部創立当初から病院薬剤実習センターとして薬学棟3階に開設され、2015年4月より現在の臨床薬学教育研究センターに名称変更がなされました。開設時の主な業務内容としましては、学生が薬剤師職務を学ぶ場、及び、学生の実務実習に関わる業務全般を担う部署としての位置づけでしたが、名称変更に伴い、従来の業務に加えて、卒前・卒後における臨床に特化した薬学教育並びに臨床薬学研究を実践しています。本センターは5年以上の豊富な臨床薬剤師経験を有する6名の実務家教員を含む計9名の教員で運営しています。

主な活動内容

4年次の実務実習事前学習では、センター内の模擬調剤室、模擬病室、DI室、無菌製剤室等を活用し、年間を通じて実務実習に向けての準備教育を行っています。また5年次の病院・薬局実務実習では、センター所属教員が中心となり、各種調整や実習施設訪問による指導薬剤師ならびに実習生の面談等を通して、実習の円滑な実施に尽力しています。さらに、就実大学薬学部附属薬局をはじめとする主に岡山県内の医療施設とも連携して、1～3年生の低学年時からの早期臨床教育にも力を入れるとともに、薬学部の学生も聴講可能な薬剤師卒後教育の実施にも協力しています。このように臨床現場と薬学生を繋げ、将来の薬剤師としての自覚を養い、学修へのモチベーションを高める役割を果たしています。これらに加え、国が推進しているICTを活用したオンライン服薬指導等に対応できる人材の育成や地域の自治体等と連携した地域住民の健康維持増進を目的とした取り組みを実践し、研究に繋げています。

対応可能な分野

- 薬学的臨床研究(共同研究を含む)
- 薬学生のキャリア形成に向けたイベントの企画・実施
- 地域住民の健康維持増進を目的とした活動の提案
- 臨床薬学に特化したICT活用事例の紹介
- 薬剤師に対する最新の臨床薬学教育の実施・支援
- その他、薬学教育に関すること



フィジカルアセスメント教育



地域の公民館でのフレイルチェックボランティア



センター内の設備

施設名

就実大学薬学部附属薬局(しゅうじつ薬局) 所在地:岡山県岡山市北区田益 1291-1

概要、設立の経緯

2019年8月5日、就実大学薬学部は中国四国地方初となる、薬学部附属薬局を開局しました。1階は処方せんによる調剤や一般用医薬品・衛生材料等の相談・販売・投薬を行うスペースを有する保険調剤薬局、2階はサテライトキャンパスとして講義室や研修室があり、薬学部学生や近隣住民への講義や講習会に活用しています。さらに安全キャビネットやクリーベンチを有しており、細胞毒性を有する医薬品の調製や高カロリー栄養輸液等の混注など幅広い調剤に対応しています。我々のコンセプトは「学べる薬局」です。地域の皆様や学生に適切な知識や情報を提供し、ともに歩んでいきます。

主な活動内容

- 1) 保険薬局としての調剤・在宅業務
- 2) 一般用医薬品や衛生材料・保健機能食品等の相談応需と販売
- 3) 薬学部サテライトキャンパスとしての実学環境の提供
- 4) 毎月のテーマに沿った健康サポート活動の実施
- 5) しゅうじつ薬局便りの作成・配布(年6回発行)
- 6) 防災持ち出し袋の提案(年1回更新)
- 7) 薬学実務実習生の受け入れ(昨年実績:Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期 合計9名)
- 8) 近隣住民向けへの講習会(年2~3回)
- 9) 臨床教育及び臨床研究への協力
- 10) 地域の防災・災害対策活動への参画
- 11) 地域の学校薬剤師活動
- 12) 「こども薬剤師体験」や中学生の職場体験の受け入れ
- 13) 学生企画による地域貢献活動の実施(年1回)
- 14) 他薬局との連携(無菌調剤室の提供など)

対応可能な分野

- 地域の皆様への適切な薬学的情報の提供
- 地域社会が有する医療的な相談事項の解決
- 地域の皆様の健康サポート
- 地域社会への防災・災害対策への提案
- 共同研究も含めた薬学的臨床研究
- 学生に対する臨床教育の実施・支援



就実大学・就実短期大学
研究シーズ集 2023 No.3

印刷：令和5年12月12日

発行：令和5年12月20日

発行者：〒703-8516

岡山市中区西川原1-6-1

就実大学・就実短期大学

産学官地域連携センター（庶務課）

印刷所：旭総合印刷株式会社

〒700-0824

岡山市北区内山下2-10-3